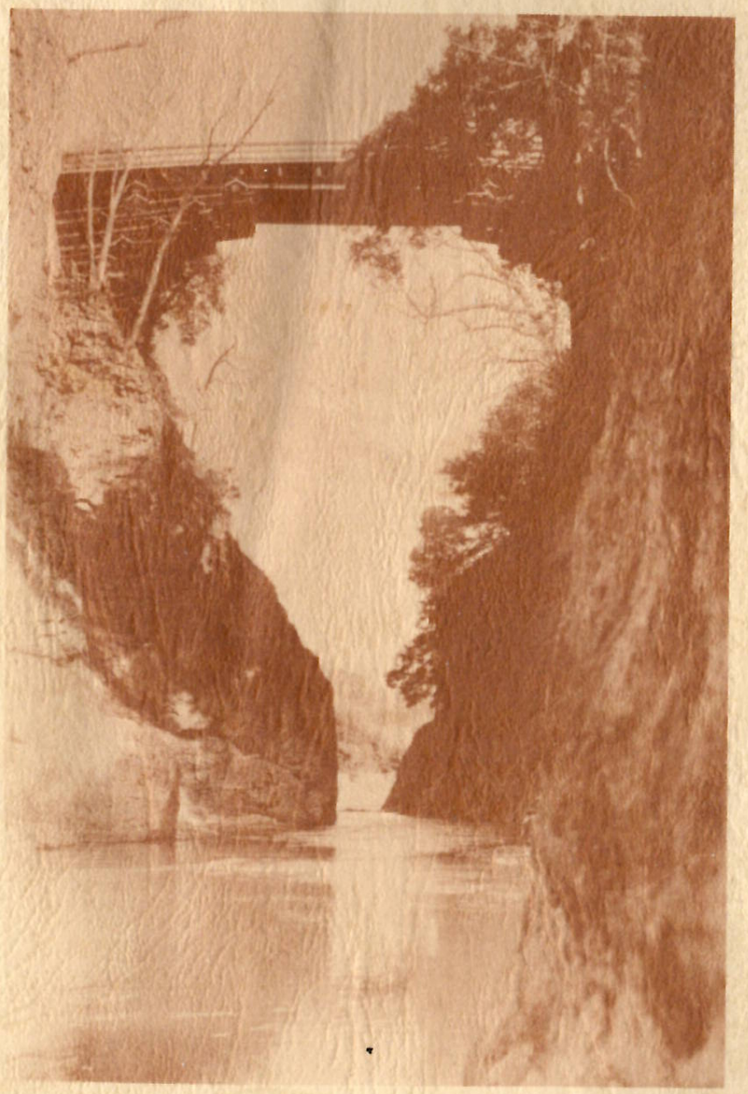
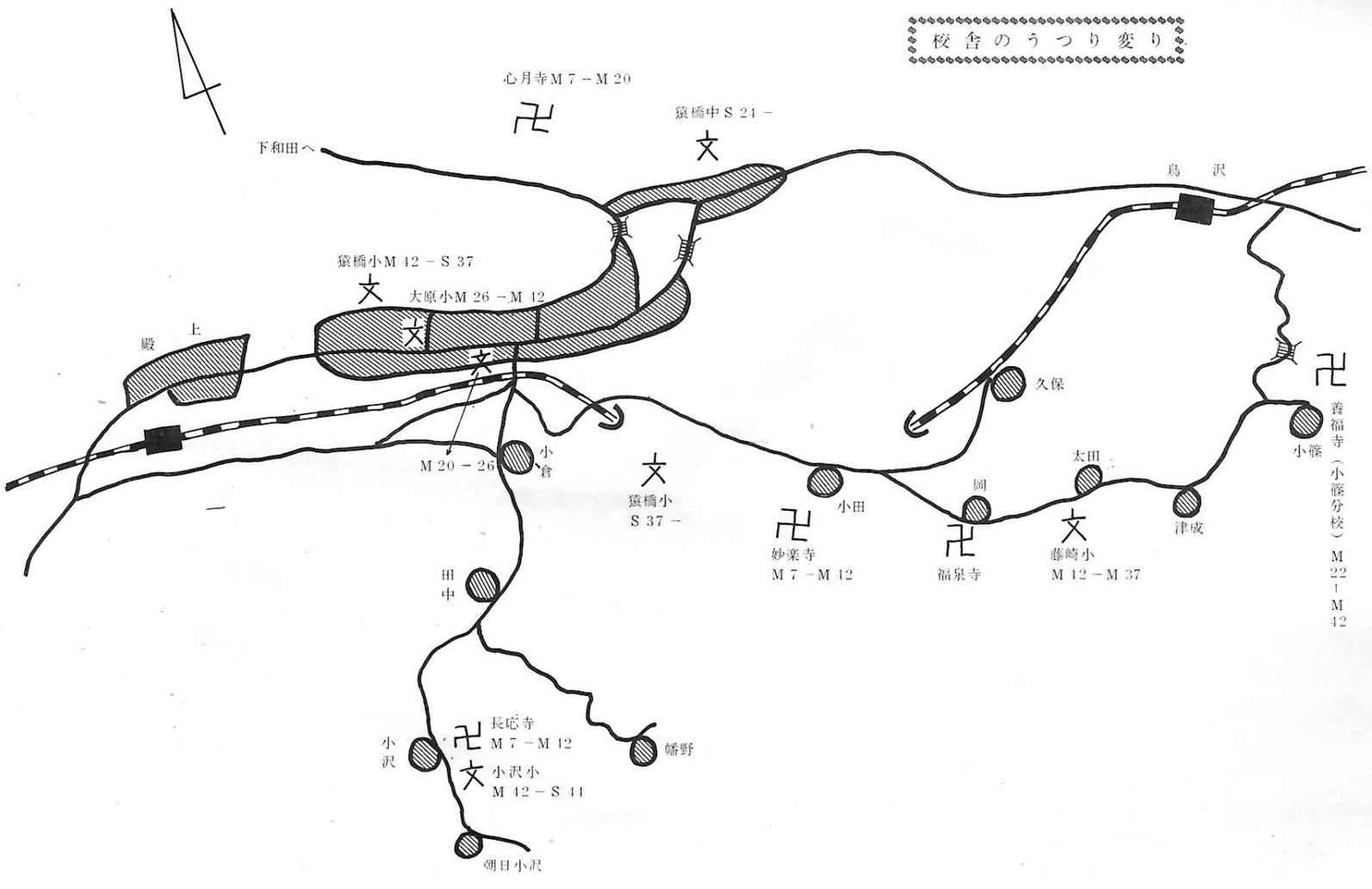
創立百周年記念誌

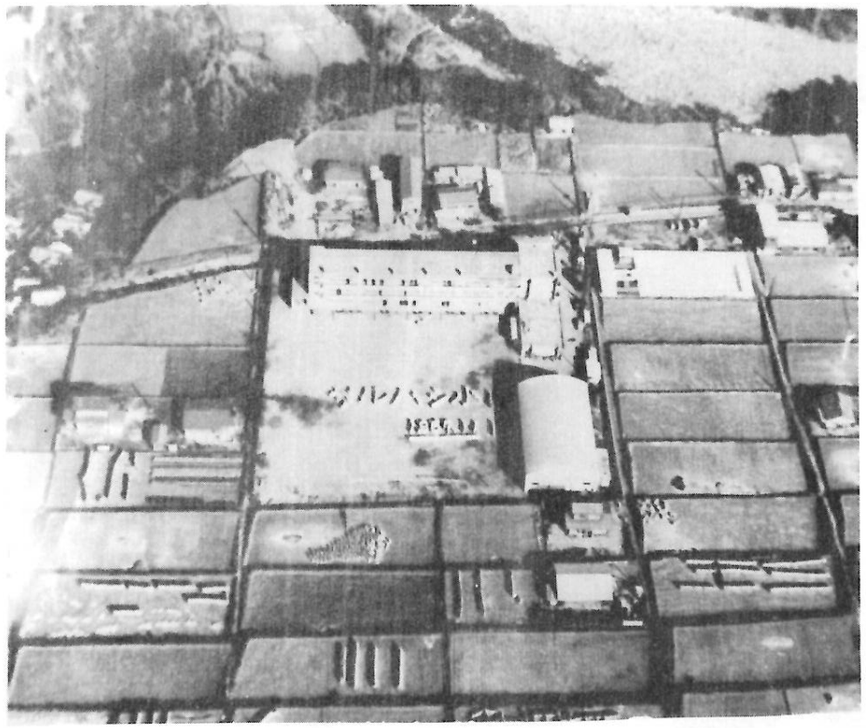
螢雪百年



大月市立猿橋小学校

校舎のうつり変り


心月寺M 7 － M 20
猿橋中S 24 －
下和田へ
鳥　沢
猿橋小M 42 － S 37
大原小M 26 －M 42
殿
上
久保
養福寺（小篠分校）M 22 － M 42
小篠
M 20 － 26
小倉
猿橋小
S 37 －
小田
太田
岡
津成
妙楽寺
M 7 － M 42
福泉寺
藤崎小
M 42 － M 37
田中
長応寺
M 7 － M 12
小沢
小沢小
M 42 － S 44
幡野
朝日小沢



飛行機より見た現校舎

猿橋小学校校歌

詞　小泉善信
曲　坂口五郎

（一）
桜の花の　咲き匂う
ゆかりもしるき我が校は
明治七年　七彩の
雲とかゝれる猿橋の
名所負いて　生れ出で
世々の誉を　担うなり

（二）
芙蓉の峯に　露うけし
桂の川は　淵澄みて
千尋の底に　かゞよえる
真珠白玉　拾わんと
日々にいそしむわが友の
永久の姿を　示すかな

（三）
栄ゆく御代の春秋を
この山川に　迎えつゝ
みことの旨をかしこみて
良き日の本の人となる
望ゆたけき　わがどちの
誠の声の　尊しや

校舎起工式

藤崎小学校々歌

詞曲　沢登　泉

(一)
ゆかりも深い　猿橋の
谷を流れて　真青に
澄んだ一すぢ　桂川
私たちの　心です

(二)
緑の村の　野に山に
かおる紫　藤の花
みんな仲よく　手をつなぐ
私たちの　しるしです

(三)
夜明けの空の　ばら色に
映えて気高く　たくましい
高畑山の　朝雲は
私たちの　希望です

(四)
山かげめぐり　ゆく水も
末はうるおす　幾十里
私たちも　生い立って
国の栄えに　つくします

小沢小学校々歌

詞　知見　好文
曲　天野　文雄

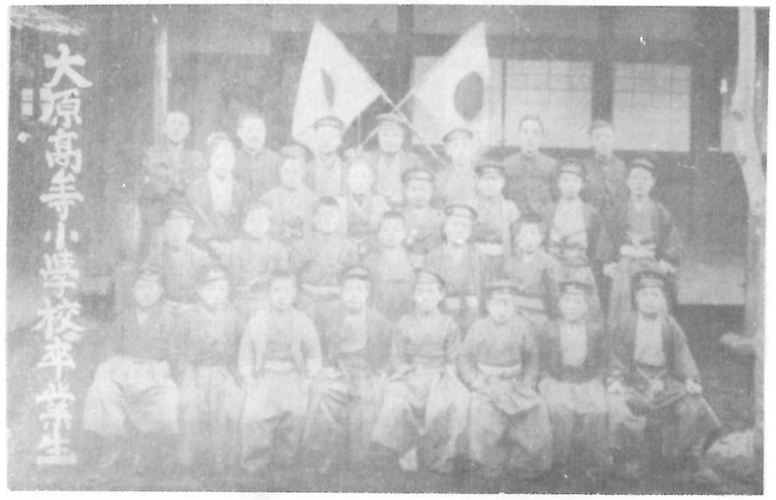
(一)
高座山の　朝風に
自由の鐘の　鳴るところ
文化の庭の　露ふんで
磨く心と　このからだ

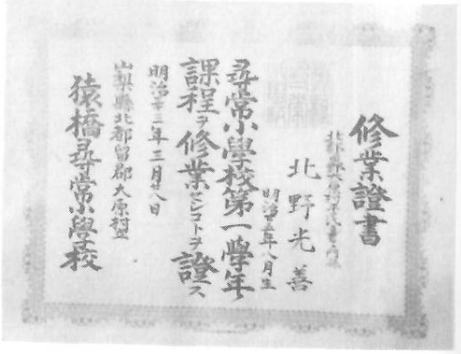
(二)
小沢の流れ　水清く
民主の光り　さすところ
強く明るく　生い立ちて
進む希望の　第一歩

(三)
平和求めて　羽ばたきつ
親鳩子鳩　寄りそいて
明日の巣立を　夢みつゝ
いそしむ小沢　小学校

思い出のアルバムより（その1）

明治中期





修業證書

北野光善

尋常小學校第一學年課程ヲ修業シタルヲ證ス

明治三十二年三月三十一日

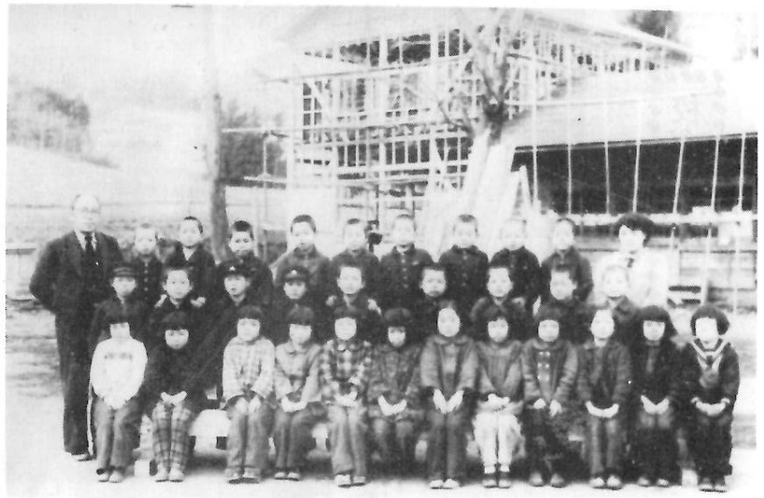
岩手縣北都郡大原村

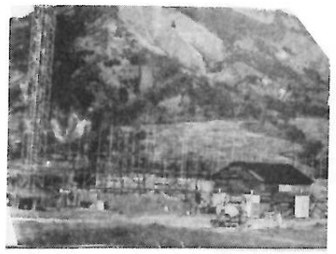
猿橋尋常小學校

明治後期

大正初期

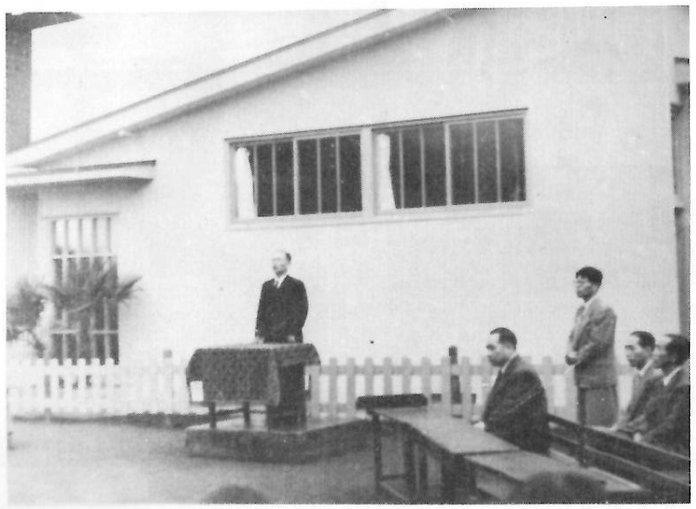
藤崎小独立期





統合校舎基礎工事

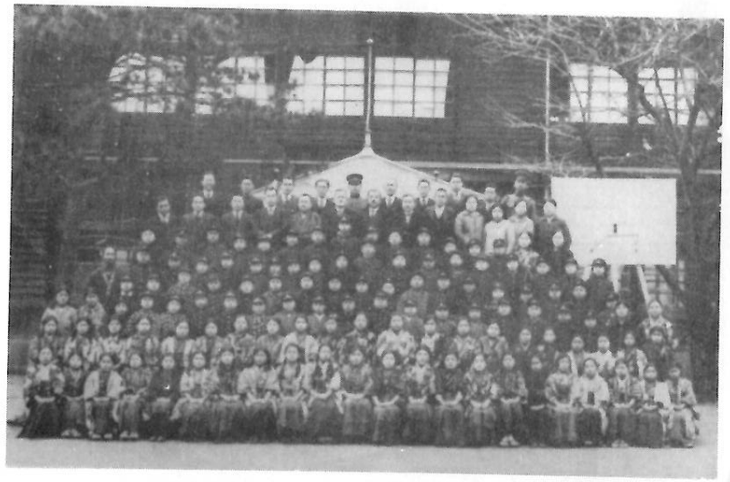
小沢小独立期



八十周年記念図書館落成

羽田千年氏作品

大正中期

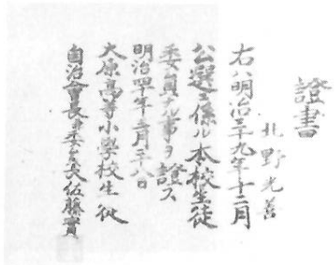


大正後期

昭和初期

思い出のアルバムより（その２）

こんな時代もあった



證書

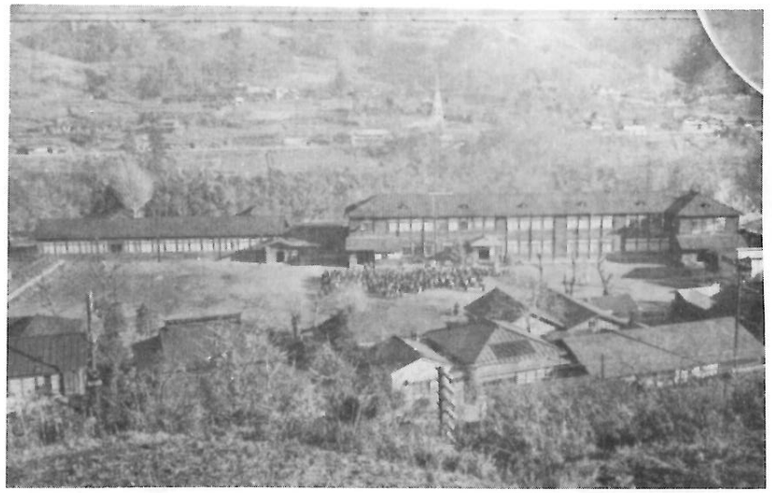
北野光蔵

右ハ明治三十九年十二月
公選ニ係ル本校生徒
委員タル事ヲ證ス
明治四十年三月三十八日
大原高等小學校生徒
自治會長井上文伝藤實

運動会風景

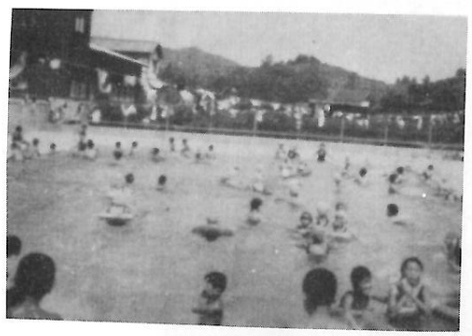
戦時下の学芸会

校舎のうつりかわり



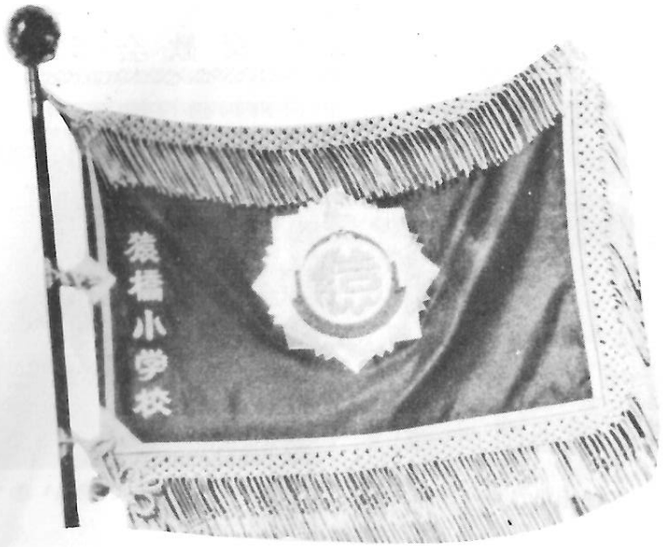
大正昭和40年間の旧校舎

大月市初の近代校舎



プールも出来たよ

屋体全景



ゆかりある校旗

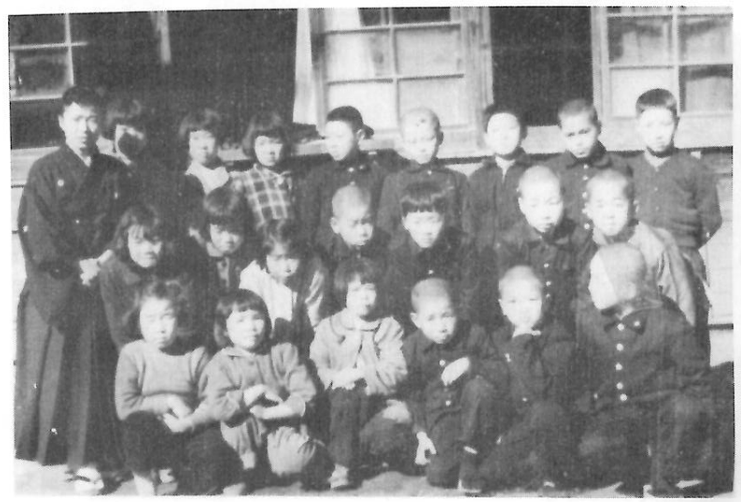
鍵形校舎も↓

こんなに変って

貯蓄表彰盾

戦争時代かな

女校長さんも（藤崎）

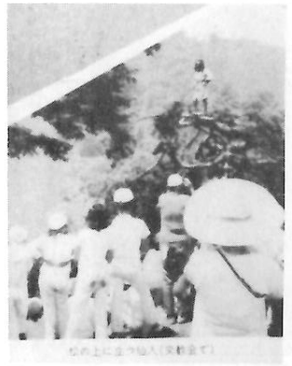


これでも一学級（小沢）

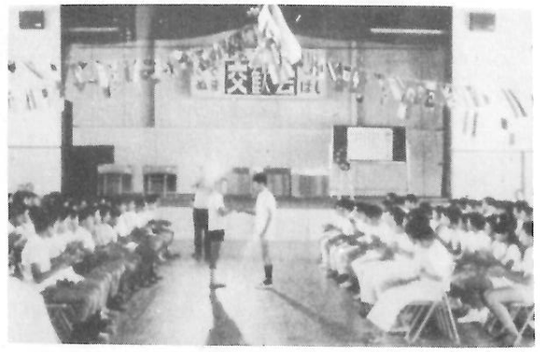
目次

祝辞・挨拶 …… 1
百年の歩み …… 32
誇れ猿小 …… 37
旧師寄書 …… 70
故人追憶 …… 75
同窓生から拾う …… 83
黙々と下積の力 …… 89
歴代会長回顧 …… 96
佳き年に際会して …… 110
百周年記念事業のあらまし …… 111
編集あとがき

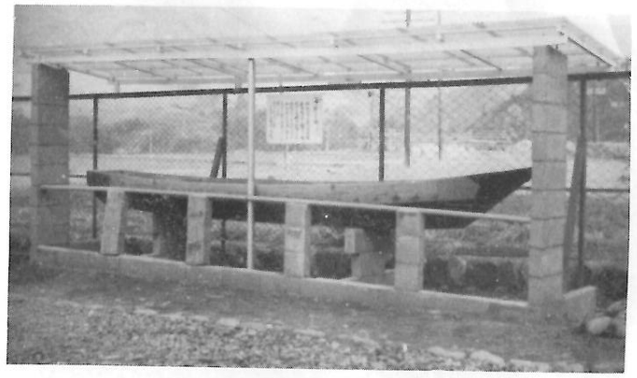
忘れられない交歓会(S35～45)



高畑山仙人と

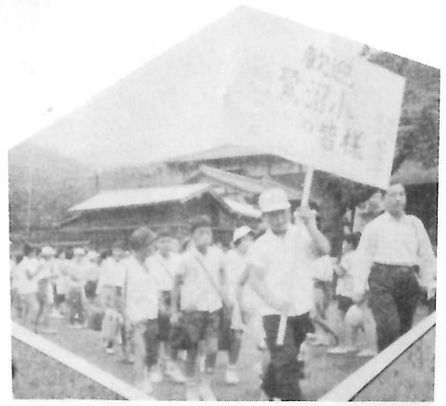


講堂であいさつ



鷺沼の海苔舟

鷺沼の海



猿橋駅頭

鷺沼校門

祝　辞

大月市長　志村　寛

猿橋小学校創立百周年にあたり一言お祝を申し上げます。

まず、創立されてより今日まで百年という長い年月、幾多の困難を克服し、営々として教育に従事され、数多くの有為な人材を輩出させて本校の今日の隆盛の基を築かれてきた歴代の諸先生並びに関係各位の御努力に対し心から敬意と感謝の意を表わすものであります。

学校制度は、明治政府により今から大体百年以前に創設されたものですが、幕政時代には「知らしむ可からず依らしむべし」というのが政治の基本理念でありましたが、明治政府は国を興し民族の繁栄を計るには国民に広く教育を推し進めてゆかなければならないとして教育制度を発足させたといわれております。

それ以来先人の種々の努力があり、現在の世界に誇りうる義務教育制度が確立されたのであります。

日本が敗戦後わずか二十数年にして今日の隆盛をみることができたのは、この国民皆教育の成果のあらわれであると思われます。

このようなことからも教育の重要性は認識されるわけですが、本校で学ばれる児童のみなさんは伝統ある母校の歴史を顧りみ、このような立派な学校で学ぶ幸を喜び、諸先生の御指導のもとに一層元気で勉強に励まれますよう。また、諸先生並びに関係各位には本校の発展のため一層の御努力、御協力をお願いいたしまして祝辞といたします。

お目出度う百周年

大月市教育委員長　大沢良作

古きゆかりの猿橋と
共に歩みし　百年の
教の道を　かえりみつ
又躍進を　誓い合う
峡にとどろく　民の声

私は創立百周年を迎えられた猿橋小の関係者の皆様に、この一節をお贈りしつゝ、衷心より祝意を申上げる次第であります。

「邑に不学の家なく、家に不学の徒勿れ」という、明治の先達の意に沿って、学制発布以来、玆に百年――一世紀の立派な足跡を残されたことに深い感懐を覚えるものであります。

即ちその間、国運の消長と共に、辿り来た幾多の曲折と波瀾を思いつゝ、何よりも特筆すべきは、当校はわが大月市における第一号の統合校であり、加うるに校舎の永久建築も亦、第一歩という記念すべき学校であります。

そして十有数年の経過の中での、新らしい教育への雄図に欠くことの出来ない、各種の新教育機器もまた、常に他校に先駆けて充実して参ったのでありますが、科学技術の躍進に追着くため、特に記念事業として、第一にその更新充実を完成せられましたことに対し、極めて時宜を得たものと敬意を表する次第であります。

栄光ある伝統をふまえて、好環境の学び舎に、学習を続ける五百の児童、その後盾となるＰＴＡ、更に三千の町民、とりわけ、人間形成の中核となられる教職員の皆様に対しまして、この佳き日のために、私が念願するあるべき教育のための愚言を挙げて、提言といたし祝辞を結びます。

祝　辞

大月市長　志村　寛

猿橋小学校創立百周年にあたり一言お祝を申し上げます。

まず、創立されてより今日まで百年という長い年月、幾多の困難を克服し、営々として教育に従事され、数多くの有為な人材を輩出させて本校の今日の隆盛の基を築かれてきた歴代の諸先生並びに関係各位の御努力に対し心から敬意と感謝の意を表わすものであります。

学校制度は、明治政府により今から大体百年以前に創設されたものですが、幕政時代には「知らしむ可からず依らしむべし」というのが政治の基本理念でありましたが、明治政府は国を興し民族の繁栄を計るには国民に広く教育を推し進めてゆかなければならないとして教育制度を発足させたといわれております。

それ以来先人の種々の努力があり、現在の世界に誇りうる義務教育制度が確立されたのであります。

日本が敗戦後わずか二十数年にして今日の隆盛をみることができたのは、この国民皆教育の成果のあらわれであると思われます。

このようなことからも教育の重要性は認識されるわけですが、本校で学ばれる児童のみなさんは伝統ある母校の歴史を顧りみ、このような立派な学校で学ぶ幸を喜び、諸先生の御指導のもとに一層元気で勉強に励まれますよう。また、諸先生並びに関係各位には本校の発展のため一層の御努力、御協力をお願いいたしまして祝辞といたします。

お目出度う百周年

大月市教育委員長　大沢良作

古きゆかりの猿橋と
共に歩みし　百年の
教の道を　かえりみつ
又躍進を　誓い合う
峡にとどろく　民の声

私は創立百周年を迎えられた猿橋小の関係者の皆様に、この一節をお贈りしつゝ、衷心より祝意を申上げる次第であります。

「邑に不学の家なく、家に不学の徒勿れ」という、明治の先達の意に沿って、学制発布以来、茲に百年――一世紀の立派な足跡を残されたことに深い感懐を覚えるものであります。

即ちその間、国運の消長と共に、辿り来た幾多の曲折と波瀾を思いつゝ、何よりも特筆すべきは、当校はわが大月市における第一号の統合校であり、加うるに校舎の永久建築も亦、第一歩という記念すべき学校であります。

そして十有数年の経過の中での、新らしい教育への雄図に欠くことの出来ない、各種の新教育機器もまた、常に他校に先駆けて充実して参ったのでありますが、科学技術の躍進に追着くため、特に記念事業として、第一にその更新充実を完成せられましたことに対し、極めて時宜を得たものと敬意を表する次第であります。

栄光ある伝統をふまえて、好環境の学び舎に、学習を続ける五百の児童、その後盾となるＰＴＡ、更に三千の町民、とりわけ、人間形成の中核となられる教職員の皆様に対しまして、この住き日のために、私が念願するあるべき教育のための愚言を挙げて、提言といたし祝辞を結びます。

(一)　いかなる世にあっても、教育の道は最も崇高なる人づくりの業でありたい。
(二)　いかなる時にあっても、教育の姿は最も床しく、清いものであることを認識されたい。
(三)　いかなる場にあっても、教育の要は、愛と情熱の流れを忘れずつゞけられたい。

百一年目の出発に望むことばとして――。

創立百周年によせて

百周年記念実行委員長　大野四郎

光陰矢の如しとか時代は流れ時は移り今日此の日猿橋小学校創立百周年の誠に記念すべき日を迎え、地域住民こぞって祝福いたすべき記念事であると存じます。

創立当時はおそらく寺小屋式の教育から始まり小沢分校、又、藤崎分校とそれぞれの独立の時代を経て又猿橋小学校へ統合となり、誠に複雑な沿革をたどり其の間各地区におきましても御父兄の間に種々の問題も多く、多難な時期を過した事と存じます。

然しながら、昭和三十五年藤崎小学校の統合をなし得、又小沢小学校も統合いたし名実共に充実し得た猿橋小学校になりました事を心からお祝い申上げる次第でございます。

其の間八千数百人に及ぶ卒業生を送り出し、社会の発展、日本国の隆盛と皆な諸先輩の皆様の御努力による事と深く感謝いたす次第でございます。

この輝やかしい記念を永遠に祝い後世に語り伝えるためにいくつかの記念事業を計画いたし、御理解ある地域の皆様や卒業生諸氏から多額の浄財が寄せられ皆な教育の向上に必要な施設の事業に向けられたのでございます。

こゝに、改めて御礼申上げる次第でございます。

私共此の時代に生を受け、此の一つの大きな節に此の体で記念事業を行う事が出来ました事は誠に此の上なき名誉である

と同時に、又次の世紀への大きな責任を感ずるものでございます。過去百年を振り返り数々の思い出が去来いたすでございますが、教育の重要性を今日ほど強く感ずる事はございません。

どうか次の世紀に向い、ますます御父兄の御理解を深め教育の向上に御努力下さらん事をお願い申し上げ、輝やかしい百年祭のお祝の言葉といたします。

猿橋小百年の姿

校長　奈良　仁

富士熔岩流の末端郡内の一角猿橋の地に、まなびやの灯がともって百年、文化の発祥地として、心のふる里として育てられ〃わが日の本の三奇橋それの一なる猿橋は……〃　小さな身体に胸をほこらせながら歌われ巣立っていった多くの先輩の方々、悠久の昔から未来に向って耐えぬいた教育の殿堂としての猿橋小学校、今この学校が一世紀の歴史の幕をとぢようとしています。寺小屋時代から近代社会の建設に対して人材養成に果した役割は、偉大な成果を収めたものであり、学校を守り学校を育てたのは、地域の人々の理解と協力の結晶であったことでしょう。あの校庭の桜、老松、いくたの先輩が汗を流して教育の殿堂として北都留全体に猿橋小ありの感をいだかせ、ほこりをもって教育の推進に歩みを続け今日にいたっております。新たな二十一世紀に向って再び教育の原点をさぐりながら、学校が新しい歴史の扉を開こうとしています。伊良原の地に校舎は移転しても長い間の積み上げた猿橋小教育の灯は輪をひろげ、あかるくもえひろがることと思い、本校の児童が未来社会に役立つような教育実践に最大な努力をはらうことこそ、唯一の道であることを念じつゝ、全人的人間の育成に全力をあげて励まねばならないと、百周年に当たり心を新にするものであります。学級数十四学級、児童数四五七名、職員数二〇名、県下における猿橋小の名声をきずつけることなく長い歴史の重みを感じながら、先人の偉徳をしのび、先輩教師関係者のご努力に感謝すると共に、百一年の創造に向って力強い出発をしたいものであります。

創立百年を祝して

ＰＴＡ会長　小野英雄

猿橋小学校開校百周年を迎え衷心よりお祝申し上げます。明治七年学校の必要性と、新しい猿橋の意気と先人の英断で開校され今日まで幾多の変革の中で歴史と伝統を築き、今年創立百周年を迎えられましたことは意義深いものと思います。

今日思えば諸先輩の教育への情熱が、今日の校舎・体育館・プール等他の学校より早く施設され、児童にとってこのうえないよろこびだと改めて諸先輩の功績に対し感謝しておる次第です。将来をにのう子供達の為、親として社会人として、自分達が出来なかった夢を子供らに託すのはだれもが同じだと思います。教育の尊とさ、ありがたさを、このようなことから学校内部の教育施設が他の学校にくらべて劣っており、日頃、先生も父母もなんとかしたいと願っていたところ、学校創立百年を機会に充実し、近代的高度の教育を、創造性を育てる視野の広い学習を願って、昨年度からこの問題につき学校当局及び町の代表者と創立百年事業として、幾度か話し合いまして御協力をお願い致しまして昨年度九月実行委員会が結成されまして、近代化された教育機器（自主放送が出来るカラーテレビ施設）を第一に設置することになりましたが予算が大きな為、関係者には大変御苦労をかけ、市当局はもちろん、猿橋町居住者の皆様方・卒業者・その他関係機関などの絶大なる御理解、御協力をいたゞき、記念塔、百年の歴史を記した記念誌など出来ましたことに対し厚く御礼申し上げます。

時代も変り人も変りましたが現在の私達が猿橋小の歴史をふりかえり、幾多の先輩の学校教育えの功績に感謝すると共に、教育に携さわっているものとして、この百年を期に心を新たにし、共に手を取りあって本校発展のため、一層努力して行く覚悟です。全ての子どもの幸せを願うＰＴＡとして、この一年間総力をあげ、百年の事業にとりくんで参りましたが、皆様方の期待にそむかぬよう、教師父母が一体となり教育機器が永続し、学習に役立つよう努力していき、古き伝統を温存し益々本校の躍進を心より祈念致しまして、会員にかわりまして御礼の言葉と御挨拶と致します。

百年の歩み

百周年をむかえて

猿橋小学校六年二組　大石　博

歴史と伝統をつくりながらのびてきた、猿橋小学校も、今年で、百周年をむかえました。

百年という長い間に、学校もいろいろなことが変わってきたようです。

昔、この学校は、小柳部落の幼稚園の所にあって、桜の木が校庭の周囲にたくさん植えられていて、校歌にもあるように、花の咲きにおうころはとてもきれいだったそうですが、そのころはまだ、屋体やプールはなく、遊具も鉄ぼうぐらいしかなくて、机やいすは、二つつづきの木製のそまつな物だったそうです。

それにくらべると、今は屋体もプールもあり、遊具はふえ、放送設備も整ったばかりでなく、各教室には学習用のテレビが一台ずつおかれたりして、設備もずっとよくなってきたので、こゝに学ぶぼくたちは、しあわせだと思います。

また、最近いら原の土地には急そくに住む人たちがふえてきているので、学校も、児童数がふえて一そう大きくなるでしょう。

そして、ぼくらの猿橋小学校は、これからも、ますます発展し、施設や設備が整った、内容の豊かな学校になることでしょう。

百年の歩み

年	国のあゆみ	管理者	校長	PTA会長 教育委員 学務委員	学級数 児童数	学校のあゆみ	教職員のうごき
M 7	佐賀の乱						
	平民氏称令						
10	樺太千島交換	詳	詳				
	西南の役						
11	東京府会開会			杉田輝州			
	大久保利通暗殺さる			杉本五右ェ門			
	陸士開校			奈良新五郎			鷹林観月
12	教育令制定			殿村寿豊			平井求
	徴兵令改正			金丸文右ェ門			相馬明照
13	郡区町村会法令出づ			須藤藤兵			小坂政信
				長幡弘道			長幡健一郎
14	警視庁設置	不	不	知見甫五郎			清水正健
				椙本奥右ェ門			辻則勝
15	軍人勅諭発布			佐藤仁左ェ門			岩本大信
16	小作争議起る			知見宗八			竹谷耀
							小野田多門
							田村為之
							竹谷武
							大西森太郎
							白川玉吉
							須藤伊作
							神谷弁吉
							綿引延雄
							近藤政吉
							鈴木国光
							佐野亀吉
							水谷清次
							伊藤栄次郎
					詳	11.13 学制発布により心月寺本堂にて創設 他に藤崎、小沢、小篠三ヶ所に夫々寺小屋方式創設	
					不		

17	恩給令制定				
18	日銀紙幣発行				
19	伊藤内閣成立 北海道庁設置				
20	所得税法制定 陸大令公布 神戸、大阪に電灯会社設立	杉田輝州	小尾幹	佐藤甚左ヱ門 長幡佐一郎	
21	市町村制公布 陸大設立	同	同	不詳	206
22	帝国憲法発布 内閣官制令公布	長幡佐一郎	不詳	不詳	
23	金鵄勲章制定 衆院選挙実施 教育勅語発布 東京、横浜間に電話開通	同	不詳	不詳	不詳
24	上野、青森鉄道開通 濃尾大地震	金丸文右ヱ門	不詳	不詳	不詳
25	選挙大干渉 品川内相辞任	同	不詳	不詳	不詳
26	小作争議起る 日韓談判終了	綿貫市太郎	不詳	不詳	105
27	日清戦争始る	同	詳	杉本為次郎 長幡弘道 原兵三郎	118

5.24 文部視学官視察（授業料）1年十銭　2年十三銭　3年十六銭　4年二十銭

9.1 小篠分校設立

9.21 藤崎恋路坂周辺で秋季運動会

4.1 猿橋、小沢、藤崎合併大原小学校とし、小沢を分校、藤崎を出張所とす。

8.1 本校を心月寺より寿町奈良五郎ヱ門氏宅に移す。

奈良森太郎
池田儀一郎　水越庄太郎
甲谷秋太郎　小鷹逸作
上条倉吉　鈴木信太郎
藤本祐吉　岡部照
杉本為次郎　山田玄学
藤森松太郎　金沢竹次郎
相川平五郎　牧野今太郎
守岡弥太郎　山崎熊太郎
㊥鈴木新太郎　伊藤由松

亀田政末　上条倉吉
藤本祐吉　岡部照
杉本為次郎　鈴木新太郎
山田亀太郎　市川鶴吉

竹谷忠　須藤良平
武見可質　野武清吉
奈良壮甫　浅川敬信
奈良寿太郎　小沢孫太郎

10.1 一学年生の年令調査六才未満は帰宅させる。

10.21 男生徒は筒袖着用の訓

7.25 天皇御真影下賜小沢、小篠、藤崎分校を分離、大原尋常小学校を猿橋尋常小学校とする。

3.15 教育勅語謄本下賜科目（修身、読書、作文、算術、習字、体操）

㊥吉沢通義

㊥藤本義次

㊥奈良豊昇
㊥藤本義次

㊥小笠原徴集

和田熊太郎

和田徳太郎
㊥市川鶴吉　金丸基義
㊥山口誉吉　和田直作

吉沢通義
小鷹逸作　和光三千雄
㊥山口誉吉　和田直作
奈良啓次郎　藤森松太郎
㊥守岡弥太郎　岩崎熊太郎

岡部照
㊥藤本祐吉　甲谷秋太郎

	28	黄海大海戦		不	金丸亥作	
	韓国独立宣言 日清休戦条約 台湾鎮定 京城事変 北白川宮戦死	同	不詳	杉本為次郎 長幡弘道 藤本一重 金丸亥作	142	2.19 令出る 文部参事官視察 ㊥和田熊太郎 和光三千雄
	29	学生スト起る、 三陸大津波 樋口一葉歿	同	不詳	同右	175	8.21 生徒一同、軍に献金す 4.19 郡役所凱旋祝賀会 4.23 県知事視察 7.6 校舎移転 9.20 小杉つや郡下初の女教師となる 9.28 三、四年女子はじめて裁縫を習う ㊥小泉 堅作 ㊥照原 珠 ㊥小杉 つや ㊥小笠原徴集 ㊥河村 良祐 岩波乙之進 三島金次郎
	30	八幡製鉄着工 足尾鉱毒事件 金色夜叉出版 西郷像建立	花田利兵ヱ	不詳	同右	180	8.7 赤痢大発生、十日間休校、一六三人中三十七人死亡 12.13 平田県視学視察 ㊥小侯 政一 ㊥河村 良祐 ㊥奈良 豊昇 岩波乙之進 三島金次郎 ㊥照原 珠
	31	幸徳社会主義ホトトギス発刊 実景映画はじめて出来る	同	不詳	同	203	1.25 5.17 痲疹大流行 手塚視学等視察 ㊥鈴木 寿作

	32	勝海舟歿 農会法公布 政友会内閣出来る	原田忠左ヱ門	不詳	杉本為次郎 吉川倉太郎 長幡治左ヱ門 藤本一重 金丸亥作	210
	33	治安警察法出来る 皇太子御婚礼 義和団事件	正木清重郎	杉本為次郎	同	209
	34	愛国婦人会出来る 星亨暗殺 日赤条令公布 福沢諭吉歿	同	同	同	228
	35	八甲田山行軍遭難事件 猿橋停車場開く 正岡子規歿	奈良重威	同	藤本倬照 手塚清吉 小俣半次郎 吉川倉太郎 長幡治左ヱ門	256
日露関係悪化		1.15 加藤視学視察 9.19 大火全焼八五戸 2.12 県令により小学校服制を規定 3.3 小学校設備規則成る（机二五、腰掛六八新調） 5.18 県知事等視察 9.23 猿橋完工式 ㊥森川 真 ㊥岩尾 さく ㊥市川 鶴吉 ㊥鈴木 寿作 藤本 惣吉 竹沢やすじ 小坂 明誠 杉本為次郎 内藤 重誠 小坂 明誠				
		4.1 新国定教科書使用 9.26 オルガン購入 12.13 三、四年生扇山登山 ㊥岩尾 さく				
4.1 四学級編成となる		5.14 大小便所設置 7.4 石原知事巡視 12.15 三、四年生、第一中学校を参観 ㊥天野 昇 ㊥内藤 重誠 番場 荘吉 藤本 惣吉				

36	幸徳秋水平氏新聞発刊 国定教科書制度公布	長幡健一郎	同	吉杉藤 川本本 倉為倬 太郎郎照	232 （4学級）	1.19 校舎移転　小柳町 ㊀武田　文雄 ㊁竹沢やすじ　昇　天野　番場　荘吉
37	日露国交断絶 黄海大海戦 遼陽大会戦 旅順攻略	藤本倬照	同	吉神杉 川山本 倉一為 太郎作郎	239	3.19 県知事視察 3.23 日露戦記念植樹（米国産三葉松県より下付） ㊀北条　明頼 ㊁清水　秀平　東条　宗憲
38	旅順開城 奉天大会戦 日本海大海戦 ポーツマス条約成る 日露条約調印	同	同	同	281	4.4 県より杉苗八一〇本下付、植林す 4.12 ポプヲ植樹 11.19 三年生高尾山遊覧 ㊀小林品太郎 ㊁小林　三男　清水　喬平 ㊂森川　真　東条　宗憲
39	日本社会党生る 樺太占有 国際無線電信条約調印	同	定月真一郎	同	296 （5学級）	2.28 前校長杉本為次郎氏顕彰会 4.30 丸山招魂社参拝 9.4 日露役出征軍人凱旋大祝賀会 ㊀原　つる代 ㊁北条　明頼　小林品太郎
40	樺太庁官制公布 米移民制限法 大洪水あり スト争議続発	同	篠原良造	同	310 （6学級）	4.12 杉苗四〇本植樹 6.3 唱歌科加設 7.16 森山師範学校長視察 ㊀加藤　周嗣 ㊁清水　喬平

41	刑法施行法成る 戊申詔書発布 アラヽギ刊行 天理教独立	大野亀太郎	同	杉本為次郎 杉本順作 吉川倉太郎	235 （8学級）	4.1 小学校令改正五年を設置 4.6 大原高小廃止、高等科設置 5.15 手工、農業科加設 ㊀奈良　覚誓　奈良　薫 ㊁幡野　亀丸　小林三千麿 ㊂長田　周造　三木　静江 ㊃小林　覚　浅川　民弥
42	所得税法改正 種痘法公布 関西大地震 伊藤博文ハルピン暗殺	同	同	同	391 （8学級）	4.15 尋常五、六年、高等一、二年新校舎入り 10.18 五年以上御嶽旅行 12.2 校舎完成（小柳） 12.15 猿橋農商業補習学校を併設 ㊀跡部　さと ㊁芹沢みなと　北条　明雄 ㊂天野よしゑ　高橋　由己 ㊃橋本　始　網野　熊雄 ㊄幡野　亀丸　小林三千麿
43	普選同盟生る 営業税法改正 織物消費税法公布 在郷軍人会発会	同	同	同	424 （8学級）	10.25 尋五以上甲府へ修学旅行 ㊀鈴木　淑子　竹内きよう ㊁三木　静江　奈良　あい ㊂浅川　民弥　長田　周造
44	幸徳秋水死刑 工場法公布 市町村制改正	同	同	同	468 （9学級）	4.21 山梨県教育会女子教員養成所開設 3.29 卒業生江ノ島鎌倉へ修学旅行（二泊三日） ㊀井上　海三　箭本　佳立 ㊁天野伊瑳美　桜井　まさ ㊂網野　フサ　大鷹　豊平 ㊃奈良　覚誓　高橋　由己 ㊄橋本　始　跡部　さと
	樺太縦貫鉄道成る					

45	明治天皇崩御 乃木大将自刃 悲しき玩具発刊	奈良和三郎	小林　覚	同	馬渕　市郎 ㊀井上　海三 ㊁仁科　操 藤田菊次郎 北条　明雄
T 2	護憲大会開催 中華民国承認 桂太郎歿 台湾独立運動発覚	神宮司新太郎	同	他校長 杉本 米山 藤本 金丸 小宮山 佐藤 奈良 弥太郎 治通 倬照 亥作 庄一郎 長兵 熊吉	中込 古川　清次 奈良　はる 古屋　清 ㊀海野　芳平 桜井　まさ ㊁鈴木　淑子 山口　勝 古明　尊与 長野　幹 川端下　柳 馬渕　市郎
3	桜島大噴火 対独戦参加 （第一次世界大戦） 青島占領	飯島篤雄	同	他校長 金丸 市川 高橋 杉本 米山 小宮山 奈良 徹乗 幹三 亀之助 弥太郎 治通 庄一郎 熊吉	中田　松三 海野　満つ ㊀鈴木　隆一 芦沢まさじ ㊁奈良　光輝
4	満州派兵始まる 東京株式大暴騰 邦文タイプ発明さる	高橋甚右ヱ門	同	長谷部康規 古谷　秀男 石井　康基 大木　春野 ㊀伊藤　忠治 浅井　以一 網野　フサ 山口　勝 ㊁大鷹　豊平 海野　満つ	白川　義雄 網野　晃 ㊀小坂　芳雄 大野　賤夫 中込　寛 小俣三千麿 清水　喬平 芦沢まさじ ㊁海野　芳平 奈良　はる 川端下　柳
5	海軍航空隊令公布 大山元帥歿 夏目漱石歿	同	神山一作	同	幡野　昌夫 大野　賤夫 小俣三千麿 芦沢まさじ 奈良　はる 川端下　柳
	8.1	9.1	10.1	11.1	12.1
	小沢、藤崎、小篠三校の併合式を挙げ、一校となる				
	4.1				
	443 （8学級）	849 （15学級）	809 （16学級）	863 （17学級）	853 （17学級）
	5.25 杉本為次郎氏送別会	神宮司新太郎	飯島篤雄	高橋甚右ヱ門	11.3 4.21 師範学校長視察 皇太子奉祝式
	10.29 今上天皇御真影下賜 長坂郡視学視察				
	12.7				

6	米価暴騰 暴利取締令出る 父帰る発刊 日本工業クラブ創設	同	宇田川簾平	同	小林やすえ 杉本とら子 ㊁篠原　豊麿 加藤　幹雄 古川　清次 ㊀古谷　秀男 田口　照 飯島　淑子 安藤　孝良 長田　俊興 長谷部康規 小坂　芳雄
7	電気博覧会開かる 日華軍事協定 西日本大台風 米騒動起る 島村抱月歿	同	窪田資嘉	奈良 宮幡 花田 堀内 小林 金丸 鈴木 市川 義一 規矩郎 愛之甫 源作 徹乗 木義三	大久保一夫 三井　明 伊藤　文夫 小坂　芳雄 ㊁三井　忠雄 飯島　淑子 藤本いまえ 小泉　一男 ㊀伊藤　忠治 三浦　玉枝 橋本まさよ 窪田た津代 加藤　芳雄 石井　康基 大野　賤夫 仁科　操 鈴木　隆一
8	都市計画法公布 講和会議、南洋群島委任 流感大流行（十五万人死亡） 野口英世黄熱病原体発見	藤本義次	同	同	長岡　雪 清水　宗俊 鈴木万亀子 上小沢歳明 ㊁長坂　慶倶 田口　照 加藤　芳雄 ㊀加藤　幹雄 小沢　闇 三井喜の代 藤本　百代 和田　義弘 伊藤　文夫 小林やすえ 小林　孝良
9	普選期成同盟運動起る 株大暴落 労働組合同盟結成	柳沢暢夫	同	窪田資嘉 宮幡義一 花田規矩郎 堀内愛之甫 小林源作 金丸徹乗 小宮山庄一郎 奈良熊吉	安藤　勲丸 八巻　フミ 望月　為吉 秋山　シズ ㊁野村　茂 三浦　玉枝 坂本と志子 望月　愛子 奈良隆次郎 網野　フミ 篠原　豊麿
	1.1	2.1	3.1	4.1	5.1
	5.7 皇太子成年御奉祝				
	7.1 講和祝賀会				
	3.5 保護者会、学芸会				
	906 （17学級）	950 （17学級）	1,005 （18学級）	903 （18学級）	906 （17学級）
	12.4 保護者会、学芸会 （部落巡回方式）				3.3 東宮殿下訪欧御奉祝
	10.10 猿橋保勝会創立				

	第一回国勢調査行わる				
10	水平社創立 職業紹介法公布 原敬暗殺 日英同盟締結 メートル法採用	同	同	鈴木義一 小鷹周作	
11	大隅重信歿 軍縮実施 未成年者飲酒禁酒法公布 大日本青年団創設 日本共産党生る	小俣孔元	清水敏寛	岡部彰 清水敏 川村寛 百瀬吾郎 白川定祐 須倉規 金藤孔 小丸徹 鷹周乗 作	1,002 (19学級)
12	義烈団事件 失業反対運動 日ソ漁業条約調印 関東大震災 朴烈事件 戒厳令布告 国民精神作興詔書出る	杉本弥太郎	同	同	945 (21学級)
					3.11 東宮御帰朝奉祝式 2.24 父兄懇談会、学芸会 9.3 小原国芳氏講演会
				白川義雄 杉本とら子 ㊥長田俊興	大久保一夫 小林倭文緒 藤本百代
				小宮準次 秦永周 稲本美子 小俣省三 ㊥古見志ん 幡野昌夫 望月為吉 秋山シズ ㊥長坂慶俱	武藤后子 小野待子 奥秋武 小俣晟 坂本と志子 奈良隆次郎 大木春野
				川村章 粟原安清 高橋喜悦 ㊥杉本英子 八巻フミ 安藤勲 ㊥窪田たつ代	仁科操 鈴木潔 網野とよ 網野フミ 野村茂
					3.26 野村訓導割腹自殺
					7.10 文部省図書監修官来校 7.13 校舎改築のため御真影等を郡役所へうつす 10.31 新校舎上棟式
				田村庄治 野口喜代蔵 ㊥植松暉元 奥秋武 秦永周 ㊥岡部彰	宮川かずえ 沢登泉 知見好文 三井喜の代 小俣晟 三井明

S2	全日農組合成る 丹波地方震災 南京、漢口事件	杉本順作	同	同	936 (22学級)
15	建国会組織 労働争議調定法案成る 大正天皇崩御 文芸家協会成る 日本放送協会設立	同	同	奈良治太郎 杉本貞信 川村定祐 須藤愛之甫 小宮山庄一郎 正木亮三 藤本倬照	939 (22学級)
14	日ソ条約調印 治安維持法公布 普選法公布 但馬大地震 大町桂月歿 女工哀史刊行	小俣孔元	同	同	963 (21学級)
					2.25 女子師範学校生参観 7.3 師範学校生参観
13	小作調定法公布 樺太徴兵令実施 普選法案大綱成る 東京放送局設立	熊坂博	同	同	937 (21学級)
					2.9 御真影等を新校舎奉安殿に遷す 11.10 国民精神作興詔書奉読式 9.28 電話取付完了
				富岡東 和田潔 清水経義 渡辺鈴子 ㊥柏木正心 稲本美子 野口喜代蔵 ㊥小俣省三	西室八重 大古田一雄 小宮公造 柏木花枝 仁科操 高橋喜悦 小沢闇
				宮下信男 奈良旦行 ㊥筒井一章 沢登泉 小宮公造 小宮準次 ㊥鈴木万亀子	菱山秀雄 早川ふく代 本荘下枝 富岡東 大古田一雄 田村庄治 古見志ん
				渡辺とみ子 小鹿維恭 小柳津経広 篠原高吉 ㊥上条金弥 本荘下枝 菱山秀雄 柏木花枝 ㊥和田義弘	林ふくよ 渡辺肇夫 奈良初日 遠山徳光 鈴木ゑみの 宮下信男 網野とよ 栗原安清 柏木正心	
					4.22 暴風雨、校舎被害 9.9 校長満鮮視察
				石井良英 ㊥中村宗久	井出嘉永 鈴木富治

| | | |

10	天皇機関説問題化 国体明徴決議案可決 台湾自治制実施 坪内逍遙歿	同	同	同
11	二・二六事件 メーデー禁止令 日独防共協定 関門トンネル起工式	同	同	同
12	芦溝橋事件 通洲事件 上海事変 戦時統制三法公布 南京占領 教育審議会設置。	同	同	同
13	厚生省設置 総動員法発令 張鼓峰事件 漢口占領 農業報国連盟設立	杉本弥太郎	同	和田潔 知見好文 長坂慶俱 佐藤行春 和田助源 知見好造 松浦大作 小林豊磨 三木亀十郎 正木亮三
14	警防団令公布 海南島占領 ノモンハン事件 国民徴用令公布 興亜奉公日 石油配給統制	中西建治	山中信俊	同
15	日米通商条約失効 供出米開始 農村報国会 町村常会設置 大政翼賛会発会 賃金統制令 音感教育強化 西園寺公歿	正木亮三	同	和田潔 知見好文 山中信俊 佐藤行春 和田助源 知見好作 松浦大造 小林豊磨 三木亀十郎

10	5.15 6.12 7.18 10.12 3.4	校訓「誠」制定 根津氏人体模型寄付 松島卓氏電気時計寄贈 第二支会競技会優勝 使丁小俣せき死亡	944 （20学級）	興石止女子 山中市次 ㊀後藤登茂恵 野沢ゆきえ 八木泰子 ㊀山本清
11	7.1 7.15 10.2 12.18	全一教育系統案一等（賞金五十円） 同窓会よりラジオ天幕寄付 第二支会競技会尋常高等優勝 分校施設（小沢）優秀により助成金五十円受領	951 （21学級）	後藤秀雄 篠本いの 広瀬裕子 一条武子 武藤かね子 ㊀石井武雄
12			961 （21学級）	高保三郎 網野きくえ ㊀村田嘉兵 篠本いの 土橋圭二 ㊀岩下安治
13			976 （21学級）	五味醇 白川雅 ㊀代永都志雄 金井恒雄 ㊀久保寺泉
14	3.18	井上福三郎氏、皇紀二千六百年記念に金五〇〇円寄付	972 （21学級）	長田二郎 矢崎長子 植原茂子 ㊀新海清澄 高杉直樹 ㊀村田嘉兵
15	5.20 12.10 12.13	猿橋大火七〇戸全焼、矢竹芳造氏見舞金五百円、県下小中生より一九三円七四銭見舞 奈良久雄氏藤崎分校に二宮尊徳像寄付 小俣一長氏国旗掲揚塔寄付	941 （21学級）	中村律太郎 平井弘道 ㊀原田憲 長田二郎 山中市次 埴原武 高保三郎 ㊀川村章

16	配給制となる 仏印進駐開始 東条内閣成立 大東亜戦争 国民学校発足	同	同	同	948 （21学級）
17	マニラ占領 大詔奉戴日 ビルマ占領 米機本土空襲 ミッドウエー海戦 ソロモン海戦 ガダルカナル撤退 学徒動員令	長幡　郊	同	知山見 斧田中 小信 奈良勇 鷹重作 水英俊 越雄文 高橋 藤森 竜保 庄太郎 仙雄	942 （21学級）
18	電力使用制限 山本元帥戦死 アッツ島全滅 中野正剛自殺 都市疎開始まる 徴兵一年繰上	杉本美治	同	同	932 （21学級）
19	女子挺身隊結成 国民旅行制限 インド侵攻			知見好文 森 良 重 威寿 奈藤	

5.28 足洗場完成
10.15 校長満蒙開拓義勇軍慰問
3.11 満蒙開拓義勇軍壮行会
5.14 大東亜戦記念植樹
9.25 アッツ島玉砕合同葬祈念
3.19 義勇軍壮行会
8.2 援農作業奉仕団
8.26 東郷国民校集団疎開（坂下旅館）

12.12 聖戦完遂町民大会に全児童参加

宮沢純太郎	須藤さだ子	
安藤　菊子	朝日きよ子	
㊥高野　富徳	西室　信明	
中込大二郎		
㊥山田　政雄	弦間　菊夫	

古屋　菊子
根津　文雄　堤　辰男
長田　芳郎　藤本　博栄
小林　碧子　中沢まさ江
佐藤　忠次　水越　英子
鈴木　さち
㊥三沢忠太郎　早川　操
新海　清澄　安藤　菊子
五味　醇　高野　富徳
㊥原田　憲　一条　武子

渡辺　良代
望月多喜子　山田　錦子
小笠原恵子　小俣　照子
㊥平山　治儀　小俣　一
根津　文雄　朝日きよ子
須藤さだ子　小杉　光子
㊥野沢七之甫　西室　芳子

山信田百子
杉本カオル　藤巻かつ子
井上孝太郎　奈良　幸子

19	サイパン陥落 東条内閣辞職 神風特攻隊 軍事教育強化	三 亮 正木	寿 森	小斧佐青 鷹田藤柳 英美庄八 雄則太郎作 佐藤 啓 規	992 （21学級）
20	硫黄島全滅 戦時動員令 各府県憲兵増派 広島原爆投下 ソ連対日宣戦 長崎原爆投下 終　戦 降伏文書調印 近衛文麿自殺 第一次農地改革	同	同	同	1,363 （23学級）
21	天皇神格否定 公職追放指令 野坂参三帰国 メーデー復活 新憲法公布 米教育使節団来日 教育勅語廃止	同	川村　章	同	1,119 （23学級）

11.6 増産勤労奉仕作業
2.1 勤労学徒保護者会結成
2.12 食糧増産隊動員壮行会
5.26 校庭開墾作業
7.1 学校付近爆弾落下
8.10 分散授業開始
9.7 疎開児童引揚開始
2.11 教員組合支部結成大会
6.4 新教育伝達講習開始す
7.20 職員話そう会開始
9.13 教員組合大会参加
1.10 校舎修繕開始

柁原　満代	三森　幸次	
㊥奈良　豊	小川とりよ	
手塚　左内	堤　辰男	
水越　英子	大森　敏子	
早川　操	鈴木　さち	
㊥小泉　善信		

山室　芳子
河内　良子　小俣　以一
伊藤　重雄　中村美智子
㊥小俣　貞一　小俣鐘太郎
井上孝太郎
山信田百子　山田　錦子
㊥佐藤　忠次　渡辺　良代

小俣　安正
小俣　喜照　渋谷　元子
和田三代子　正木　米子
知見　勝雄　秋山　芳一
斧田　高明　志村　保子
奈良ゆきへ
㊥手塚　竜雄　横瀬　栄有
望月多喜子　三沢忠太郎
中村美智子　小林　碧子
小川とりよ　白川　雅
山室　芳子　長坂　当子
㊥中村律太郎　知見　好文

22	二・一ゼネスト禁止 新憲法施行 片山内閣生る 日教組結成 公取委設置 国公法公布 農協法公布 戦争と平和上映	中西健治	同	同		963 （20学級）	4.5 知事、町村公選 5.2 新学制研究協議会生る 9.15 カスリン台風、被害甚大
23	自治体警察発足 ジョンストン報告書来る 東条等七人死刑 菊池寛歿 古橋広之進千五百新記録	同	同	同	仁科義男 初代P会長	945 （20学級）	4.30 PTA設立総会 7.20 教員スト決行回避 8.26 教科書展示会開催
24	共産党進出 ソ連捕虜送還決定 松川事件起る 在日朝鮮人連盟解散 中学社会科に民主主義導入 湯川博士ノーベル賞	同	同	同	佐藤貞義 P会長	618 （12学級）	4.2 藤崎小沢独立告別式 4.12 給食カマド設置 8.31 キティ台風校舎損壊 10.15 PTAスクール開催 12.10 実験学校初公開
25	マッカーサー日本自衛権説く 社会党分裂 朝鮮戦争起る レッドパージ強化 地公法公布	同	同	杉本孝正 長奈良三郎 教委長藤本長信 P加藤田寿徳洋		618 （12学級）	4.4 天皇御奉迎 4.11 町制十五周年記念式 9.19 教委初公選 12.15 子ども銀行大蔵大臣表彰
26	マッカーサー日本再武装論 日米講話条約安保条約成る 児童憲章制定 山びこ学校刊行	坂本隆市	中村律太郎	宮田忠雄 杉本孝正 教委長奈良三郎 教育長藤本長信 P加藤幡田寿徳洋義正		596 （12学級）	5.6 サマータイム実施 9.7 朝日健康優良児に石渡悦子入選 12.10 猿橋公民館落成
27	日米行政協定調印 日航機三原山に落つ メーデー事件 住民登録実施 市町村教委公選実施	同	同	教委 前年に同じ P加藤洋		560 （12学級）	4.7 猿橋完工式 8.1 国旗掲揚塔完成 10.5 地教委公選法
28	吉田首相暴言問題 町村合併促進法公布 義務教育国庫負担特例法制定さる	同	同	教委 前年に同じ P加藤洋		532 （14学級）	5.6 四校PTA連絡協議会生る 7.1 水道増設工事成る 7.10 郡連PTA運動会参加

22	山信田百合子 関戸孝子 Ⓐ天野文雄 後藤登茂恵 Ⓗ奈良幸子	寺田喜太郎 望月健一 長田芳郎 川合良子					
23	窪川敏郎 松浦登 岡部松子 奈良都子 Ⓐ竜沢富昭 望月健一 小俣照子 寺田喜太郎 Ⓗ小俣一	窪川礼子 久島まさる 芦沢満 藤本幹子 長坂文子 山信田百合子 杉本カオル 小俣喜照 和田三代子					
24	Ⓐ小沢昭三 窪川敏郎 久島まさる 関戸孝子 山田錦子 正木米子 山本公子 Ⓗ平井弘道	鈴木ひろ江 花上三代子 窪川礼子 松浦登 奈良仁 小俣安正 中村貞子 条々勝 志村保子					
25	井上富子 Ⓐ鈴木英一 奈良計子 竜沢富昭 Ⓗ小沢昭三	石井満智子 四条富士雄 秋山芳一 鈴木ひろえ					
26	真壁年男 飯田万典 Ⓐ清野敏子 岡部松子 知見勝雄 志村保子 井上富子 Ⓗ鈴木英一	内藤英吾 菅沼まさ子 梶原茂代 中村敏子 奈良ゆきへ 天野文雄					
27	大野かつ子 鈴木洋子 Ⓐ藤本昌子 藤本幹子 Ⓗ斧田高明	中込勇 藤本もも代 千野英三 田原富士雄					
28	奈良都子 中村庸子 横山幹雄 Ⓐ知見勝雄 内藤英吾 Ⓗ清野敏子	中村正 後藤和子 千野英三 菅沼まさ子					

29	防衛増強計画成る 福竜丸事件 防衛二法通る 尾崎行雄歿	後藤義明	小林培美	P教育委員長 奈良三郎 P教育委員 前年に同じ	560 （15学級）
30	日中漁業協定調印 オネストジョン持込 日米原子力協定 三鷹事件竹内死刑	同	同	同	550 （15学級）
31	日米技術協定調印 教科書法案可決 砂川事件 日ソ共同宣言 マナスル登頂成功	同	同	P教育委員長 遠藤良三 P教育委員 森田泉林 P教育委員 山口藤好尊 P教育委員 加藤明幸喜子 P教育委員 山田泉周洋徳良	562 （14学級）
32	日ソ漁業交渉成る 八海事件やり直し 勤評問題論争 徳富蘇峰歿	井上武右ヱ門	小坂弐	P教育委員長 藤本本太 P教育委員 森田幸寿 P教育委員 山田泉周喜徳恵	561 （16学級）

4.27	使丁小俣常吉校葬	坂本幸子			
7.12	衛生室建設	和田秋子	山田百合子		
8.8	大月市制施行 市立猿橋小となる	Ⓐ小池和男	坂本百合子	大野かつ子	
9.27	市長選挙	Ⓗ飯田万典	奈良都子		
11.20	創立八十周年記念式				
4.6	放送教育研究指定校となる	Ⓐ奈良嘉幸	久保川昌子	藤本昌子	藤本女和子
2.25	放送教育発表	Ⓗ小俣鐘太郎			
2.20	ラヂオ購入				
5.23	図書館落成				
6.15	町内校長会議	藤本女和子			
9.15	校舎増築竣工式	Ⓐ斧田高明	堀内とよ子		
2.4	大月市長選	Ⓗ小池和男	和田哲雄	中村庸子	
5.2	校舎側溝改修				
5.12	町内体育祭実施				
7.8	天皇皇后奉迎	Ⓐ峰村三雄	坂本一誠	鈴木茂治	古屋茂代
11.1	高鉄棒設置	Ⓗ手塚竜雄	横山幹雄		

33	小中管理職法案可決 原水禁世界大会 教育テレビ出る	同	同	P教育委員長 奈良千恵 P教育委員 石井善 P教育委員 小泉徳善 P教育委員 加藤洋仲	606 （15学級）
34	安保阻止国民会議 防衛二法強行採決 伊勢湾台風 デモ規制法案成る	同	知見好文	P教育委員長 石井昌善 P教育委員 西室遍 P教育委員 杉本治 P教育委員 伊藤孝 P教育委員 落合三	608 （15学級）
35	新安保条約発効 全学連デモ国会乱入 山谷ドヤ街騒乱 浅沼委員長刺殺 三党首テレビ討論 裏日本豪雪禍	同	同	P教育委員長 石井昌善 P教育委員 小俣以一 P教育委員 大野四郎	688 （18学級）

6.6	校舎屋根塗替実施				
9.25	文部省学力テスト実施	Ⓐ塚本きよ	鈴木貫洪		
3.4	PTA地区研究会	Ⓗ鈴木洋子	鈴木茂治		
8.3	鷺沼小交歓会				
10.16	子ども銀行全国表彰	藤本九三子	古西とき子		
11.15	児童代表、校長（三泊四日）	須藤式	井上ヌイ子		
3.6	PTA文化祭実施	斉藤治己	藤本照江		
3.12	校庭学芸会実施	Ⓐ知見好文	奈良仁		
	子ども銀行地方表彰	Ⓗ峰村三雄	知見勝雄		
4.1	藤崎小と統合す				
5.15	テレビ購入				
6.18	市内球技男子優勝				
7.28	鷺沼小交歓会				
9.1	殿上子どもクラブ東鉄局長表彰				
10.23	新校舎地均し始む				
11.10	P球技大会連続優勝				
2.25	六年武井国枝鉄道自殺 流感のため臨休	柁原美緒路	猪股あい子		
		高橋幸雄	佐野侃		
		藤巻明子	田之口輝男		
		興水三代子	成島洋幸		
		Ⓐ横山幹雄	中山昭光		
		須藤式			
		坂本一誠	古西とき子		
		中込勇	斉藤治己		
		Ⓗ佐藤文子	久保井昌子		

36							
医師会一斉休診	同	興水浩	教委 柴田栄造	教委杉本美治 小俣以一	教委長 沼田啓作	教育長 田忠孝	P大野四郎
拠出制国民年金はじまる							
政治活動防止法強行採決							
松川事件無罪							

6 4 8
（19学級）

4.19 市実験学校指定
5.1 藤崎教場創立記念
6.26 青少年赤十字指定校
7.8 市球技大会優勝
11.21 実験学校公開
2.21 「豊かなる人間性開発をめざして」県下公開授業

保坂てる美
小宮山三郎 小笠原美江
長田照子 桜田いち子
㊥白須一成 依田美智子
藤本照江 成島洋幸
㊥斧田高明 鈴木貫洪

37							
三河島列車大衝突	同	同	教委 前年に同じ		教育長 田忠孝	P大野四郎	
ニセ千円札横行・堀江青年大平洋横断							
貿易自由化							
三宅島大噴火							
山中湖別荘事件							

5 7 3
（14学級）

4.30 統合校落成式
5.19 ソフト優勝
9.23 国旗掲揚塔完成
11.13 子ども銀行大蔵大臣表彰
1.16 小沢藤崎バス開通
1.24 道徳教育研究市公開

武井澄子
依田光子 柏木れい子
新海昭子 加藤久に子
㊥金井恒夫 小坂午太郎
柁原美緒路
佐野侃
和田哲雄 久保井昌子
㊥中山昭光 井上ヌイ子
輿水三代子

38							
三池炭坑大爆発	同	佐々木護郎	教委杉本美治 小俣以一	教委長 沼田啓作	教育長 田忠孝	P大野四郎	
吉展ちゃん誘かい事件							
松川被告全員無罪							
東京国際スポーツ大会							
裏日本大豪雪							
日米テレビ宇宙中継成功							
新千円札発行							
狭山高校生殺人事件							

5 4 9
（13学級）

5.17 交通安全自治班旗授与
6.25 観察池完工
9.18 鷺沼小より海苔舟寄贈
11.19 子ども銀行大蔵大臣表彰（三回目）
3.22 卒業生より「小鳥小舎」寄贈さる

古西とき子
相山玄子 西室雅子
佐野梢 奈良絹代
㊥五味武 鈴木佐紀子
新海昭子 高橋幸雄
藤巻明子 依田光子
白須一成 猪股あい子
㊥塚本きよ 柏木れい子

39							
新潟大地震	同	同	教委 前に同じ		教育長 田忠孝	P大野四郎	
新幹線開通							
ライシャワー大使刺される							
富士航空機墜落							
原子力潜水艦寄港							
東京オリンピック開かる							

4 9 6
（12学級）

4.11 温室建設
5.23 教育後援会結成
9.19 陸上男子優勝
10.7 オリンピック聖火出迎
3.10 天体望遠鏡学研社より寄贈

井上基子
長谷川恵昌 幡野桃恵
㊥太田隆夫 高橋英夫
桜田いち子
金井恒夫 相山光子
㊥奈良仁 小坂午太郎

40							
日韓条約成立	同	志村寛	教委西室義信	教委長 沼田啓作	教育長 田忠孝	P大野四郎	
朝永博士ノーベル賞							
伊豆大島大火							
渋谷に少年ライフル魔出る							
重松選手ポリテニッ							
クマラソンに最高記録							

4 9 5
（13学級）

9.1 交通教室設置
9.20 陸上男子優勝
10.20 市内球技ソフト優勝
12.17 屋体完成

関佐紀子
江頭清 芦沢喜久男
関英子 久保井昌子
㊥雨宮晃 藤本幸子
鈴木九三子
武井澄子 長谷川恵昌
㊥五味武 奈良絹代

41							
羽田沖全日空機墜落	同	一定山込	教委西室義信	教委長 沼田啓作	教育長 藤本三郎	P幡野忠三	
国会黒い霧事件							
松山沖全日空機墜落							
早稲田大学スト							
交通戦争激化							
羽田でカナダ大平洋航空機炎上							

4 7 2
（13学級）

11.20 全国自転車コンクール出場
11.29 交通安全教育表彰
11.30 〃 教育公開
2.19 両親学級開設

高木千恵子
三枝礼子 野口光男
㊥中沢玉恵 金井孝子
江頭清 井上基子
関佐紀子 加藤久に子
㊥雨宮晃 藤本幸子

42	吉田茂氏歿	同	同	前と同じ		
	羽田学生デモ事件			教委	長沼啓作	
	小笠原返還決定			教委長	藤本三郎	
	美濃部氏都知事当選			教育長	藤本値	
	西日本集中豪雨			P		
	時限爆弾事件続出					
				456（12学級）		
				7.8	県連より優良P表彰	
				7.21	安全研究校として読売賞を受く	
				8.4	プール完成	
				11.4	知見好文氏オルガン二台寄附	
				11.27	子ども銀行知事表彰	
				1.9	交通安全自治班表彰	
					同　全国表彰	
						入 光行淑子 大和栄子
						出 高木千恵子 芦沢喜久男 佐藤梢
						入 菅沼洋子
43	日本初の心臓移植	同	同	教委	金畑長正	
	川端康成氏ノーベル賞			教委	大沢良作	
	飛騨川バス転落事故			教委	田中正雄	
	東大紛争起る			教委長	平井豊次郎	
	寸又峡ライフル魔事件			教育長	藤本三郎	
	十勝沖地震			P	藤本値	
	三億円事件起る					
	新宿駅騒乱事件					
				462（12学級）		
				6.19	県下書道展学校賞	
				10.17	鷲沼小へ父兄交歓	
					県木マキを寄贈	
				3.2	鷲沼小より父兄交歓	
					県木カエデ寄贈	
						入 早川初音 西室洋子 萱沼洋子 横山幹雄 中沢玉恵
						出 落合美寿恵 大久保智子 安藤光公 古西とき子 三枝礼子
44	東大安田講堂占拠	同	同	教委	田中正雄	
	連続ピストル魔逮捕			教委	大沢良作	
	正樹ちゃん誘かい殺人事件			教委長	平井豊次郎	
	大学法案強行採決			教育長	藤本三郎	
	東名高速道路開通			P	渡辺剛	
	交通事故史上最高					
				490（13学級）		
				5.7	学校緑化植樹	
				5.14	佐藤忠氏より電気洗濯機寄附	
				6.18	教室電灯増設	
				7.15	防球網設置	
				8.18	県下RCソフト優勝	
						入 雨宮丈夫 小高幸子 星野文平 功刀秋雄 佐藤日出子
						出 長田照子 野口光男 早川初音 小高高光 金井孝子 安藤光公 一之瀬喜久江 上野今朝子 矢嶋ハルエ 長谷部朝子

45	日航よど号事件	同	同	教委	加藤光宏	
	日本万国博開催			教委	田中正雄	
	三島由起夫自刃			教委長	大沢良作	
	大阪ガス爆発事件			教育長	藤本三郎	
	全国に公害発生			P	渡辺剛	
	プロ野球黒い霧					
	エベレストスキー滑降に成功					
				487（13学級）		
				7.4	県P連より表彰をうける	
				7.19	自転車操縦コンクール出場	
				7.21	プール開きを行う	
				10.9	新校旗披露式	
				11.4	交通安全母の会自転車教室	
				11.29	PTA運動会	
						入 湯本緑 長谷部朝子 大和栄子 光行淑子 雨宮丈夫
						出 関佐紀子 小林茂 中沢鴻 小林邦恵 石水希 赤松とみじ 高橋英夫 関英子 功刀秋雄
46	全日空、自衛隊機衝突大事件	同	同	教委	松浦登	
	大久保清殺人魔捕えらる			教委	加藤光宏	
	ばんだい号遭難			教委長	大沢良作	
	保険医総辞退			教育長	藤本三郎	
	成田空港反対事件			P	知見茂雄	
	イタイイタイ病勝訴					
				472（12学級）		
				5.28	梨大生教育実習	
				7.26	赤十字トレーニングセンター	
				10.15	子ども銀行文部大臣表彰	
				11.30	同　銀行協会賞	
				12.11	小鳥小屋完成	
				3.3	校歌碑建立	
						入 雨宮晃
						出 太田隆夫
47	浅間山荘事件起る	同	同	教委	堀江佳年	
	グァム島で横井さん救助さる			教委	加藤光宏	
	日中国交正常化			教委	松浦登	
	大阪千日ビル大火災					
				6.2	学校航空写真撮影	
				9.18	スポーツ少年団旗樹立式	
				9.22	NHK合唱コンクール	
				12.26	白猿座火災罹災児（4）	
						入 中山重雄 白須明江 小林いゆき 中村順一郎 不動田光江

藤崎小学校独立時代

年	校長	PTA会長	児童数(学級)	学校のあゆみ	教職員のうごき
47	同	同	462（12学級）	2.5 久保火災罹災児(2) 3.3 校内柔剣道寒稽古納会	佐藤日出子 ㊥大久保智子 ㊥山本　文平 久保井昌子 上野今朝子
48	同	同	427（12学級）	6.21 市内小学校球技大会 7.3 プール開き 9.31 水泳記録会 9.20 NHK県音楽コンクール出場 1.14 スケート教室実施	㊀奈良　仁 大貫　進也 一之瀬喜久江 ㊥石井　深 雨宮　晃

北陸トンネル列車火災
日本ゲリラテルアビブ空港襲撃
高松塚壁画発見
日航機ハイジャック事件
石油危機襲来
インフレ世界一
金大中事件起る
大洋デパート惨事
江崎氏ノーベル賞
大場助教授事件
巨人軍九連勝

年	校長	PTA会長	児童数(学級)	学校のあゆみ	教職員のうごき
S 24	野本宗幹	長坂武義	192（6学級）	4.1 開校式挙行 4.4 独立祝賀式 5.30 PTA総会 7.17 放送施設完了 10.9 運動会校歌発表会 12.16 樋口泰禅氏講演会 3.5 学習発表会 3.23 一、二年教室改造工事に着手	佐藤　昭三 早矢仕智子 鈴木とめ子 藤本　幹子 長坂　文子 ㊀平井　弘道
25	同	同	182（6学級）	4.16 町制十五周年 5.8 サマータイムとなる 10.6 水道貯水槽改修工事PTA奉仕	佐々田稲子 輿水　亀春 ㊀横田　絹子
26	同	小笠原利雄	191（6学級）	1.17 一、二教室屋根修理 3.22 卒業生を送る会 5.4 PTA懸垂棟寄附 5.25 町内教育懇談会 5.26 PTAブランコ作製奉仕 11.14 教育防衛大会 12.10 猿橋公民館開館式	鈴木とめ子 ㊥長坂　文子 鈴木とめ子 ㊀佐々木英一 輿水　亀春 佐々田稲子 ㊥藤本　幹子
27	同	同	170（6学級）	4.28 区有林杉苗植樹 6.4 桶全部修理 6.14 特殊教育研究会 9.21 増築工事開始 2.23 藤崎公民館分館審議会（畠山勇吉氏）発会	富田　潔 老沼　愛子 天野　愛子 ㊀藤本もゝ代 早矢仕智子 佐々田稲子 ㊥佐々木英一
28	同	小俣武義	172(6学級)	4.28 流感のため臨時休校 5.15 学校林下刈作業 5.17 四、五年生千葉県に汐干刈	
29	遠山徳光	同	130（6学級）	5.1 開校記念式 5.26 校内ソフト大会 8.10 六年西湖キャンプ 10.3 PTA校庭整地	丸山　通彦 ㊀遠山　徳光 富田　潔 ㊥野本　宗幹

	30	31	32	
	同	小俣　薫	中村　繁子	
	和田政幸	同	同	
	134（6学級）	132（6学級）	134（6学級）	
2.6 小篠児童鳥沢小へ転校決定	4.26 婦人学級総会 5.10 泉熱流行臨時休校 10.6 校庭整地作業 11.19 廊下張替工事 3.22 卒業生を送る会	5.1 開校記念ソフト大会 5.15 PTA公開授業 10.9 PTA校庭整地 12.1 六年算数一斉テスト 3.10 学芸会	4.11 市長学校視察 5.12 体操祭参加（猿小） 5.14 市指定実験学校 6.26 前校長小俣薫氏逝去 10.25 子供会議参加（葛小） 2.27 猿橋地区PTA研究会 4.18 校庭拡張地鎮祭 5.9 教育懇談会 5.17 市制服指定	
	小林　正治 ㊀五味　元男 藤本もゝ代 ㊁丸山　通彦	柁原美緒路 ㊀斉田あい子 横田　絹子 佐藤　昭三 ㊁遠山　徳光	森屋　清子 猪股　保 ㊀中村　繁子 老沼　愛子 小林　正治 ㊁小俣　薫	田之口輝男 ㊀佐野　侃

	33	34	35	
	同	手塚竜雄	知見好文（兼任）	
	同	藤本智寿	正木徳雄	
	143（6学級）	134（6学級）	124（6学級）	
6.20 梨大生教育実習 7.23 台風のため休校 9.18 同　右 3.1 学芸会開催	4.19 屋根、雨樋修理 5.2 猿小統合の話出る 6.4 教育委員学校視察 6.12 貯金局長表彰 9.26 台風十五号被害大なり 3.22 子供クラブ送別会	4.1 本日より猿橋小学校藤崎教場となる 4.24 学校林下刈作業 5.9 久保子供クラブ表彰 5.31 巣箱優良表彰式 7.15 藤本巌氏テレビ寄附 7.29 猿小と共に鷺沼小交歓会 10.2 最後の大運動会 11.11 文化祭P役員会 3.24 残務大整理	
鈴木とめ子 ㊁五味　元男	手塚　竜雄 高橋　幸雄 ㊀藤本もゝ代 猪股　保 平井　弘道 ㊁中村　繁子	久保井昌子 藤巻　明子 奈良　仁 ㊀知見　好文 桜井　清子 藤本もゝ代 ㊁手塚　竜雄		

小沢小学校独立時代

年	24
校長	松浦　登
PTA会長	杉本孝正
児童数(学級)	126（4学級）
学校のあゆみ	4.1 開校式 4.19 学校林杉苗二千本下付 6.1 衛生養護室、宿直室造成 1.31 放送設備完了 1.22 校歌制定発表
教職員のうごき	㊁久島　正子 和田　貞男 畠山　孝子 窪川　礼子 窪川　敏郎 ㊀松浦　登

さらば藤崎小よ

○蟬時雨春日の杜にかそけくて
藤崎の学舎静寂なりけり

○十年余り続きし門標書替ゆる
筆にこもれる別離のかなしみ

	25	26	27	28
	同	同	同	同
	同	須藤丈夫	同	杉本健次
	133（5学級）	132（5学級）	123（5学級）	104（5学級）
3.26 松浦校長、須藤伊作連Pより表彰	5.6 母の会を開き母の表彰と教育座談会を行う 6.15 校舎分割作業 9.23 足洗場をつくる 2.27 卒業生より朱子黒幕を寄附	5.9 学校林植樹 5.18 校庭金網作製 2.15 国旗掲揚台設立	4.26 学校林植樹 5.5 運動場拡張工事 10.7 校舎増築工事始る	4.20 学校林植樹 5.5 運動場整地
	畠山　孝子 窪川　礼子 ㊁窪川　敏郎 早河きみ子 石井　公哉 遠藤　鈴江 ㊀跡部　正	石井　公哉 和田　貞男 ㊁跡部　正 野田　達雄 中山　重雄 ㊀小尾　敏	野田　達雄 早河きみ子 遠藤　鈴江 ㊁小尾　敏 小林　雪子 安藤　晃 川上　操 花上三代子 ㊀清水　定治	清水　定治 ㊁中山　重雄 森下　政司 ㊀斧田　高明

29	同	白川　竜	113（5学級）
30	同	同	120（5学級）
31	清水慶治	小林礼二	118（5学級）
32	同	長幡一夫	102（6学級）

4.15 学校林植樹		
8.1 校名変更大月市立小沢小学校となる	㊥斧田高明	花上三代子
	安藤晃	
11.14 創立八十周年記念児童図書館寄付募集一九九、六〇〇円	斧田あい子	
	清水欣和	
	㊦高野正行	
4.20 学校林植樹		
4.30 図書室、運動具舎竣工		
5.14 野鳥巣箱コンクール知事賞		
5.15 母子作文コンクール二等賞	㊥川上操	
9.15 老人クラブ作り勧奨	㊦上野久子	
4.15 学校林植樹		
11.8 体力測定実施	㊥松浦登	斧田あい子
12.9 校門排水溝工事	小川和枝	高野正行
	須和良雄	
	㊦清水慶治	
4.4 青少年林業発表大会知事賞		
5.15 巣箱コンクール入賞多数	㊥小林雪子	上野久子
7.6 理振法認可（六〇、〇〇〇円）	小林恵美子	
9.24 ラヂオ六台PTAより寄附	小林正治	
12.2 P会長小林礼二氏葬儀	福田義寛	
	㊦横山幹雄	

33	佐藤栄次	
34	同	
35	同	
36	同	

		3.22 野鳥保護文部大臣表彰
5.8 全国巣箱コンクール文部大臣賞NHK放送録音		
7.23 台風十一号臨休	㊥清水慶治	小林正治
10.26 理科自由研究発表優秀賞	一ノ瀬勲	福田義寛
3.19 巣箱展文部大臣賞	細川秀子	須知良雄
	朱膳寺満寿代	
	知見照雄	
	有泉淳	
	㊦佐藤栄次	
1.1 部落懇談会	一ノ瀬勲	
2.20 ピアノ購入（部落寄附）	細川秀子	
3.6 石川いよ氏より放送施設寄附	㊥知見照雄	
	猪股保	
	㊦長沼敬人	
6.20 全職員玉川学園参観		
4.11 白川亮氏十七吋三洋テレビ寄附		
8.17 六年生本栖キャンプ	清水欣和	
11.1 学校牛乳給食開始	石井もと江	
	㊥横山幹雄	
	鈴木佐紀子	
	㊦坂本一誠	
7.29 六年生西湖畔キャンプ		
9.30 小林健作氏鉄棒三連寄附	㊥猪股保	
1.29 机、腰掛二十六脚こども銀行利子等にて購入	野崎好文	
	小高高光	
	㊦安藤順正	

36			
37	鶴田猛		
38	戸田勇		
39	金子嘉吉		
40	同		

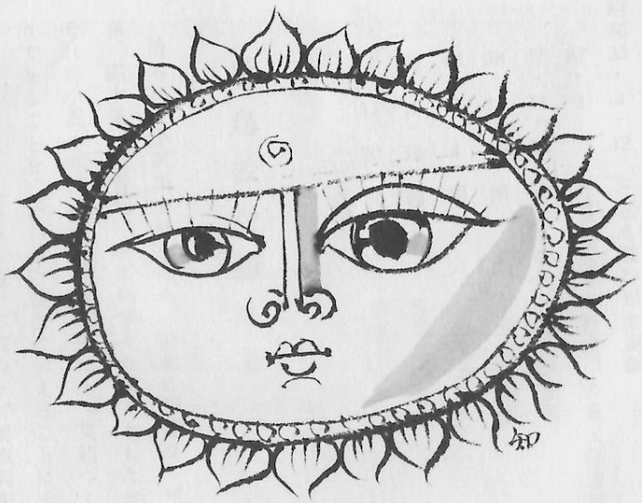
3.4 映画と学習の会実施		
3.20 須藤伊作氏送別会（勤続四十年）		
8.11 下和田小四年生と交歓会		
8.25 資料室増築（PTA作業）	㊥佐藤栄次	鈴木佐紀子
11.6 バス路線開通式参加	若林孝子	
11.23 通学道路拡張工事（PTA）	久保井昌子	
	㊦鶴田猛	
4.26 市内実験学校指定		
7.29 臨海学校実施	㊥鶴田猛	安藤順正
11.12 理振法適用を受く	栗本とめ子	
3.4 実験学校公開発表	渡辺琢璽	
	㊦戸田勇	
7.23 六年生臨海学校実施		
9.25 台風襲来被害甚大	㊥戸田勇	渡辺琢璽
12.25 防火避難訓練実施	高橋知	
3.9 六年生を送る会実施	㊦金子嘉吉	
5.11 学校林植林作業		
6.18 検便実施、保菌者（二割五分）	㊥久保井昌子	小高高光
10.5 家庭教育のあり方講演会	鈴木九三子	若林孝子
10.17 PTA入口の坂コンクリ舗装	㊦河西正弘	
1.16 文化祭実施		

41	新谷美春	
42	天野富喜	
43	小林宗義	

6.6 はみがき訓練実施		
6.14 PTA校舎修理作業	小川和枝	
7.6 家庭教育学級開講	坂本一誠	
9.7 愛鳥モデル校指定	高橋知	
1.15 文化祭	㊥金子嘉吉	
3.1 社会学級教育視察（箱根方面）	津金孝子	
3.16 県木かえで植樹	丸山平一	
	井上良知	
	㊦雨宮晃	
	㊦新谷美春	
7.23 学校林下刈作業		
9.21 SS研究大会	㊥新谷美春	河西正弘
1.15 文化祭	丸山平一	津金孝子
3.19 新入生一日入学（部落懇談会）	㊦天野富喜	
7.26 臨海学校		
8.4 PTA奉仕作業廃品回収	㊥雨宮晃	井上良知
11.19 市文化祭受賞伝達式	長谷部朝子	栗本とめ子
1.15 文化祭	奈良永一	
3.15 PTA臨時総会	㊦雨宮丈夫	
3.31 小沢小学校終えんの日（猿橋小統合となる）		

誇れる猿小

貯蓄・体育・巣箱
交通安全等の記録



体育常に北都留の雄

児童体育の華は何といっても陸上競技会と球技大会にある。わが猿橋校は、かって常に当地区において君臨していた実績をもっていて、優勝旗は校長室に飾る席もない程であったが、次にその経過を辿って見よう。

◇　◇　◇

年	月	日	
昭和	6・10・23		第一回支会競技会尋常科優勝
	9・13		北都留少年野球大会優勝
	8・10〃31		都留高女運動会女子四百リレー優勝
	9・5・20		郡代表として県球技大会に三チーム出場
	10・30		都留高女運動会女子四百リレー優勝
	11・4		都留中学体育デー優勝
	10・5・20		県球技大会排球準優勝
	10・12		第二支会競技会尋、高優勝
	11・4		都留高女運動会高等科優勝
	11〃10・2		第二支会競技会優勝
	10・25		六年生都倉とみ江県新にて（百米）優勝
	11・4		都留中体育日優勝
	16〃7・27		郡相撲大会優勝
昭和	26〃9・7		朝日健康優良児入選「石渡悦子」
	35・6・18		市内球技大会男子優勝
	36〃7・8		市内球技大会男女優勝
	36・11・2		市内陸上男女準優勝
	37・9・24		TRC県ボートボール優勝
	39・9・19		市内陸上男子優勝
	40・10・20		市内球技大会ソフト男子優勝
	42・8・18		県TRC球技会準優勝

今は昔「貯蓄猿小」の歴史

〃一円を笑うもの、その一円に泣く〃そのことわざを如実に示す、三つ子の魂に貯えの心を一として、着々と歩み続けた本校の歴史は、戦時中にさかのぼる。特に分校では、桑の皮をむいて売った金、どんぐり拾いをしてためた金、それをそのまゝ郵便局に預けるのが当然のことゝして、当時の童心に芽を育てゝ来た。それかあらぬか、昭和十八、十九両年にわたり、当時の藤崎分校主任は、全国二十五名の一人として、大日本青少年団長、大蔵省貯金局長より表彰をうけ、またくだって昭和四十年には子ども銀行担当職員が全国表彰を受けている。

かにかくに、伝統ある貯蓄校猿小の歴史を辿ることゝしよう。

◇　◇　◇

昭和25・12・15　子ども銀行大蔵大臣表彰
34・10・16　同　全国表彰（関ブロ代表）
この時は全国より八校選ばれ、校長、児童代表が、三泊四日にて、大臣との会食、総裁との懇談等夢のような日を送った。
昭和35・3・12　子ども銀行知事表彰
37・1　貯蓄主任塚本教諭、大蔵大臣表彰
37・11・13　子ども銀行大蔵大臣表彰
38・11・19　同　大蔵大臣表彰
42・11・4　同　知事表彰
46・10・15　同　文部大臣表彰
11・30　同　知事表彰

愛鳥校を讃える

清らかな小沢川をはさんで、南北に相連なる尾根の遠近から、山雀、四十雀、百舌鳥、啄木鳥等々の囀々とした合唱が絶えない里、それが小沢小学校の営々と積み重ねた〃巣箱づくり〃の偉業の名残りであることを、誇らかに後世に伝えることに大いなる意義を感じます。昭和二十八年から約十年間森下、清水両先生と更にその後を継いだ長沼先生等によって、今も尚脈々としてその小鳥らへの愛情の流れは尽きていない。その詳細を述べる紙面も乏しいため、次に主なる足跡を記録します。

昭和29・5・24　知事賞　小沢小学校　他多数
30・5・24　知事賞　花上　実　他多数
31・5・16　知事賞　白川太郎　他多数
32・3・3　文部大臣奨励賞　白川太郎
32・5・15　知事賞　白川公正　他多数
33・3・3　文部大臣奨励賞　白川公正
33・5・16　知事賞　斧田一夫　他多数
34・3・2　文部大臣奨励賞　斧田一夫
35・6・12　知事賞　斧田佳子　他多数
36・2・3　文部大臣奨励賞　斧田佳子

その他枚挙しつくせぬ多数の発表、懸賞応募等による優秀受賞は割愛いたしますが、その中での圧巻は、三省堂発行の国語五上の教科書に、明るいニュース

ぼくらのお山は　小鳥の天国
三年続けて賞をもらう小沢小学校
（山梨）

としての一文が載せられ、全国の小学生の心を打ったことであります。

交通魔と斗う猿小

GNP第二位を誇る国の最大の悩みは、激増する交通事故であり、この悪魔と斗うためにいち早く交通安全の旗を掲げた本校の、その歩みの抜き書きをして、更に父兄師弟一体となったこの道への前進を願うものです。

◇　◇　◇

昭和37・11・10　県下交通安全合唱コンクール郡代表として参加
38・5・17　交通安全自治班に安全旗授与式を行い署長等の講演を聞く
40・8・30　交通安全教室整備のため桂川より石運び作業、翌日完成
41・7・9　交通安全映画会を行う
41・11・20　全国自転車コンクール出場
41・11・29　安全教育優良校として表彰さる
41・2・3　安全教育研究公開発表を行う。
42・7・21　交通安全教育研究校として読売新聞社より表彰さる
42・11・27　交通自治班山梨県より表彰さる
42・1・19　交通安全教育研究校として全国表彰をうく

昭和44・11・22　交通安全教育優秀のため文部大臣表彰の栄に輝く

45・7・19　自転車の安全な乗り方コンクールに選手出場

45・12・8　地区交通安全母の会総会を開く

旧師寄書き

ご氏名、勤続年数

ご住所、　TEL

ご回想　文、詩等

（イ、ロ、ハ順）

旧師寄書き

飯田　万典　三年

中巨摩郡白根町飯野新田八二四（TEL〇五五二八五－一五九八）

中村律太郎校長が

「子どもが体積計算でどんなつまずきをすると思うかね。」

と、毎日なにか問いかけてきた。私も知見勝雄さんも斧田高明さんもそんな校長と論じ合った。

子ども達は裏通りでかたまってベーゴマをよくやっていた。実君も田中君も藤巻君も強かった。夕方暗くなるまでベーゴマで勝負をかけていた。鉄の回転力で敵のコマを外へはじきとばすときのスカッとした気持がなんとも言えないものである。

桂川は水がきれいで、橋の下はかっこうの泳ぎ場だった。プールなどより変化があって流れありよどみあり浅い所ありうずまきありでおもしろかった。子どもと遊んで、下宿の吉川化粧品店へ帰って、食って寝た。

石井　深　四年

大月市賑岡町岩殿二一七（TEL二－三〇一九）

○　由緒ある歴史伝えし此の校の
　　長となりたり　決意新たに

○　我が母も妻も嫁まで猿橋の
　　学舎卒えし　不思議な縁ぞ

○　鷺沼の子らと睦みし海と山
　　交歓会の　思い出残りて

○　卒業の子らに色紙贈りたり
　　名前折りこみ　歌を作りて

○　しっかりと大地に根をはりすくすくと
　　伸びよ若竹　道を求めて

○　踏まれても踏まれてもなお耐えしのび
　　強く伸びゆけ　雑草のごと

○　己が字を刻みし記念の校歌碑に
　　心も刻みぬ　歴史たどりて

○　熱意あるＰＴＡの協力で
　　無事に四年の　思い出つくりぬ

猿橋小の百年祭を祝し、発展を祈ります。

猪又　あい子（斧田）九年

甲府市貢川本町八の二八（TEL〇五五二二六－五九四九）

桜の咲きほこる藤崎小学校の校庭、大きなからだの知見先生に、つくってもつくってもつぶされてしまった馬とび遊び。かじかむ手に息をはきかけながら駆けめぐった春日神社境内での雪合戦。休み時間には明るい日ざしに生徒らの髪をかるバリカンの音。無心に過した幼かりし日。

やがて戦争も激しくなり、防空頭布に身をかためて登校、道すがら朝に夕に春日大明神に幼い手を合わせ武運長久を祈る。体育、家

庭の時間は薙刀の学習に変更、来る日も来る日も勤労奉仕が続く。草とり、かやかり、たわらあみ、小さな肩にくい入る様な炭俵の重みを一歩一歩ふみこえて下った山道、先生の肩には二俵三俵と生徒の分が重なっていく。文字を覚える事よりももっと大事な何かを学び取った。

学業を終え、小沢、藤崎、猿橋小学校と九年もの長い間、この想い出深い母校の教壇に立てた事をこの上なく幸せに思う。

板　山　雅　子（白川）三年半

山梨県北巨摩郡長坂町大井ヶ森一二八一番地（℡〇五五一三二一二八九九）

百年祭の便り嬉しく手に受けて
　良き母となりゐむ誰彼を思う
戦いの最中も児等は愛でたりし
　校長住宅の　白百合の花
夕星の道に軍歌を唄いつゝ
　いたづらなりき　生徒も吾も

註　この子は（教え子だったので）大変な文才家で、五、六年生頃は、原稿用紙二十枚位の長文な作文をどしどし出して私を困らせたものでした。今の子供たちの作文能力からは、考えられない程の違いだったことを、ありありと思い出します。

（知見）

花　上　満寿代（朱膳寺）四年

甲府市武田四丁目一―二八（℡〇五五二一五三―二一四〇）

三十三年四月小沢小に赴任し、四年間子どもと共に過した頃が懐しく思い出されます。

一見巣箱のような校舎も今は廃校になり猿橋小に統合されたそうな……こじんまりした中にも家庭的な雰囲気、肌でふれ合った教育等は忘れることはできません。

夏には前の川で水遊び、水泳、笹舟流し、秋には山登り、木の実拾い植物採集と、猫の額ほどの校庭で行なわれた村民あげての運動会など、どれもこれも今の私の奉職する甲府では得られないことばかりです。

毎年の愛鳥週間には学校あげて、どの子もどの子も腕をきそっての巣箱作り、文部大臣賞をうけるなど新聞記事をにぎわせたこともありました。十年ひと昔といわれますが、まだ最近の事のように思い出されます。

猿橋小の御繁栄を心からお祈り致します。

西　室　信　明（小泉）六年（応召三年を含む）

大月市賑岡町強瀬一二三八（℡〇五五四二二―二四八七）

伝統に輝やく猿橋小学校に発令されたのは昭和十六年三月末。日

華事変、太平洋戦争へと日本は軍国主義が大きく渦巻いていた。四月、国民学校と改称、皇国民錬成の目標のもと教育も戦争への道を怒濤の如く前進していた。悪夢の回想はおき当時の感激の一、二を拾って見よう。谷村工高校主催の南北都留珠算大会に五名の代表が出場、初等科優勝の栄冠を獲得したこと、山梨日々新聞社の席書大会に大量の中央大会出場者を出して、子どもたちと感激の涙を分け合ったこと等々忘れ得ない一駒であった。日を追い月を重ねて戦いは苛烈の度を加え、昭和十八年五月、私の生涯を通じ忘れることの出来ない応召に接し、教壇から醜の御楯として猿橋駅頭より征途についた感激は、三十数年後の今日も血湧き肉躍るの情を禁じ得ない。いま猿橋小学校百周年に当り、いよいよ発展を願う心やせつである。

保　坂　梅　芳（小池）三年

南巨摩郡鰍沢町鹿島二二番地（℡〇五五六二七―八一八六）
現　山梨学院短期大学教授保育科長

長谷部収入役さん、お金が有りませんので拾五円お願いします、と言って領収証を出しお金をいただいた昭和六、七、八年の三年間お世話になりました。教員給料は町村支弁であり不景気のどん底時代で、月給不払いが続いた頃でした。

わたくしは弟を連れての猿橋生活で特に、奈良薫先生のお宅の皆さんには、親も及ばない暖いもてなしを受け、弟と共に下宿をさせていただき、二十才の小生にとって忘れることのできない有難い思い出でございます。

学校では新卒早々に六年生の男子組六三名だったが、多いクラスでわたくしをこまらせた記憶は全然ありません。医学博士も学校の校長先生もいるし、各職場で立派に経営されているのもむべなるかなとうれしく思っています。わたくしもまだまだ元気で教育の道に精進しています。

土　橋　圭　二　二年

千葉県習志野市鷺沼台三―一一―八（℡〇四七四七六―七七三一）

私が猿橋小学校へ奉職したのは昭和九年九月一日から十一年三月までの二年間でした。

学校を卒業して始めて六年生の二学期を迎えた皆さんは、今はもう立派な父親であり社会人として活躍なさっていることでしょう。在職中はスポーツが好きでしたので、放課後の運動場では体育と称して、暑い日も、寒い日も、ひたすら運動に余念がなかったように記憶しています。これは当時のお国の方針でもあったように、然しそれが、何時の時代にも、かなっていると思われます。

伝統的に体育の盛んな学校で、郡下の小学校競技会にはよく優勝して、その光栄ある優勝旗を応接室に飾ってありましたのが、今も尚、瞼に浮んで参ります。

今、百年の歴史を迎えて心からお祝申上げ益々の御発展をお祈り申し上げます。

戸田　勇　一年

東山梨郡牧丘町西保中五〇一（℡二四四三）

(1) 裏山の木に小鳥の巣箱をかけたり、バードデーに巣箱のコンクールを催したりして、小鳥の学校として新聞に大きく出してもらった事。

(2) ＰＴＡの役員と学校との関係が親密であり、役員の車で職員全員と伊豆半島一週した事。

知見好文　二十一年

大月市猿橋町小柳　℡大月二一二七〇七

初の転任　昭二　藤崎より小沢へ

桜散る校庭の別れにあきらめず五キロの峡を追いすがる子等

バリカン教師　昭四　小沢にて

母の亡き子よわが使うバリカンの刃先にしらみうごめくの見ゆ

再度の主任時代　昭七　小沢にて

楠公の別れ踊れば満堂に嗚咽の波のひたひたと動く

妻病めば吾子を背負いて教壇に立つ我を子らはやす日もあり

戦いのさ中に　昭十二より　藤崎にて

一人子を戦死なせし老婆の脱殻を子らと終りし夕の川原田

疎開児の分も加えて木炭五俵背負鳥沢の街ゆく吾は

子等と掘りし防空壕に一人来て嗚咽一刻国敗れし宵

母校の長となりて業終るまで　昭三四　猿橋小

海山の絆結ぶと訪れし若き教師らと酒酌み交す

車窓より富士見ゆ勿ち海の子の歓声耳朶を破るが如し

最終の卒業式に

一人一人の美点誌して手渡せる証書よ子等の灯となれ

黒わくの写真に涙ほとばしる鉄路に散りし子の卒業の日

若きらと別離の酒宴更くる室に泣き笑いつゝわが業了んぬ

知見勝雄　十三年

猿橋町猿橋二七五五（℡四一八二二六）

旧校舎

幼等の声あぐる町見おろせば

古き校舎のおもかげにたつ

教えつつ教えられたる十余年

木造校舎小柳に無く

年長く校舎守りし白髪の

常吉翁も逝きてはるけし

教室の机のあひの丸柱

垢染みせしも今思ひ出づ

くれなゐに萌ゆる躑躅垣望みつつ

古りし廊下をゆききしにけり

知見秀子（細川）一年

大月市猿橋町伊良原七〇（℡大月局二一二八六一）

林間に山桜みて登りゆく

声はずませる春の遠足

子どもらがつくりし巣箱コンクール

晴れの日本一を父母とよろこぶ

木更津の海広くしてのびやかに

嬉々と泳ぐはおみなとおのこ

樹氷さく小沢の峰の清らかさ

明るく育つ児等と遊びぬ

木枯しの吹きすさぶ日のストーブの

当番の子の黒き手想う

斧田高明　十三年

大月市猿橋町藤崎三五四（℡二一二八七二）

藤崎分教場に学んだ私の猿橋小の思い出は四大節や卒業式、支会陸上競技会の応援などで本校へ行ったこと、その当時盛んだった「銀の泉」への投稿等色々ありますが、当時中心校的存在だった猿橋小の姿が脳裏に残っています。この様な母校に縁あって教鞭をとる立場になり、個性を十二分に生かし、のびのびとした猿橋教育の流れに加わり得たことは、終生忘れられぬ経験であり、思い出すだけで楽しくなる充実した期間でした。猿小を去る頃、校舎新築統合の話が進んでおりましたが、現在伊良原の地に百年の旧い輝かしい伝統のもとにしっかり根をおろし、いよいよ充実した学校の姿に朝夕ふれる時、職場はよそにしても誇りと将来への期待を強くするものです。

百周年を節に益々母校の限りない発展を祈るばかりです。

太田隆夫　七年

東山梨郡大和村日影二〇四（℡大和局二七九三）

ＰＴＡ活動、交通安全教育、学級会活動のあり方等々研修面、体育館、プール建設等での活動、どの一面を思い出しても楽しい一日一日の連続でした。時にはつらい事や、苦しい事もあったのではないかと、いくら考えてもそのような場面が頭の中にうかんでこないのも、何か不思議の感がいたします。長い伝統と地域の方々の教育への深い理解と協力があればこそだと思います。

今、猿橋小学校百年祭を迎えるにあたり、心からのお祝いとこんごの発展をお祈りいたします。

小　俣　賢　子　十一年六ヶ月

大月市猿橋町小篠（℡四－五五六三）

教職十一年六ヶ月をふりかえって

三年生を振り出しに、四年生、以後、九年六ヶ月は一年生のみ受持、今その教え子達の顔を一人一人思ひ浮べて見ると、孫の二、三人もある人、我が子を育てきって、のんびり生活をたのしんでゐる人、我が子の教育に専心している人、教職を去って三十一年、あの当時毎日通いなれた石ころだらけの坂道、今は殆んど舗装されつゝある道路、懐しの藤崎校も、あの当時の新校舎のみ残して、他は草原、今は統合された立派な新校舎で学ぶ現代の子供達となっている。時代のうつり変りのはげしさの中に百年祭を迎えて、喜びの子供達に心からお祝ひ致します。

小　俣　よ　禰（鈴木）七年

山梨県大月市七保町林五三〇（℡〇五五四二－四－七〇六三）

私は近頃物忘れが多くて自分ながらあきれてしまいます。けれども脳裡にはっきりきざまれていることがあります。それは四十何年か前、私が初めて小沢分校に奉職したことです。上原、和田両先生と現在益々旺盛な知見先生の指導の下で純心無垢な一、二年生を教えたことです。当時の校舎は横に長い平屋で窓ぎわに桜の木が何本かあり金網で囲まれた校庭でした。向うの小高い所に寺があり下に川が流れていました。この記憶は遠い昔のことですが忘れることの出来ない思い出です。

この日の教え子が私達より立派になって毎年クラス会を催し招いてくれています。こんな美しい人達を作りあげた猿橋小学校も百年祭を迎えるよろこび、お祝い申し上げます。

小　俣　喜　昭　二年

神奈川県津久井郡相模湖町与瀬九七〇番地（℡〇四二六八四－二八〇一）

終戦直後の混乱した時代、物も人にも乏しい時代でした。当時の猿橋小学校は国語教育指導の実験学校として、郡下は勿論、県下に先進的な研究校として、中心的な存在でありました。新米教師の私など、受持の児童の指導に精一杯で、研究に参加することなどできませんでした。しかし、よき先輩にめぐまれ、その厳しいリードと暖かな思いやりにより、なんとか二ヶ年間勤務することができました。今にして思えば全く冒険であり、冷汗ものでありました。

私の教師としての活動の根底には在職二ヶ年ではありましたが、猿橋小当時に培かわれた何かが、今でも生きつゞけているように思います。

小　俣　安　正　一年

八王子市大和田町十－七（℡〇四二六四四－〇二二一）

私が猿橋小学校に奉職したのは丁度終戦後間もない頃でした。

当時は中央高速道路もなければ勿論公害だなんて言葉も耳にしたことのない素朴な、道路の真中を生徒と共に手をつないで歩けた猿橋でした。

夏になると生徒を引き連れて学校の畠の麦打ちをしたり、動かない馬を引っぱりながら先生も生徒もどろんこになって田植をした事がつい昨日の様に思われます。

学校の下にあった田んぼは今どうなっているだらうか……空腹になるとかけ込んだ小使室はまだ残っているだろうか……

そしてオシャマだったり、チョッピリ不良じみたあの頃の生徒達は今どんな大人に成長しているだろうか、もう二十六、七年前の話です。

小　川　和　枝　十年

大月市猿橋町猿橋一七九八の二（℡二－二八四二）

○教え子が赤児をおぶいて行き会いぬ
　なつかしくこえゆく千手の坂よ

○静かなる廃校に来て我たてば
　親となりたる教え子もいて

○児童らと流れせき止め泳ぎたる
　想い出なつかし小沢川だよ

○数々の想い出深き学舎は
　永久に続かん公民館となりて

○せき止めて清き流れで泳ぎいし
　小沢川よきのうの如く　（元小沢小学校）

若　野　源　蔵　三年

大月市賑岡町岩殿一八〇番地（℡二－三五八一）

私は昭和四年四月から、昭和七年三月までの三ヶ年を猿橋小の藤崎、小沢両分教場に勤務したものです。二十四才から二十七才までの血気盛んなころで、田野倉小学校から転勤して行って、あの藤崎の恋路峠をのぼる時

今度こそよい先生にならんとぞ
　思ひかためて山路をのぼる

という歌をつくって、新しい教師としての覚悟をあらたにいたしました。分教場の児童は無邪気で、荒けずりのところがあって、みんな真面目で楽しい三年間を送ることが出来、私の五十年の教員生活の中で忘れることの出来ない思い出のひとつとして残っています。私はここで、今も作っている短歌の基礎ができると共に、国文学の教師となるべき学問の基礎をも作りました。また実家から五キロもの道を歩いて夜は青年をも教えました。さまざまの思いはあります

が、これで終ります。

和田哲雄　六年

大月市猿橋町藤崎一六七〇番地（℡二―一〇五八）

昭和三十七年三月統合新校舎での初めての卒業式、百三十名の卒業生と共に本校を転任して以来十三年になります。百年祭の年に当り心からお祝を申し上げ、在職六年間の思いを新たにしております。鷺沼小との交歓会もその一つです。当時「山と海の交歓会」としてマスコミも取り上げ、環境を異にする子ども達が生活を共にしながら親睦を深め、お互の地域を理解し、見聞を広める機会は夏休みの教育成果として高く評価されました。当時音楽担当者として鼓笛隊を指導していたので鷺沼の校歌を指導し、海やけした鷺沼小の六年生を校庭に迎えた時は、関係者から大変よろこばれ、これを契機に両校が校歌で歓迎し合うようになったわけです。「桜の花の咲きにおう……」自校の校歌の流れる中で歓迎された感激は今も忘れることのできない思い出の一コマです。

川村　章　二十三年

猿橋町殿上五〇（℡二―二三二二）

訓導時代は国語教育を重視したというので教員として片輪だと陰口をいわれたが、わたしは子どもの人格形成をこれに求めたからだ。

それにしてもいつも思い出すのは、赤井一吉と幡野勝久の童謡で、北原白秋門下が両人の作を尊重したのもむべなるかなである。わたしの国語教育に対する考え方は、昭和六年東京の厚生閣から著述したわたしの〝実用的綴り方教育〟にみるように芸術至上主義に反して、むしろ生活に役立つことを主張したものであったが、彼ら両人へ精魂を注入したのは面白い。県下で猿橋小が国語教育の優秀さを認められたのも、この伝統の流れである。学級担任最後の教え子まで〝いい作文〟を綴る子が絶えなかったのはうれしかった。長坂校長から〝国語偏重？〟を注意されたとき、厳然と「全科のテストをやってください」と豪語したが多少後めたいものを感じた。でもその後全校一斉テストで優秀な成績を修めたのもうれしい思い出だ。いい子を受持った教師は幸いである。

第二支会（教育会）の〝銀の泉〟学校文集〝彩光〟を出した満足感には、諸先生方の絶大な協力が胸をうつ。提灯学校の異名がその象徴であった。

校長時代に猿橋小が県下の実験学校（三年連続）として名声を博したのも、この提灯学校魂の流動であろう。

教育研修所へ移り、〝低学年学習の特異性〟を主張したわたしが、その証左として研究した〝児童の発達段階の研究〟をニューヨーク州の『全世界心理学者名鑑』にのせることができたのも、その累積であったろう。

退職後のわたしは、東京の二葉（教科書）株式会社の調査室長を勤め、小学国語教科書を編集、現在大月市議会議員在任中で極めて

健康である。（大月市社会福祉協議会常任理事でもある。）

金井恒雄　九年

大月市猿橋町藤崎六〇八番地（℡二―一四五三）

昭和四年四月より六年三月まで猿橋小学校本校に於ては長坂慶倶校長の頑張っていた時代で、北都留郡の中心校としてまた県下の有名校として研究発表をし視察を受けるなど模範を示された時代であった。

昭和六年四月より十三年三月まで戦時準備時代で教員補充で藤崎分校に奉職していた。この間非常な不況時代でもあって教育は重要であり難時代でもあった。学校の他、青年補習学校（青年訓練所充用）なお社会教育も積極的な指導を必要なため、昼夜ぶっ通しの努力の時代であった。職員も一人の異論者もなく、一致協力して励み、藤崎分校も県下に向って公開研究会などをし有名校時代であった。社会的には農村自力経済更生研究会、青年農事研究会、郷土研究会などが盛んに興り、この人々は後に皆町の代表として貢献され、よき人生をおくられた。

代永都志雄　一年五ヶ月

山梨市万力九六九（℡〇五五三二―二四五二）

私は昭和十三年四月から十四年九月までの短期間であったが在職中の、もろもろの感懐や印象は昨日のように思い出されて感謝にたえない。猿橋小学校は歴史的に由緒あり、政治、経済、文化の中心地として発展した猿橋町の背景の中に名実共に充実した県下の名門校であった。

時の校長長坂慶倶先生は教育界の逸材として、学識、手腕抜群、教育愛に徹した大校長で、敬慕の念は終生忘れられない。

私は赴任すると同時に六年男子組の受持となった。私の「スポーツを通して人間をつくる」という教育理念は、たまたまキックボールの猛烈な練習を始め、遂に北都留郡下大会に優勝旗を獲得する事ができた。私はその記念写真を見て、健斗した少年らに魅惑せられ追想にふける。

猿橋小百年祭に際し、お祝を申し上げると共に新時代建設へのご発展をお祈りいたします。

横山幹雄　十六年

大月市七保町葛野一三四七

玄関東にあった早咲きの老桜。真中に柱のあった老朽教室。西側の教室兼、取っ払いの講堂などが、着任当時の学校であった。校舎の一隅を見ても教育の営みが刻まれ教育制令頒布以来古い伝統をもった学校である印象が強かった。特に四教室取り払った長屋の講堂を使っての卒業式で列席した父兄をはじめ卒業生は勿論、校長の告辞、教頭の学事報告も涙声し、全職員感激にむせんだあの場面は生

涯忘れることができない。また二泊三日の交歓会、川での水泳、山登り、キャンプファイヤーなどする中で子どもと共に他では得られない巾広い人間関係を学び得たことは教員生活をしていく上で大いにプラスされている。

一〇〇年という歴史の永劫さを讃えると共に、更に新しい実績の上に立った猿橋小学校であるよう心から祈るものである。

高　保　三　郎（兵役を終え九月着任三年六月）

山梨市下石森八六二（現に加納岩小学校長）

当時校長は長坂慶倶先生で職員もベテラン揃いであり内容の充実した学校であった。私は教師としての第一歩をこの学校に印し師道への人生観の基礎づけは概ねこの学校においてできたものと感謝している。当時を回想し一、二を述べると、先づ不景気のどん底時代で当時は町役場が給料を支払っていたが、九月新任して十一月まで月給は不払いで月末にまとめて百三十円を支給され、生れて初めて手にした百円札で町に買物に出たらおつりがないと断られた時代であった。

次に六年の男子組を担任した時であったが、一月の日曜日におしるこの飯盒炊餐で山の麓へ出かけたら、しるこになる寸前に山火事をおこしてしまった。消火のために私の背広と時計がだいなしになってしまったということで、当時の町会議員さん方が大層心配され、背広と腕時計のプレゼントを申し出された。勿論断ったが恐縮したでき事であった。

高　岡　公　子（山本）九年

東京都世田谷区松原四－一〇－六（℡三二一－六一一九）

突然教え子からクラス会の招待を受けた。三十年ぶりの出会いに一瞬とまどいながらも、どこかに残る幼な顔に、描いた絵やたどたどしい文字まではっきりと思い出されて懐かしさひとしおであった。その子等が既に一家の主人であり、育児を語る母親として平和に生きている姿に、胸が熱くなる思いで、教師であったことの喜びをしみじみと感じた。ちいさないのちに呼びかけ、その中にひそむ天分を見出し育て実践させていく、こんなに難しく素晴しい仕事はない。戦争から終戦と激動の時代を、一日一刻精いっぱい生きたわが青春の忘れ難い思い出、それが猿橋小である。学習評価の問題、通知表や表彰のあり方など当時試みた事が、今日論議され取り上げられているにつけ、校長を中心に真剣に研究しひたむきに実践した若き日がまことに懐かしい。

高　野　富　徳　一年

北巨摩郡白州町大坊七七（℡〇五五一三五二六六〇）

昭和十六年猿橋国民学校小沢分校勤務を命ぜられた。教師となって七年目の時であった。山あいの静かな山村のこの分校は、児童数

一〇〇名内外であったと思う。一・二年、三・四年、五・六年の三複式学級であった。

人情の温かい村の方々であった。子どもたちも極めて素直なよい子ども達であった。当時の子ども達も、今はりっぱに成人されて社会で大いに活躍されていることであろう。

その年の十二月八日太平洋戦争がはじまった。学校の裏の細い道をチョボ車に材木を乗せて通っていった村人の姿が今でも目に浮かぶ。一度ぜひ訪づれてみたいと思いながらいまだにその機会がもてない。僅か一年ではあったがあの時担任した子ども達にぜひ一度会いたいと思う。住宅に住んで近所の方々にたいへんお世話になったことが温かく心によみがえってくる。

塚　本　き　よ（井上）五年

東京都立川市栄町四－三八－四（℡〇四二五三六－一二二三）

◎猿橋に生まれ、猿橋小学校を卒業した私は、教員になって二十七年目に母校に勤務する事になった。昔、学んだ教室、遊んだ運動場、PTAの方々の多くは昔の友だち、「故郷へ来たんだなあ」と感慨もひとしおだった。

◎海の子の鶯沼小、山の子の猿橋小との交歓会は、両校の校歌の演奏から始まった。

海の子たちは、桂川の溪流での水泳ぎにはしゃぎ、水力発電、富士の風穴を物珍らしく見学した。夕暮れ近く、私は朝礼台に上り、武田節の踊りを指導し、両校児童の親睦を一層深めた事を昨日の事の様に覚えている。山の子たちは鶯沼へ行き、海水浴に、潮干狩に興じ、火力発電所の見学に目をみはった。

◎伊良原の新校舎の起工式は、風の強い寒い日だった。当時としては、県下でも珍らしい鉄筋コンクリートの三階建の校舎が出来上ったのは三月中旬。「せめて今年の卒業生は新校舎から」と移転を急ぎ、あの坂道を机や腰掛を運んだものだった。そして古い校舎に別れを告げ、やっと間にあった新校舎から「螢の光」の曲が流れた。

◎夏休みの暑い最中、真黒になって練習した甲斐あって甲府で行われた子供赤十字主催のポートボール大会に猿小が優勝したあの時の感激は今もあざやかに残っている。

◎三十五年間の教員生活を終えて退職してから七年、還暦を迎えた今、立川の一隅で、益々充実していく猿橋小学校の発展を祈っております。

奈　良　　薫　二十四年

大月市猿橋町猿橋三三番地（℡二一－〇八五六）

百年祭御目出度う御座居ます。別に在職当時中、平々凡々で通りましたが、私の受持ちが一年生で、残り時間を他五年以上の男子組の唱歌（音楽）を受け持ちしてゐました。

特に思い出に残ってゐるのが、当時幼稚園と云ふものがなかった時代でしたので、入学した三ヶ月位は集団便所の入り方、下駄箱の

整頓、自分の持ち物の有無等社会訓練をする事で、毎日へとへとでした。それがすんではじめて一年の授業にかゝるという工合でした。

私の茶碗、箸（右左）の時代でした。たれ言うとなく一年先生、テンノウ先生（家号テンノウ）で二十四年間つとめました。

註　奈良先生は、猿橋小学校在職々員の中で現在最年長、教え子の半数位が不帰の客となっているのに、今尚、茶華道宗家の職をお元気になされている古稀の先生です。

奈　良　ゆきへ　五年

大月市猿橋町小倉（〒二一一六七一）

昭和二十一年から五年間猿橋小に在任。戦後の混乱の時期であった。物資もなく洋服・靴・傘など学校に配給になるのをくじ引きで子どもに分け与えた。テストなども更半紙を八つ切りにした小さな紙片を大事に使った。

こんなこともあった。私の学級で校内研究授業があった。教室の窓から真正面に見える三皇山のふもと、現在の梨木住宅のあたりで鳥部隊の捕物があった。参観に見えられた先生方も子どもも、警官に追われて雪の山の斜面を逃げまどう炭しょいの人々を窓から乗り出して見ていて授業にならなかったことを思い出す。

当時は若い先生が多く、実験学校をやっていたので研究公開前になると夜おそくまで、校長室の大きなテーブルを囲んで討論し、新教育の模索に青春のエネルギーを燃やした懐かしい学校である。

奈　良　嘉　幸　四年

大月市大月三丁目一－二十四（〒二一一八一五）

新任校猿橋小学校に昭和三十年に着任しました。小林培美校長先生、手塚竜雄教頭先生のもとで教員生活を踏み始めました。五年生担任でした。社会、ローマ字、詩作、スポーツ等、子どもたちと大忙がしでした。殿上や下和田方面まで走り、男子に追い越されまいと必死でした。学芸会は白猿座でしました。舞台裏で洋服をほこりまみれにして、お客さんから笑われたのがおちでした。写生のうまい女の子や、短距離の得意な男の子や、劇のうまい生徒たちばかりでした。その子たちもすでに子の親になったのです。私も中学二年の娘と同じ学校にいるのですから……。できるならもう一度あの頃にもどりたいと思います。やさしかった同僚や新米教師を見守ってくださった理解あるＰＴＡの御協力を思い出しております。

中　村　律太郎　九年

上野原町上野原一五九六（〒〇五五四六三－〇四二一）

小田の開墾であわや山火事。荒れた山畑を整理して火入れをした。急に突風が起り飛火してすでに一大事、生徒と火を消し止めたところに警官が現れて二度びっくりしたこと。身心鍛練のため、砂利道国道を四方津境まで二十余キロ、はだしで走った集団走。頭の下った校番のおじいさん。粗衣粗食黙々と務めて、学校や部落に善意の

寄付を贈り続けた常じいさんのこと。

自作の和歌に祈りをこめて、荒廃した世相の中で子供たちがゆがまないよう、教育に期待をかけて警告し続けた杉本弥太郎老人の情熱に打たれたこと。

教科書に墨を塗ったり、切りぬいたり情けない思いをしたこと。など思い出は尽きません。名門猿橋校のご発展と、皆さまのご多幸を心からお祈りいたします。

奈　良　豊　一年

大月市七保町下和田三二〇（〒〇五五四二二－〇九七五）

昭和十九年三月三十一日猿橋国民学校訓導ニ補ス。という山梨県の辞令を拝命して、猿橋小学校に赴任して満一ヶ年お世話になりました。六年生の男子組を担任し、女子組の白川先生と協力して学習に励みました。

大東亜戦争のたけなわの時それこそ日本国存亡の命運の年でした。森校長中村主席訓導は国民服のカーキ色に戦斗帽巻脚絆。平山次席訓導はいつもノーネクタイ、朝の校庭で月曜は皇国の戦意を高める軍歌を斉唱しました。或る時平山訓導はタクトを握ったまゝ朝礼台から後方にとび下りました。それは「いざこいニミッツ・マッカーサー」という歌の時でした。

猿橋に東京の本郷小学校よりの学童疎開もあり木下先生は背負子を逆さにしょって山に薪とりにいきました。私の受持だった六年生は今四十代の父と母の盛りとなっています。

長　沼　敬　人　三年

東八代郡御坂町井之上一五三三番地（〒〇五五二六二－六一八三）

小雨にけむる小沢への道を一歩一歩ふみしめ、桜と大きないちょうの木の間に古く、こじんまりとした校舎と校庭を見出したときの印象が、今でもはっきりと浮んできます。

学級の人数は少なくても、元気のよい児童と共にすごした三年間は、私の青春時代の思い出の一ページを余りあるほど飾ってくれました。

中　村　宗　久　三年

甲府市湯村三丁目二－二七（〒五二一－三四四一）

猿橋小学校創立百周年おめでとうございます。私が山梨師範を卒業して社会人としての第一歩を踏み出した記念すべき勤務校です。

当時の教え子のあどけなき顔が四十数年を経た今日でも想いうかびます。清水、長坂両校長時代で、新卒でわがまゝの私は随分先生方にお世話をかけたことゝ思います。その頃自治体としての猿橋町は財政的には困難の時代であった様です。俸給不払いが三ヶ月も続いて閉口した想い出があり、それでも職員はじっと我慢して不平を云う先生は一人もありませんでした。町民の人々も理解していたの

か、何を買っても貸してくれました。ほんとうに親切な方々ばかりでした。今は亡きお髭の小俣校番さんには大変お世話になりました。懐かしい猿橋小学校の今後のご発展を祈ります。

（甲府市教育委員長　中村　宗久）

中　山　昭　光　二年

大月市猿橋町横町（℡大月二一〇二四〇）

昭和三五、三六年猿橋小六年生担任の二ヶ年は、私の教員生活の中のピラミットの様な時であって、当時の思い出は、生涯心の中に残るものがあります。特に最も強く印象づけられているものは、千葉鷺沼小との初の交歓会です。教育制度百年の間の、形式や内容の変化は、何回あろうとも、教師と生徒とのふれ合いということは、終始一貫して不変なものであるべきで、特に学校を離れた場での心のふれ合いの最たるもの―　私はそれがこの交歓会において、全く十二分に発揮されたものと、今も固く信じています。校長や教頭も責任者として御努力されたわけですが、特に担任としての責任は重く、全精神を集中したわけでしたが、その甲斐あって、今だに成長した子供達も、話題は必ず交歓会にといった具合で、彼等の社会人としての礎石となり得たことは絶対に動かし難い事実であろうと信じて居り、私自身も、人間教育の真髄の一断面を、この交歓会に見出し得たことを忘れないものです。

中　込　大二郎　四年

東京都葛飾区新小岩一―七―八（℡六五一―三九〇八　六五二―八九三五）

私を含めて山田弦間の三人が同じ年に一緒の下宿から猿橋を後にし、三人三様の道を選んだ時の心情、当時の先生方の顔、校舎、校庭、生徒の一人一人、総てが浮んで参ります。

運動会では国中対郡内による教師の出身地対抗リレーがあり、私はアンカーそして郡内側の小泉先生を追いましたが遂に追いきれずに郡内側に軍配が上りました。その小泉先生も先年亡くなられたとか、桂川の清流にひたりながら若アユを手づかみで取った先生でした。猿橋で最初から最後まで同宿だった弦間先生とは東京で二度会いましたが、顔を突き合わせるだけで仲々話も出ないものです。

一条先生は私の区に赴任なさったのですが、どうなったやら消息を知りたいものです。

「山皇の山の緑はうすくとも　もえ出づる春を心して待て」これは二松学舎出の高杉先生が私の四十九聯隊入隊に際し贈ってくれた歌です。

中　込　幸　子（坂本）七年

大月市猿橋町猿橋二三六―一（℡〇五五四二一―〇二二八）

古い伝統のあるわが母校、猿橋小学校につとめたのは昭和二十七年、校庭の桜も、教室もなつかしい思い出でいっぱいでした。

この頃は六・三制の教育制度が発足して数年、世の中も人々の生活も安定し次第に落着き、校舎は大部古くなり階下の教室には支柱が二本立っているめずらしい建物でした。でも生徒たちは元気な素直な子ども達で学習も作業等も進んでよくやりました。

創立八十周年を迎えたのもこの頃で近代的な図書館もでき、放送教育、視聴覚教育がとり入れられ二年間ＮＨＫの実験学校の指定をうけ、始めてのテープコーダーを使っての授業研究など思い出深いものの一つです。

すぎし日の思いなつかし園庭で
　幼な子たちと　きょうも遊びつ

村　田　嘉　兵　二年

甲府市古府中町四九五三―一（℡〇五五二―五三―四四五二）

私が奉職した昭和十二年は、いわゆる支那事変勃発の年で、国はあげて軍国主義と戦争一色にぬりつぶされた時期であった。出征兵士の見送りや、文集発行の検閲等ほろ苦い戦の想出のうち、高杉先生が中国へ出発されるのを駅頭に見送ったのが昨日の様に瞼に浮ぶ。

しかし、自然は公害も無く美しく、学校は楽しかった。校庭の桜は花吹雪を教室に散らし、鮎は銀鱗を清流にきらめかした。長坂校長は大公望だった。下宿先の小笠原さんが投網の名人で、一日同先生と網打ちを楽しんだ。一網で十数匹の鮎、今では夢の様だ。その塩焼きの味は格別だった。若い先生方が大部分だったので春の球技、秋の陸上と終日運動場で子供達と過した。その頃のあの顔、この顔も想い出される。今は四十九、五十の働き盛りだ。郷土で又は他郷で活躍していることだろう。健斗を祈る。

野　沢　七之甫（城之内）九年

大月市賑岡町強瀬五九九（℡大月二一―一九六九）

はじめての背広求めて新卒の
　先生になりし猿橋小学校
このような日々の指導で足るのかと
　児等の学業いつも気遣う
お使も忘れて遊び叱らると
　Ｔの日記の母へのお詫び
花吹雪キックボールに明け暮れて
　祭もよそに張りきりしこと
昼弁当食べしが如く装おいて
　学童は立っており実習地の隅
あれこれと脚本さがす学芸会
　ひのき舞台にかけし白猿座
恒例の身体検査春たのし
　白衣まとえる北条先生
担任の男子この世を去りしこと
　悲運せつなし猿橋大火

野本宗幹　五年

大月市梁川町綱の上全昌寺（℡六－二一三二）

私宅　鳥沢二〇三六（℡四－五三五三）

昭和二十三年度迄、猿橋小学校の分校であったのを、独立期成同盟の諸君の奔走により、目的を達成、二十四年度より独立、藤崎小学校が誕生し、第一回目の校長となった。

間もなくＰＴＡも結成されたが学校に対しての関心は高く、熱意を以って学校に協力され、殊に校長の発案したアンゴラ兎の飼育に対しては、種兎の買付、飼料の刈取、その他一切に対して涙ぐましい程の協力振りであったことは一生忘れることは出来ない。

想い出

ながら梅雨にむくろとなりしアンゴラの
　長き兎毛を撫て悲しむ

長毛は諸子の恩愛の象徴ですし、髄は失敗の結果でしかありませんでした。

野沢ゆき江　六年

大月市賑岡町強瀬（℡二－一九六九）

○制服の姿のまゝに猿橋の
　教壇に立ちし昔なつかし
○校庭の桜吹雪を身に浴びつ
　子らと遊びし幸福の日々
○障子を張り掛図つくろいカーテンを
　桂川に洗いし若き日のわれ
○研究授業のいたき批評に涙しつ
　胸つぶされし思いもありき
○緊張の職員会議は続くなり
　長坂校長先生のみ声は高し
　（小俣常吉さん）
○夜更けの道おじいさんに送られて
　家路につきしはいく度なりし
　（昭和九年九月の台風）
○台風に屋根を奪われし教室に
　六十の子らと命ともにしつ
○教え子もわれも白髪をまじえつゝ
　総持寺参詣の旅楽しみぬ
　（昭和四十九年四月）

野崎好文　一年

塩山市上小田原四三九（℡塩山三五三五）

あれから一昔半にもなりますか、僅か一年間の勤務の中から、思い出されること。

ＰＴＡの皆様の　人柄の円満さ。

毎朝、汗びっしょになって、カブを押して登った　学校への坂道。

宿直の晩、八十才になる労務員の小父さんと炉をはさんで、好きな酒を一杯やりながら、おしゃべりしたこと。

その小父さんが、小遣で湯沸しを寄附して呉れたこと。

子供たちの丹精が報いられて、愛鳥週間に全国表彰を受けたこと。

○永勤の老爺の堅気をほうふつと
　湯沸しの大釜にたぎる真実
○学園をとりまく巣箱に小鳥らの
　さえずり止まず愛はひとしく

野沢カオル（杉本）五年

大月市大月二丁目一－四（℡二－三四〇四）

追憶の糸をたぐると心の奥にしまい込まれていた様々の出来事が眼前に甦って来ます。

女学校を卒業したばかりの私は、何もわからず教師と云う職業を与えられました。不安な手さぐりの毎日をひき立て導いて下さったのは、今は亡き平井弘道先生と女学校時代から親しくしていたゞいた小俣一先生でした。温い家庭的な御二人との中で助けられ、やがて子供達とも心が通ひ合い、教師としての自信と意欲のようなものがついて行きました。暗いきびしい戦争－　食糧から衣類、学用品の不足、抽選で配給する子供達の洋服、運動靴は父兄の関心の的でした。

生れ育った村の学校に、多くの人々にいたわられ、見守られて過した在職期間を考え、唯有難く尊い思出として生涯私の心の糧として残ることでしょう。

野口光男　三年

大月市富浜町鳥沢二六二〇

創立百周年おめでとうございます。記念誌に原稿を寄せられることを光栄に思います。

在職期間は三年間だが思い出は多い。一番印象に残っているのは千葉県鷺沼小との交歓会（四十三年七月）だ。その年は本校が鷺沼小と交歓会をするようになってから十周年であり、高畑山の仙人も元気だった。下駄ばきのまゝ松のてっぺんに登り我々を驚嘆させたのもつい先日のような気がしてならない。私と大滝すべりや貝ひろいをした子どもたちは現在高校三年生、野球部や柔道部などで大活躍していることを伝え聞き喜びにたえない。

つぎに忘れられないのは習字の上手な子どもが多かったことだ。毎週書道クラブの時間や放課後教えることが楽しみだった。県の展覧会で団体一位になったり知事賞を三人（知見三世子、杉本恵子、丸山美幸）が受賞した。特別賞や推薦などを受賞した子どもは数えきれない。その子どもたちが現在、中・高・大学生になり、すばらしい実績を挙げている、その中で特筆すべきは今年の山日書きぞめ

大会で知見三世子さんが大会大賞（小・中・高第一位）に選ばれ、書道猿橋の名を高めたことである。

栗　本　とめ子（鈴木）十三年

大月市賑岡町強瀬四二五（℡二一〇九二二）

人情のあつかったことが、今でも心にのこり、藤崎、小沢と云うと、何となくほゝえみたくなる。

十三年の勤務を峡谷と段立の中に建った校舎ですごしたが、平和で、親切さのあふれる親たちや、素朴で、人なつこい子ども達との人間的つながりは、私の人生経験の中での、大変大きなそして稀小価値のある土産であったと信じております。百年祭で賑わっている統合校舎のさまを心に浮べて居ります。

久保井　昌　子（藤本）十九年

大月市猿橋町殿上二〇三（℡大月二一一二三三）

星　霜

・創立八十周年教員歴零年ヒマラヤ杉を子らと植えたり
・喧嘩しても離るゝことなき二人掛けの椅子現在は失く
・早春の三皇山に巣箱かけ子らは集いて野村碑拝す
・採点簿片えに吾子のエピソード記し一日暮れぬ
・幾星霜睦みし友は月足らぬ愛児を抱き永遠に眠れり
・きしむ窓に黒板押し当てゝ支えいる小沢の教師われら八人
・発展的理解と出入口に釘打つ弥生螢の光
・なずな畑と名付けてわれら春来れば草摘む空地にきょうも家建つ
・子どもらが築きしかまくら後えより入れば小さき笑顔が覗く
・人文字のその一点がお前かと顔集めて写真に見入る
・鉄筋校舎・囚人札・首振り人形と批判は厳し安全指導
・子らに学び町に学びて猿橋の廿年をいま過ぎなむとする

窪　川　六　郎　一年

山梨市小原西二二（℡二一一九三五）

私が猿橋小に赴任したのは、昭和五年四月、新卒で弱冠十九才の時であった。国中からの通勤は当時のＳＬ列車では無理、猿橋の通りの魚屋の二階に下宿した。三食、室つきで下宿代九円とは今考えるとうそのような話である。

その頃の猿橋町は郡内の中心地で賑わいをみせていた。学校は古びた木造の建物、校長は長坂慶倶先生、目は鋭く、重厚感にあふれ、貫録があった。首席は川村章先生、綴方教育に造けいが深く、名声が高かった。その他筒井、奈良、原田、小泉、遠山、金井、佐藤、後藤、小池先生等の記憶があり、多士済済の集まりで、それぞれ猿橋教育をもりあげていた。私の担任は一年生、何もわからず、相棒の有泉先生に支えられながら、夢中で毎日を過していたが、短現入隊のため、一年で猿橋を去った。当時の教え子も既に五十余才、感

無量である。

窪　川　敏　郎　一年

塩山市中萩原一三七七（℡塩山六一一六）

昭和二十三年四月、私の教師生活六年目はまたも僻地の小沢分校と決まった。母校玉宮の平沢分校、神金の落合分校（現神金二中）から出産直後の妻ともども分校住宅へはいる。

本校六年主任を一週間勤めたが（二組担任は秋山という若い男の先生）川村章校長の話もあり区民の歓迎により、夫婦とも小沢の住人となる。妻が低学年、私が中学年、松浦登主任が高学年担任となった。

郷土愛に燃えた区民の熱情は翌二十四年四月に「小沢小学校」を誕生させた。松浦主任が初代校長、私は校長職務代理、妻の他は高校新卒の和田、畠山両先生。私は四、五年複式担任で国語・音楽両主任も兼務で運動会や卒業式では進行兼オルガン弾き。この秋生まれた長男は今、小菅小の教諭。小沢小は廃されて何年か…　昔の夢が頭の中をかけめぐる。（現牧丘第一小教頭　五十一歳）

窪　川　礼　子　一年

塩山市中萩原一三七七（℡塩山六一一六）

昭和二十三年三月十日（旧陸軍記念日）に長女を出産して、一カ月もたたないのに、四月一日、桜の花に見送られてトラックに家財道具をのせ、主人は御坂峠から猿橋町へ、私は汽車で長女を背に赴任しました。

猿橋中学家庭科教師の予定が、小沢分校住宅の住人決定により、主人ともども分校教師の道へ進まされました。一・二年の担任であり、神金小落合分校から二度目の複式担任でした。

住宅が学校の敷地内ですので、近所のこどもたちの遊び場となり、家に帰れば「国中屋」のおばさんに早変りです。長女や長男のお子守りをしてくれた昭子さんや宏江さんやめぐみさんたちも今はお子持ちの女盛り…　三人とも家へ遊びに来てくれました。私は二十五年三月末転居とともに退職し、三十六年度より時々産休補助教員をして余生を送っています。

山　田　政　雄（真男）五年

甲府市美咲一丁目二一十五（℡五二一三六八四）

岡部氏と東亭に住む。初恵、平井、長原など、よい娘っ児が多かった。ドッチボールに職員顔負け。

五粁以上の坂道を薪炭背負い登校する児童、授業も真剣、行事ポスターは、自主的に提出。

岩殿山、さるはしと画材豊富、勝男、水越、白須、晴雄、橋本など好きな子どもといつも描き歩く。

長坂校長指揮の下、あゆのひしぎは得意。

弦間・中込先生等と踏切向うの医院に下宿、青年教師は人気物、花田、奈良、北条さんは印象的。

日の出屋、岩井屋など十数名の児等に誘われ、扇山から幡野山、小篠へと、日曜日課は山歩き。

三皇祭りは盛大、深夜まで山車の後をつく、狭い校庭もフルに活用、伝、義孝、ともゑ等大いに活躍、私も県教員で二位入賞、白猿座にて知見先生作の劇上演、孝雄、青柳ら大いに張切る。

小泉先生指揮ブラスバンドで出征兵士を送る。

義勇軍に奨めてご免、教え児のご活躍を祈る。

山本　清　九箇月

都留市小形山一八五三（℡〇五五四四三―八二八一）

藤崎分教場主任として僅か九箇月であったので特に印象に残る事も少ない。しいて云えば次の三つがある。

その一つは職員が一致協力してその職務に忠実であった事、特に金井先生が非常に熱心で、積極性あり、研究心に富み、職場の中心的存在であった事は、数十年後の現在も尚記憶にあらたなものがある。その二は南都留から未知の北都留に、しかも分教場で不なれな点が多かったところを、小沢分教場主任、知見先生が御親切にも面倒を見て下さって色々と指導してくれた事。その三は所属の部落民がすこぶる純朴で学校に対し協力的であった事である。

松浦　登（小俣）九年

大月市猿橋町猿橋三〇一二（℡大月四―八二〇六）

水戸藩士竹谷忠氏が、明治七年五月に、長応寺本堂に、小沢小を創めたのだと伝えられていて、私も小沢生れ、明治四十五年、明治天皇崩御の年に入学、越えて大正二年、大正天皇御即位の御大典事業として、大原村々会決議により、一村一校が決議され、両分校となって、四年迄が分れて学んだ歴史がある。

だから五年生は本校へ通ったが、その十年后に、五、六年も引戻し、六年制の分校となり、更に又しても戦后三校独立となったが、当時の小沢地域の教育熱は素晴らしく当時猿中の某校長の言に「中三の平均点八十点以上の生徒中、小沢の生徒が六人も入っている。矢張り薄飼いはいゝなあ」と言われたことは、印象に強く残っている。その后昭和四十年以来、統合問題に対する婦人の反対強烈で、遂に延々四年の末、過疎の嵐の前、涙をのんでの統合を見たのであるが、この様に、七十年間に、四転したという因縁つきの学区も、遂に理想とする一町一校の実現が見られたことは、百周年記念の今、誠に感無量のものがあり。その中に生きたわが七十年の生涯と共に、百周年を心から祝う次第です。

松浦　末子（鈴木）七年四ヶ月

大月市猿橋町一八七（℡二―一四〇八）

分教場の朝は、朝礼ではじまる。

先生と生徒の声は、向かいの長応寺の裏山にコダマした。皆、縞模様、かすり模様の着物を着て登校して来た。あの子も、この子も、みんな泥まみれのジャガイモみたい。純朴そのものでした。前の谷川では、一日中、幼児が魚取りをしていた。皆、のびのびしていた。野放し同然だった。当時は、複式授業。東側は、一・二年。中央が職員室。西側は、三・四年と、五・六年で、三教室と職員室から成っていた。

猿橋小学校、小沢分教場の思い出。（昭和四年から昭和七年）それは、川の流れにも似て、絶対に繰り返しのきかない通り一遍の人生において、私の青春を精一杯にぶっつけることのできた、本当に実りの多い時期であったと思っている今日このごろである。

弦間　菊夫　五年

東京都中野区中野一―四六―五（℡〇三三六二一―三六四〇）

若い独身の教師群が、学業にも、運動にもすばらしい成績をあげ、特に連合陸上競技会や、球技会は町をあげての声援でわいたこと、三月の学芸会は、白猿座で、各学級の競演、戦友もので好評を博した劇などが思い出される。

六月には農繁休業があって、田中、幡野、藤崎方面を訪ね、養蚕の手伝いなどしたこともあった。不景気の極みで、衣食ともに粗末な生活は、戦争への道でますますひどく、欠食のこども、新聞紙でかくしながらたべた―　さつまいもが目にしみついている。

そして、英霊のむかえ、出征兵士を送る駅頭への行進が、繁くなっていった。

横町・中町の大火も忘れられない。

素朴で、人情深い町の人、素直なこどもにかこまれた五年間が、私の最高の生甲斐であったかも知れない。

古屋　茂代（梶原）七年

大月市猿橋町殿上三四（℡二―二三二四）

戦後間もなく赴任して、まず不思議に思ったり、びっくりしたのは教室に直径十五、六センチぐらいの柱がにょっきり二本立っていることでした。そしてそれはどれも中ほどより下は黒光りがしていました。この柱は子ども達にとってなじみの深いものでした。授業中はあくびをかくす柱ともなり、また休み時間ともなるとはんとう棒よろしくつぎつぎにのして、私の一姿でも見ようものなら猿のようにすべりおり、みごとなものでした。かくれんぼの鬼のよりかかる柱ともなり「〇〇君」と呼ぶと浅黒いだんご鼻が、ひょっこりのぞき、はずかしそうな顔もかくしてくれました。今は思い出だけの柱となりましたが年ごとみがかれると共に育っていった子どもさん

達も今は一児二児のよき父母となり、また立派な社会人になって、活躍しておられることでしょう。

小林培美　五年

大月市初狩町下二〇八五（㊐大月四―六五五〇）

市内最古の名門の歴史と伝統に輝く学校の、運営管理の重大な責任を感じた。時まさに市制合併の直前、賛否両論の渦中、曾ての誇り高き「県下での猿橋教育」としてのプライドを守る郷愁と、新しい体制への脱皮移行の過渡期だった。地域住民の教育熱と、時のＰＴＡ会長、故加藤洋氏の卓抜な指導力が、学校教育の援護となって、八十周年記念事業の図書館設置、校庭拡張の完成等も昨日のことのようであるが、以来時の流れ二十年、今や百周年を迎えられた時も尚「郡内教育発祥の地、教育さるはし」の名声が、消ゆることなく守られていることは、誠に嬉しい限りである。

不肖、その百年の教育の歴史の一こまに参画出来たことは、生涯の感激です。

輿水　浩　二年

甲府市緑が丘二丁目十二―二九（㊐五三―六四八八）

いま在る猿橋小学校の大事な大事な節に当る二か年だった。校舎の改築、統合の実をあげなければならない二か年だった。

父母の皆さんの真剣なまなざし、献身的な学校への奉仕、いまも脳裡に強くやきついてはなれない。

ひとり一人の子どもを、どこまでも大事にすることが民主教育の真髄だと、いつも力んだわたしだった。本当に教育道を行ずるならよそ者も土地っ子もないんだ。むしろ土地っ子よ、甘えてはいけないぞ、と力み通したわたしだった。でも、当時の先生方をはじめ皆さんがよくわたしの本心を理解して下さり、楽しい楽しい二か年であった。星霜はうつり、ここに百周年を迎えられましたことに心から祝意を表し、功績のあった多くの故人のご冥福を祈ると共に、皆様にご同慶の意を表します。　現　山梨県議会議員

込山定一　三年

甲府市上阿原町七二三（㊐三五―六六〇八）

幸運な偶然で私の在任中に当時待望の体育館とプールの完成を見た事は感激でした。

赴任の時、駅から学校迄歩いて見て先づ感じた事は長い国道沿いの交通問題でした。

前任校で児童の悲惨な交通事故死を目にしているだけにこれは大変だと痛感しました。幸い交通安全実験校となり、職員児童父兄等協力して交通上の諸問題に取り組んだせいかどうか、とに角大した事故もなく過ごせた事を本当に嬉しく思っています。

仙人の高畑山や千葉海岸を舞台とした鷺沼小との夏の交歓会にまつわる思い出の数々

父兄や地域の方々の力強いご協力、温かいご交情に包まれた三年間の一コマ一コマが脳裏に去就して、私にとり死ぬまで決して忘れられないだろう猿橋小の弥栄を心から念願致しております。

五味　武　二年

甲府市塩部三丁目十二の七（㊐五二―六九六四）

あれから十年の才月が過ぎました。

若芽の四月は
はじめて猿小の正門にたった
あの頃がよみがえるのです。
わずか二年の勤務でした、が
扇山への遠足、秋の大運動会、
球技大会、陸上記録会、
横浜、鎌倉、江ノ島の修学旅行、
鷺沼小との交歓会……
桂川での鮎解禁日の天ぷら会
今もはっきりおぼえています。
友だちをだいじに、
これが、うちわ学習のねらいでした。
時間が余りにもすくなすぎ、風のごとく
さった私でした。

百周年を迎え、ますます発展する猿小に大きな拍手を送ります。

小池和男　二年

韮崎市韮崎町一九二六（㊐二一―一六八五）

昭和二十九年度から三十年度の二年間という短かい勤務でしたが、教員としてのスタートを貴校から始められたことを光栄と考えております。

旧校舎の狭い校庭での運動会、回わり舞台の白猿座で行われた学芸会、井の頭公園や高尾山への遠足などがなつかしく思い出されます。御地の教育への熱情とともに八十周年記念行事や、新しい図書館建設、放送教育研究公開なども忘れることができません。旧校舎裏の教員住宅生活と今は立派に成人された当時の童顔とが二十年前のままに思い出されます。御地皆様方の御発展を祈り上げます。

五味　醇　四年

長野県茅野市塚原三七五九の五（㊐〇二六六七二―七二七五）

新卒で赴任した学校、藤崎分教場。
三、四年の複式学級、かわいい子どもばかり。
裏の桂川で釣をしたり、泳いだり、

狭い庭に飽き足らないで、水車小屋まで走らせたり、本校に負けまいとして、作文や習字、珠算の特訓をしたり、今から考えると強制ばかりの生活だった。

床がよく磨きこまれて、まわりの新緑が反射していた。

よく働く子どもたちだった。一人一人の顔が浮んでくる。

十六年度、高等科を本校でつとめたが、分校の子どもは頑張りがきいた。

戦前だったので、作業が多かった。体力づくりのようなことが活発で対校試合で優勝もした。上京のたびに窓から変っていない校舎の屋根や、お寺が見えてくると叫びたくなる。

興　水　三代子　二年

大月市富浜町鳥沢二五四三の二（℡四－五四五五）

さるはしと私

姪も今では高校生

二才の頃、古い校舎を指さし、電車の窓ごしから、これが「おばちゃんのいっている猿橋小学校だよ。」と母親におしえられ、さるはしという言葉が忘れられなかったのだろう、私は、二才という、かわいい姪から「おさるのおばちゃん。」というニックネームをもらった。しらない人が聞くと動物園の飼育係の、おばさんかと思われる。「お母さん、おさるのおばちゃんから電話だよ、おさるのおばちゃんが来たよ。」と今でも、その呼び名で通っている。私からは、ほんとに猿橋（おさる）は、忘れることなく、いつまでも思い出される猿橋です。

後藤　登茂恵　十年五ヶ月

大月市七保町下和田（℡二－六〇八八）

私の赴任したのは昭和十年四月一日でした。母校で恩師の長坂先生が校長先生でした。

先生方は指折りの研究家揃いなので、なんとなく怖いようなはりつめた気持ちで行った事を昨日のようにはっきり思い出します。でもそれらは私の長い教員生活の中で一番充実した日々であったと思います。それぞれの個性を発揮し、生かしきった自信に充ちた先生方、一面とてもなごやかなふん囲気で、運動に研究に打込んでおられましたのでいろいろの面で教えられる事ばかりでした。

猿橋小時代が忘れられない思い出として今尚生きています。

小池　汀　四年

長野県松本市里山辺美里町一六一八の四（℡〇二六三三三－一九四〇）

私は昭和四十六年三月末、松本工業高校を最後に四十一年間の教職生活から退きましたが、その後も市内高校の講師として昨年末まで勤めておりました。

猿橋小学校は、私にとっては教員として最初の赴任校です。四十

余年を過ぎた現在も、当時の生徒や同僚のこと、町の様子や下宿生活のことなどが断片的に記憶に残っており、折にふれて思い出すことがあります。

現在は小学校も町もそのおもむきを一変したことと思っておりますが、上京の節はいつも車窓から猿橋の町並を眺めて当時を偲ぶことにしております。

小坂　弐　二年

大月市富浜町鳥沢（℡四－五三五二）

輝やかしい伝統をもつ猿橋小学校には、昭和三十二年四月、現在の統合校舎前の旧校舎に二ヶ年間在職させていたゞきました。その間思い出も数々ありましたが、その中で校舎のことが印象に残っています。校舎の経過年数は驚く程になってはいないが、各教室の中に丸柱を立てて、補強をしなければならないような危険な状態でありました。二階の教室で一斉に立ったり、腰掛けたりする時は下の教室ではガタガタして授業が中断されてしまいます。学習中に地震があったならば、という不安が常にありました。このような危険校舎でありましたので、ＰＴＡに働きかけ、各部落で懇談会を開き現状を訴えて、一日も早く校舎建設をされることを呼びかけ、建設基金として月掛貯金をすることになりました。

統合校舎もここから始まったと思います。

手塚　龍雄　十一年

塩山市上塩後五八番地（℡塩山三六六三）

今、北側の高台（猿橋中）より東南、伊良原の岡に立つ鉄筋三階建の校舎を見る時、指折り数へて二十余年前の当時の様相が瞼の中にうつり変遷のはげしさを感ずる。

国道二十号線を前にして狭い運動場で校舎の外側には添木があり、階下の教室には二本の丸い柱が天井を支へ、これが又とないよい攀登棒となり担任の先生の悩みの種であった。子ども達は暗に黒く汚れた高さを競ったかも知れぬ？。リズミカルに鳴る廊下のきしみも懐かしく思える。「……ボロ学校」と悪口を聞いて、口争いをして担任にお目玉を頂いた当時の子どもは、今はレッキとした父母となり活躍している。

ここに百周年のお祝いを契機として益々切磋琢磨することを願います。

雨宮　晃　五年

甲府市中央三丁目六の十一（℡〇五五二三三－〇〇二三）

昭和十年頃縁があって大月に住んだ。それから都留中を卒業して甲府へ帰り、師範学校を卒業し、それ以来、教員として殆んどを甲府の学校で勤務した。交流計画によって、また大月に縁があり、先ず猿橋小学校へ赴任した。それ以来十年になります。

忘れられないことがいくつかありますが、その一つは教員生活の一つの段階としての教頭になれたことです。それを小沢小学校でやれたことで、私の一生の中でうれしい事です。山の中の小さい学校、新まい教頭、本当に楽しい二年間の生活でした。

それから三年たって、また古巣の猿橋小学校へ教頭としてもどって来ました。二度目のうれしさです。小沢より大きく何か母校へ帰ったようでした。自分の事ばかり書きましたが、これはみんな地域の方々のご支援のたまものと深く感謝いたしております。

安　藤　順　正　二年

都留市上谷一二六一（℡〇五五四四三ー六二九〇）

○統合、廃校と新聞にありてふとわびし
　時の移りを　かみしめる朝
○いつも吾子を子守りくれたる女の子も
　はや　高校を卒えぬと聞きぬ
○小沢小に共に勤めし　K先生と
　会いて偲びぬ　古き校舎を

（小沢に富士急バス初めて運行される日に）

○村人の歓声高くこだまして
　定期のバスのはじめて走る日
○お不動・扇屋・日かげなど
　家号も知りて　二年を経し

○目閉ずれば眼裏深く浮びくる
　校舎のわきの白つゝじの花

安　藤　久　子（米山）一年

東京都武蔵野市御殿山二ー八ー一〇（℡〇四二二四五ー二四二三）
安藤敏治方

本原稿は安藤久子の長男、敏治が代筆したものです。母久子は四十八年七月強度の健忘症となり、小生宅に引取り、同居させておりましたが、本年一月より埼玉県越ヶ谷市千間台の順天堂医大附属病院に入院させ、加療中であります。本欄に本人自筆で記入できないことを誠に申訳なく存じます。

天　野　文　雄　五年

大月市笹子町黒野田一一六七の一

猿橋小学校は、私にとって教員として第一歩をふみだした学校でした。昭和二十二年四月一日、「猿橋国民学校勤務を命ずる」という辞令を手に、期待と不安のいりまじった感情をおさえながら赴任しました。昭和二十七年三月まで、ただ無我無中の教員生活でした。

思い出は数限りなくありますが、渡辺道子さんのことだけご報告させていただきます。あの頃、かごを背負いニボシを売っていた道子さんは、笹子出身の好青年と結婚し、二人の子どもは小学校に通

い、今は佐藤道子さんとなり甲府で幸福な生活を送っています。毎年正月には尋ねてきますが、みっちゃんと会うたびに教員になってよかったとしみじみ感じます。

七色の雲かがやく猿橋小学校百年祭を、心からお祝い申し上げます。

天　野　都　子（奈良）二年九ヶ月

大月市笹子町黒野田一一六七の一（℡五ー二三二七）

短い年月でありましたが、私が御厄介になっていた頃は、実験学校で多くの先生方の研究の場でした。会議や式がある度に、子供達は自分の椅子をかかえては、一・二年生の教室に運んで会場作りをしたものでした。

あれから二十七年たった今、昔日の面影はなく近代建築の粋を集めて造られた鉄筋校舎と、教育器機を完備した猿橋小学校、由緒ある教育の伝統と誇りに輝く学びやの永遠の発展を祈り、ここに学校創立百年を迎えられた事を心からお祝い申し上げます。

天　野　富　喜　二年

東山梨郡大和村鶴瀬八八五（℡大和局二五〇二）

春は教室の中までも入ってくる校庭の桜吹雪に、秋は全山紅葉に包まれた文字どおりの錦しゅうの山ふところ、まこと現世の公害を知らない別天地、人情味あふれる小沢の思い出は退職後の今も次から次へと脳裡に去来して参ります。

先輩各位の築かれた小鳥の学校の名にふさわしく四季を通じて、終日明るい小鳥の囀りの聞えた学舎、地域の文化センター小沢小学校。

小規模校勤務の先生方のご苦労、純朴な児童、教育に全面協力の父兄、歴代ＰＴＡ会長さんはじめ部落の皆さん方に公私共にいろいろと御指導戴いたこと等々…　にさゝえられての二ヶ年間の楽しかった思い出のかずかず。

〃いつどこにいても、幾つになっても　楽しい思い出を持っていることは幸せである〃

佐々木　護　郎　三年

大月市大月町真木（℡大月二ー一六九四）

昭和三十八年四月、教育庁管理主事から、大月市の誇る、伝統を持ち、前年完成した市内初の鉄筋校舎猿橋小に、胸弾ませて赴任した。

当時は、広い伊良原に、ポツンと学校だけ、学校統合第一号の校舎の処女地に、校長としての抱負をあれこれと描く。早速、八月鷺沼小との交歓会、威風堂々、乗り込んだのが、完成直後の屋体、鏡のようなフロアーにほれぼれし、これではならじと、秋から冬にかけ、体育館とプール新設の計画樹立、ＰＴＡ共々市へ陳情、地元負

担は部落懇談で毎晩の行脚、大野会長、飯高、久島両副会長等の御協力に力を得て、その推進にまっしぐら、遂にその努力が実って、翌年秋には待望の屋体完成、更に朝日小沢の小林茂男氏所有の田圃を、プール建設予定地として確保の線までこぎつけた時の喜び等が忘れられない。

佐藤八郎　五年六ヶ月

韮崎市韮崎町二四九六（℡韮崎二―一七九八）

在職当時の思い出。（在職は昭和三年四月から同八年九月までです。）

昭和初めの頃は郷土教育が盛んでした。長坂慶倶校長先生が陣頭に立ち、全職員よく結束して研究指導にあたりました。昭和七年八月文部省主催郷土教育資料展に出品した「水を中心とした大原村の人文」に対し、次の講評があったことは、今でもよく覚えています。「猿橋小学校の地形地質、土性、湧水、産業、交通、集落その他あらゆる方面にわたる綿密な調査は、すべて水を以て統一した組織的な研究で、地形地質と水の関係、湧水と集落発達との関係、段丘面の水田化、その他いっさいの人間生活を水に関係を求め、郷土が如何に水に依存しているかをあらゆる面から考察がなされ、同校職員諸氏の深刻な研究態度がよく表れています。」（大原村は猿橋町の旧村名）

思い出の猿橋校よ、永久に栄えあれ。

佐藤栄次　四年

猿橋町田中（℡四―八一六六）

私の務めていた時は、小沢小の巣箱作りと小鳥の観察の黄金時代ではなかったろうか。これらの中心に清水欣和先生がなり、全校全所属が協力して成果をあげた。先生は寸暇を見ては家庭訪問し、家庭は年間を通して巣箱の材料を見付けるのに気を配った。

四年連続巣箱コンクール全国大会で文部大臣奨励賞をうけ、昭和二十六年には輝く農林大臣賞を頂いた。それで、これを記念して白川公正、斧田一夫両君を連れて天野県知事と井上市長並に県市の教育委員会に巣箱を献上した。

昭和三十六年ＮＨＫ主催全国夏休み子ども作文めぐりに県代表に選ばれ、小鳥の観察のようすを放送し好評を得た。今年の五月機会を得て巣箱コンクールを合同庁舎で見たが残念ながら不充分なものが多かった。やはり研究努力している時はよいものが生れることを痛感すると共に、時の経過のみが必ずしも進歩の条件でないことを思った。

佐野侃　三年十ヶ月

大月市大月三丁目四―十八（℡二―一九九三）

恋路峠を経てなおも東へと歩み続けると、森の陰に古ぼけた小さな校舎と、小さな小さな運動場があった。玄関には「大月市立藤崎

小学校」と大きく書かれてあった。

そこで、可愛い子どもたちと対面したのは十六年も前のことだ。小学四年生―　平和な村の子どもらしく、明るく率直で澄んだ瞳が実に印象的であった。そして、いつでも力いっぱい身体全体で物を確め、学びとっていく姿に、人間として生きる姿を美しいと感ぜずにはいられなかった。なんのけがれも知らないこれ等の子どもたちとの生活は、時のたつのも忘れる楽しい毎日だった。

当時の彼等が今年の正月私の家を訪れた時、髪を長くしたたくましい現代の若者として成長していた。その中のひとりが差し出したものは、結婚披露宴への招きであった。―

木村三代子（花上）五年

神奈川県高座郡綾瀬町寺尾一四三〇（℡〇四六七七八―七九二四）

朝まだき　我が教室に　花を活けて
去り行く人は　心のみとむ（昭二五）

ご主人が病気で大変苦労なさっていられたＫさん、自分のなりふりはかまわなくても、心の錦は失うことなく、お子さんの教育には大変熱心で、若い未熟な教師に協力的で親切でした。研究授業の日、私が登校すると立派な生花が活けてありました。大体Ｋさんだと思いましたが、解ったのは後のことでした。

お庭に作られた花を度々届けて下さったＫさん、お子さんが卓哉君、私が現在住んでいる家の、前の御主人が同名の卓哉さん、又先日、私の勤務している保育園に拓也君が入園、珍しい名前だと思っていましたのに、偶然であの頃のことが懐しく思い出されます。現在Ｋ君は結婚して豊田に、Ｋさんも養護教諭になられご幸福の由、大変嬉しく存じています。

清野敏子（中村）三年六ヶ月

大月市大月二丁目八の三二（℡大月四〇四五）

けさも椿姫の曲が流れる。又朝礼か、自由を尊ぶという新教育の中の落着かぬ集り、登校拒否症の児童の様に私の心はふさぐ。「お先に」と頭を下げて、ようやく六時の列車にとびのるのが精一杯、大切な子供と心ゆく迄語りたい希いに逆って四六時中駈け足の実験学校、回転のおそい自分にはすべて不似合いなものでした。こんな私をもよく理解し支えて下さったのは猿橋の地、御父兄、学校周辺の愛すべき青年達すべてでした。そしてそれは寒々風の吹きぬける渡り廊下と、「自分達で作った枝豆をゆでてたべた時の嬉しさが忘られない」と、一年生時代を語る子供を先ず想い起こす。昭和二十三年から七年への時代でした。結婚、出産、育児とすべて負んぶした猿橋は、二人の子供の心の揺籃の地。百年祭の四分の一は、あれ以后とは、御迷惑を謝す心と懐しさで一杯です。

宮沢　純太郎　四年

山梨県北巨摩郡小渕沢町（℡〇五五一三六－二一六九）

私が新卒として猿橋小学校藤崎分校に着任したのは、戦時色の強くなった昭和十六年四月でした。学制改革で国民学校と変った時でした。当時の校長は山中信俊先生、分校主任は知見好文先生で今も教育界で活躍している先生方と共に楽しい教師生活の振り出しでした。藤崎分校は当時は、たしか百二十人位で複式の学級もありました。学芸会や、運動会は地域の人々が集まり盛んに行なわれたものです。戦後は本校勤務でした。校庭のすみの大きな桜、また小使さんのおじいさんが長く白いアゴひげで夕方になるとよく尺八をふいていたのを思い出します。戦後の新しい教育制度に変わり、教科書は粗雑でしたが、ＰＴＡなど結成され先生方は日夜新教育のあり方など議論しあい研究しあったのを思い出します。

塩塚　后子（武藤）七年

大月市猿橋町藤崎一九一五（℡二－二七九三）

大正十二年九月一日午前十一時五十八分。夏休み明けの始業式が終り、生徒を帰宅させた直後におきた－　あの関東大震災は、今もありありと記憶に残ってゐます。いち早く逃げ出した私は、万一生徒がゐたなら、適切な避難誘導が出来たかどうか、思い出してもぞっとします。

又六年担任の野村先生が、教へ子の都留中学校の受験の件につき、宿直室で、割腹自殺をなさった時の事。教師としての責任感の強さに心をうたれ、今もあの壁に飛び散った血の色が忘れられません。

又、遠足でよく小篠の釣り橋を渡り、梁川小学校へ行きましたが、（今のように車の走らない）甲州街道を列を作ってゆうゆうと歩いた、呑気な良き時代の思い出等が、次々と浮んで参ります。

白川　一（小俣）五年

大月市猿橋町小沢一四三八（℡四－八二八八）

戦前戦後のあのめまぐるしい、三十年も前のこと、母校で近所の子供達と、教師でなく姉のような気易さでつきあった五年間、疎開児も交えて五十五、六人のすしずめ教室でした。大月空襲の際、田中に焼夷弾落下、おそろしさでにげまどう子供達、腰や足に、しがみつく子供達をひしとかゝえて目をつむり敵機退散を今やおそしと念じたこと。

今は薬害云々といわれているＤＤＴを頭から足先まで真白になる程生徒一人一人にかけてやったこと。その生徒達も今は立派な父親、母親となってその子供も、丁度あのころの父母の年令になりました。

通学バス内で見かける子供達の顔形から仕草まで、なんと親達に似ていることか、なにかほゝえまずにはいられません。

校舎も敷地も立派になりました。でも校歌は私の幼い時と同じです。やっぱりなつかしさで一杯です。

白須　一成　二年

大月市富浜町鳥沢一五一四（℡四－五七五八）

一、老朽の校舎くちても名はくちぬ
　　学舎に集り　子らぞたのもし
二、藤崎の校庭せましと遊びし子らよ
　　ああ　懐しきときうるわしきとき
三、ＪＲＣ、久保の川原の救急法
　　夏の球技の　熱き思い出
四、鷺沼の子らと連れ立ち工場見学す
　　また　夜の集いの炎偲ばる
五、統合の校舎建築落成と
　　このふたとせの長き道かな
六、伊良原に偉風堂々新校舎
　　風薫る朝　五月晴れゆく
七、両教場　往来しげき恋じ峠
　　時に十六ミリ負いし思いよ
八、初入りの新校舎二階の三年生と
　　よろこび満つ　ひととせの幸
古きよき町、光輝ある猿橋小よ。雑詠擱筆

干潟　佐内（手塚）四年三ヶ月

大月市大月三－一－二三（℡二－〇六七六）

私が猿橋小の小沢分教場に赴任したのは、昭和十四年のことで、戦争が始まってからまだ二年、連戦連勝の勢いに国民が酔っていた頃でした。

小沢の部落から出征する兵士があると、生徒といっしょに神社での壮行式に参列し、猿橋駅まで見送りに行きました。日の丸の旗を振り軍歌をうたいながら、しかし、この人達の幾人かは再び故郷へ帰ることはできませんでした。軍国主義の教育の中で、ようやく窮乏の気配を感じながら、当時の生徒も教師も大変だったと思います。

今は、平和で自由な状態の教育界にあって、往時を偲び感無量なものがあります。

伝統のある猿橋小が今後ますます発展されるようお祈りいたします。

関戸　孝子　二年

大月市初狩町下初狩三一八九（℡四－六四〇三）

私が、猿橋小学校に在職したのは、ただ二年ですが、学校を卒業して、すぐ勤めた新任地なので、今でも、なつかしく思い出します。校舎も、前の所にあって、運動場の端を、人が通ったり、牛が、ゆうゆうと横切ったりして、のどかな風景でした。

運動場も、下の河原のそばへ、草原を切りひらいて、一つ作って、そこでも運動を、やったように記憶しています。

学芸会の時に、六年生が、下の学年の歌の伴奏を引き受けて、とても、じょうずにピアノを弾いたのが、印象に残っています。

先生も生徒も優秀で、進歩的な学校の雰囲気の中で、教職一年目の私は、いろいろ親切に教えていたゞきました。

鈴木富治　三年

南巨摩郡身延町清子（℡二一六五二三）

学校を卒業して猿橋小への辞令はいただいたが、着任したのは兵役をすませた、大正十五年九月で、受持は四年二組、河原直、大野四郎、橋本金衛、奈良利勝、森菊枝、中西千恵子、戸塚梅子、今井節枝など四十人程だった。

二年目四年一組、三年目五年男子だったが、不行届の点が多かったことと思っている。

学校は校訓「誠」を中心に、国語特に綴方の研究が盛んで、いろいろ教えていただいた。

三年間、小柳町の鈴木さんの長屋で自炊をしたが、秋山のうどん屋へも厄介になった。

いま時折上京の節、車窓からみる猿橋は、その頃とは大分変っているが、初任の地として忘れられない。尽きぬ思い出を駄句に託して、

花吹雪出世大神春祭り
鮎解禁釣り人ならぶ桂川
谷渡す奇橋猿橋紅葉散る
狭間空岩殿山の雪景色

鈴木九三子　十年

大月市御太刀二丁目（℡大月二一二六三五）

百年祭おめでとうございます。

私と猿橋小とのつきあいは、二十一年四月に台湾から引揚げてきて、六年に転入した時からです。その後幾年月を経て、母校の教壇に立った時には、胸のあつくなる思いでした。

第一回の鷺沼小との交歓会に参加して、その夜、先方のＰＴＡの方に背負われて、東京湾の夜景を眺めたこと。古い校舎から新校舎への移転、その次は、小沢小の小さい校舎で、力一杯がんばった子供たちとの日々、鳥の巣箱かけに汗を流したこと、更には両校の統合という歴史的な変遷の中での思い出など……。

百年の流れの中のひとときに、私には云いつくせないほどの思い出を手にしたのです。

土屋　璋　一年五ヶ月

大月市御太刀一一五一十四（℡二一一七六二）

御校へ着任したのは、新猿橋のできた昭和八年四月でしたから、四十一年も前のことだったなあと、今更乍ら光陰矢の如しと、驚いています。教員としての駈出し時代でしたが、恩師の長坂校長や多士済済の面々に、みっちり仕込まれたことは、大きな幸でした。

受持ちは五年男組で、都倉宗治（戦死）井上静男、佐藤正夫、小俣義勇、長幡宗親、花田明、仁科義人、羽田光男君等元気者揃いで短期間でしたが張り切って楽しく過ごさせてもらいました。

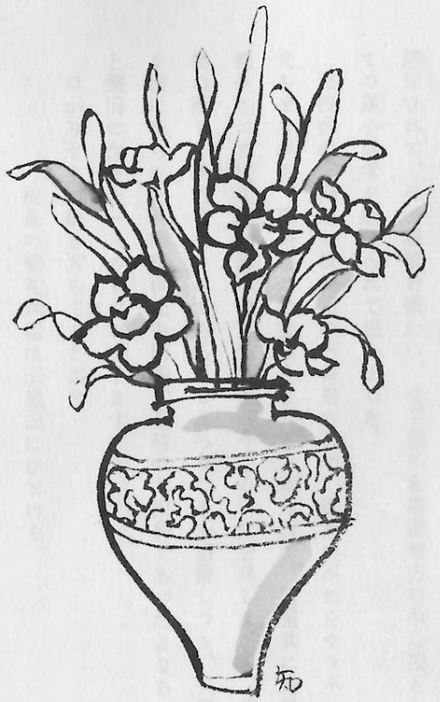
今は亡き小泉善信先生とは同じ葛野から、自転車を連ねて通いましたが、荷馬車の轍の跡がひどく、雨降りの時など難渋しました。支会の陸上競技会、正月の少年消防隊の出初式なども懐しい思い出です。御校が一〇〇年を一大契機としていよいよ御発展を祈念しています。

（大月市教育委員会にて）

故人追憶

物故校長の横顔他

杉本為次郎　小林覚　清水敏宛　長坂慶俱　山中信俊　森寿　野村茂



故人追憶

杉本為次郎翁のこと

百年誌編集のために、沿革誌をひもといたところ、明治二十年のところに、当時の猿橋校の先生として、杉本為次郎という名前が乗っている。そして又、明治二十七年に、教育のお目付役であるところの、学務委員の欄に、矢張り杉本為次郎氏の名が記されている。これは、恐らく教員と兼務の形で、両方へ乗ったことゝ思われるが、更に明治三十三年に、今度は、初めて明確に、校長の欄に杉本氏の名が乗っているのです。そして明治三十八年の日露戦争の年まで校長を勤め、翌三十九年の二月二十八日には、町を挙げての慰労会を催し、時計を贈ったと記載されている次第で、これから類推いたしますと、実に杉本氏は十有八年間、連続して、猿橋校に籍を置かれ、その教え子たるや、まさしく一、〇〇〇人に近いものがあるやに思われるのです。

先生は、往時、寿町の町裏に居住されて、文字通り、教育の中心的存在として、猿橋教育のみに専念された方と申しても云い過ぎではないと信じています。

何れにいたしましても、当時は、授業生といって、後の代用教員、今の助教諭クラスの先生が大部分であった中で、遂には校長にまで昇進された杉本氏の功績は、猿橋町民として、決して忘れてはならない事と思う次第です。

惜しむらくは、先生の御身内の方も、今町内に無きに等しいために、先生に関する逸話や、具体的な御功績について記録することの出来ないことを、心から悔まれるものですが、筆者は幼心にも、父の口から「杉本為次郎先生」ということばを度々聞かされて居りますので、この百年記念誌には、どうしても欠くことの出来ない人物として、ペンを取ったわけです。心の底から、猿橋校の礎石となられたであろう杉本為次郎先生のみたまに、深謝するものです。

謹厳居士　〃小林覚先生〃

明治四十五年四月、当時は、北都留郡下の中枢をなしていた猿橋の、本校に赴任して来た、小林覚校長は、北巨摩の産とかで、体格はやゝ横幅の広い格幅で、特徴といえば鼻下に貯えられた、立派なひげと、常に唇をへの字から、少し右下に曲げていられて、朝礼の時など、壇上に立たれただけで、数百人の児童が、直立の姿勢になる程、威厳を持たれた先生でした。

校長室に入る児童は、直立不動の姿勢で、上体を四十六度位いに曲げて礼をして、おづおづと入るという程、全く、今時の師弟関係から見ると、想像も出来ない程の状景でありました。この先生が、大正五年三月に、大月東小学校に転任されるまでの五年間は、第一次世界戦争への突入時代で、世情もまことに混乱の時でありましたが、猿橋小学校は、小沢、藤崎、小篠三校の第一次合併時代であり、

まことにその運営の困難な時であったのでしたが、職員の不充足等の難関を克服されて、名実共に、北都留郡下の要的な学校運営をなされた功績は、今も私共の敬慕して止まないものがあります。あゝ小林覚先生よ、あなたこそ、頭のてっぺんから、足の爪先まで、謹厳の二字で練り上げられた典型的教育者であることを忘れることは出来ないのです。

先生の郡内における最後の職場は、たしか、上野原小学校と記憶して居りますが、明治の末から大正にかけての僻地北都留に、小林覚大先生の巨業は、歴然として残されて居る様です。即ち神格された古の「校長像」が六十年経ても尚、脳裡に焼き付いて消えやらないものがあることを、現世と比較してみて、今更に感無量のものがあります。

○壇に上れば　子等の身内を電光の
　　走るがに思ゆ　大校長先生

清水敏寛校長の思い出

大正九年から、昭和三年までの八ヶ年、猿橋小の校長として、その痩身を、かみそりの様な斗志によってカバーされながら、いわゆる「オッカナイ校長」として、独自の道を歩まれたのが、清水敏寛先生でした。ほんとの呼称はどうか知りませんが、私共は「ビンカン」と呼んでおりました。この語呂は、全く、先生の御性格や、御風容を、まともに表現しているものゝ様でした。

矢張り北巨摩の産かも知れませんが、御転任の後の消息はあまりわかって居りません。たゞ敏子さんという美人の娘さんの印象だけは、当時の学童の中にも相当残されているやも知れませんが、おっと、これは少々脱線の様ですね。

清水校長は、八年間、時には町長さんともいがみ合われる程の斗志をもって、支那事変直前の、嵐の前の静けさといった猿橋の町に居住されて、その敏腕を振われ、文字通り北都留地方の中心校としての猿小運営を続けられて居りました。

旧校舎の、薄暗い校長室の一番奥の方で、縁無めがねをキラキラ光らせながら、焦茶色の結襟服をきちんと着られて、悪童共に御説教なさって居られた清水敏寛先生よ、今この一文を草しながら、草葉の蔭で、微苦笑なされて居られるだろうことを想像しつゝ、矢張り次に来られた長坂慶倶先生同様、当時の大校長であったよなあー と懐旧の念また一入のものがあります。

○かみそりの鋭き刃もてさす如き
　　校長の朝礼訓話は三皇山にひゞけり

古武士の如き長坂慶倶先生

北巨摩の産、刃の様な鋭い気骨が、全身に満ち溢れている様な校長先生でした。二度のお勤で、初回は大正八年から四年程、当時の

首席訓導として、高等科の担任、結襟服に学帽を冠り、後の相互園からの御通勤、授業中、私語や外見などすると、大喝一声「〇〇、何をしている！」とやられる。大低の者は、とび上る程だったが、こんな印象の中でも、まことに懐かしさの残る先生だった。

二度目は、昭和四年、晴れての校長先生となって、軍国華かな昭和十三年迄の、約十年間を、今の小柳自治会館のある所の、校長住宅に居住されて、文字通りの陣頭指揮ぶりを続けられたのです。子沢山の先生で、どの子供さんも優秀でした。医師、教師、等々の道をおのがじゝ立派な歩みをなされて居られる様です。北都留教育界の大御所的地位を続けながら、遂に大月の御太刀に永住の地を得られ、退職後は、大月町の教育事務をなされる等々、終生を教育のために尽された先生の思い出は、まことに〃古武士〃の如き印象となって残っております。

今、「あんな先生が居られたらなあ、」とつくづく思い出されてなりません。

晩年、御太刀の家から、東京の医師の御令息の許に移られ、その地で亡くなられましたが、御葬儀は、御太刀の旧の家で行われました。多数の教え子や、御太刀の方々の盛大な野辺の送りの状も今だに印象に残って居ります。特に先生は、学校沿革誌は「かくあるべきもの」という見本を作られた方で、本誌の資料の大半は、長坂先生の御記録のお蔭といっても過言ではないと思います。

地下に眠られる先生に衷心より感謝申上げつゝ懐旧のペンを擱きます。

〇怒る時ライオンに似し師なれども
　眼鏡の奥の瞳のやわらけく

政治家校長山中信俊先生

生れは南都留小立の産とか、昭和十四年から十八年まで、太平洋戦争の真最中にわが猿小に赴任されたのが山中信俊先生である。

ヒットラーに似た風ぼうで、長身の美男子であり、教育者というよりは政治家タイプ、小事には全く無関心で、国民服がよく似合い、校長室でコックリコックリやることがしばしばだった。家庭的にやゝ恵まれない点もあったようであったが、そんなことはおくびにも出さず、常にぼうようとした態度は、大物校長の感が強く、どこかしら〃寄らば大樹の蔭〃的な面を持つ校長だった。他の校長のように分校歩き等は多くせず、主任に任せっきりといった点があって、それだけに、分校主任は、責任を大きく感じていたようであった。

その山中校長は、後に政界に身を投じて山梨県議会議員に出馬し、その本来の持味を大いに生かして、県政界に御活躍されたことも、思い出の種となっている。思えばこの山中校長在任の五年間こそ、日本の運命を決する重大な時であって、曰く一億玉砕、曰く〃ほしがりません勝つまでは〃曰く〃鬼畜米英撃滅〃などを盛り込んだ軍歌が津々浦々に氾濫したときであり、教育も、分散授業時代、校庭開墾時代の直前で、アッツ島玉砕や、義勇軍増派の時であって、山

中校長も、まことに多難の五年間を送られたことを、今もしみじみ思い出すものです。東京空襲の米機が、毎日のように、雁ヶ腹褶の山上をキラキラ光りを放ってとんで行き、その一機が扇山の麓に墜落して、操縦兵が浦えられた時等でさえ、山中校長は、まったく慌てず、騒がず、校長室にどっかり座っていたというエピソードも、うそかまことか、今時、こんな校長はなかなか見つからない様で、筆者もその点、この校長の思い出は捨てがたいものです。

〇丈高く　ひげ美くしき校長も
　共に歌えり　水づく屍を

円満居士　森　寿先生を悼ぶ

学童疎開、空襲々々、一億玉砕等々の語が、日本全土をゆさぶり続けていた敗戦前夜の昭和十九年に、歴代国中校長に独占されていた猿小の校長の座に、第二の郡内出身校長として着任された森寿先生は、まことに福徳円満居士でした。恐らく、当時の学童の中で、この校長さんに叱られた人は、数える程も無かったでしょう。常に柔和そのものゝ顔容を絶やさず、それが、各校の方々の心を促えてか、第一回教委公選に打って出て、ゆうゆう当選の栄を得られたばかりか、その後は、大月に居住され、戸沢の家や資産の管理をなさりながら、大月市初代教育長となられて、地教委の基礎づくりに、後半の人生を全力投入されて来た方であることは、まだ新らしい事実ですから、私が、こんなことを書くこともどうかと思いますが、何れにもせよ、森先生こそ、教育道一筋に、その全生涯を終えられたといっても過言ではないでしょう。

その森先生が、東郷小の疎開学童を引率されて、藤崎分校を訪問された時、運動場の一隅に、山と積まれた「たい肥」を（これは、当時分校児童が、桂川原の雑草を刈り運んで食糧増産のために使用しようとしたもの）見ながら、東京の子供らに、田舎の子供らの勤勉力行のあかしを説いていた姿を、今もありありと思い出します。

文字通り慈父の面影をもたれた森校長も、晩年は脳溢血症状の中で、毎朝、五ヶ堰から富士見台団地間を、御散歩なされ続けられた斗病の姿に、私は一種崇高な聖者めいた感傷を持った一人であります。それらをふまえて先生の教育一家が、本市教育界につくされる御功績をも考え合せながら、本誌の一頁に記録する次第であります。

〇背をこゞめ　そゞろに歩む町裏の
　小道に今は師の影も亡し

野村訓導の死

時、昭和十一年三月二十六日未明
所　旧猿橋小学校宿直室

これは悲惨なる青年教師の割腹自殺の舞台であり、翌二十七日の地方、中央新聞は一斉にこの事件を報道した。曰く「担任児童の入

試成績不良を苦にした青年教師の死」との標題で―

前日修卒業式後の宴会を終え、若い先生方二、三が宿直室に雑魚寝をし、終夜談笑したが、野村教諭のみは、やゝ浮かぬ様であった。

それは、前日発表された都留中入試の結果が、思わしくなく、担任の野村教諭は大分悩んで居ったらしいとのことの故かも知れなかった。明けて二十六日早朝、和田義弘教諭が廊下伝いの便所へ行き、二、三分後に宿直室の障子を開けたところ、その中央に、野村教諭が短刀を突きさしたまゝ、伏せていたのである。

その鮮血は、ほとばしり壁面にまでとんでまことに悲惨な状景であったと伝えられていたし、奈良薫先生等も、前日の片付けをしようとして、早目に登校し、その惨状に会われ、今も尚、その時の思い出を沈痛に語られるのです。

野村教諭は、直情型の教師で、責任感の特に旺盛な青年教師であり、本校が新卒初の任地であり、六年生担任という重責を負い、その子らとの別れの哀しみと共に、入試不振を苦にして、あたら二十有二才の生命を断ったのでありますが、後に、有志合議して、故人の徳を偲ぶため、巨大なる碑をつくり、旧校舎の直前にそびえる三皇山頂に建立したのも宣なるかなと思われるのです。

秋風すゝきの穂を鳴らし、松籟寒風にゆらぐ今、この碑の前に立てば、教魂永久に鎮るさまに、感無量のものがあります。

○責重き教師なればと思いつゝ
　自刃せし魂呼べど声なし

○山上の碑の苔深まりて
　古き校舎の跡も今亡し

同窓生から拾う

(一) 氏名・生年月日
(二) 住所 他
(三) 職・官・軍歴等
(四) 位階勲等・受賞
(五) その他

調査推薦者三〇名中より
ご回信戴いた方のみを
載せましたので不備の点を
お許しください。

同窓生から拾う

(一) 奈良重威　慶応二年二月十七日生
(二) 昭和二十九年十二月六日　殿上の自宅にて没
(三) 昭和二十年　家業の陸送業につく
明治三十五年　中央線開通により、駅前に内田通運ー丸通ーを開業
大正二年　都留電灯株式会社支配人
昭和六年　会社々長
昭和十一年　北都留乾繭組合長
若年の頃北都留都役所に勤務
大原村長等歴任
昭和二年　山梨県議会議員に当選
昭和六年　再選される
昭和八年　県議会議長となる
(四) 政経両面に、輝かしい経歴を持つ人で、特に、郡内より出て、県議会議長をつとめた人はまれであって、在職中硬骨政治家として大いに活躍された。
○　ビリケン型の風ぼうは好き翁なれど、鉄石に似し意志の尊き

百歳の老翁をしのぶ

(一) 杉本彌太郎翁　明治元年十二月　朝日小沢に生れ
(二) 昭和四十二年十一月没
幼少の時、水戸の士族竹谷先生の厳しい教導を受け、日清戦争の頃、二宮尊徳にあこがれ、報徳宗論者となる。次いで日露の役に際会し、高木医博の教えに共感。口に三慾（酒・たばこ、茶を呑まぬ）。身に四制（帽子・えり巻。手袋・外とうを身につけない）。を終生実行し抜く。
(三) 昭和四十年　北都留郡会議員
大正八年　大原信用組合長
大正十二年　大原村長になり、大震災のさ中、旧猿橋小、藤崎分校、小沢分校の新・改築を成しとげる。
昭和三年　相互園の庭を開放、青少年の寒げいこを奨励する
昭和九年　修養団講習会を心月寺に開く
昭和十一年　猿橋町長となり、社会浄化と、町政運営の二筋道を邁進する。
昭和二十七年　相互園内に「朝露庵」を建て、古紙を用いてその持論を書きとゞめ、朝露を踏んで各戸に配り、又、市内外小中高校を巡って、修養の道を高らかに叫ぶ。その姿は、今日蓮のおもかげあり。
昭和三十年　米寿の祝に　天野知事より「百寿の書」をいた

だく。

昭和三十一年　「人生行路、人生旅行随筆集」を刊行する。
昭和三十三年　「成人経」を印刷配布する。
昭和四十年　「在学徒不良化防止いろは集」を印刷配布
〃八月三十一日　山梨放送テレビに、天野知事と共に出演する
〃十一月二十三日勤労感謝の日、猿橋町主催「杉本翁長寿を祝う会」を農協ホールにおいて、志村市長臨席のもと盛大に開かれる。
昭和四十二年　中央線複線化の犠牲となり、住みなれた「朝露庵」に別れる時、猿小の児童たちに、パンの贈物をされたりして後、幾何もなく、関屋の旧線路傍の愛しつゞけた翁の花壇の、花の散りゆくごとく一生を通して、政教二筋道に猛進した巨木は遂に倒れ去ったのです。

○ 救世の大日蓮をしのばせる
　翁の声音今峡に消ゆ

㈠ 大原長之助　明治十五年五月三日生
㈡ 猿橋町桜町居住　昭和三十一年九月没
㈢ 本名は長幡坦造で小沢生れ、十八才にして岩井染八、染次一座に入り、二十才の時染次と結婚、大原村の名をとり大原長之助を名のり、全国を巡遊して演劇公演をつゞける。その間、映写技術を身につけ、映画と演劇を組合せた、いわゆる運鎖劇を上演して、かっさいを拍す。大正天皇御大典の状況も、特別撮影を許されるなど、なかなかのアイデア師だった。年に二・三回は故郷「白猿座」にもどって、町民にその演技を示した。なお、甲府で開催された山梨平和博覧会に出演し、初めてテレビ出演したことは特筆すべきことで、郷土が産んだ芸能人ともいうべきでしょう。

○ 死に近き時も忘れぬ「せりふ」云う芸の虫かよ大原長之助

㈠ 仁科義男（号義比古）　明治二十一年八月五日生
㈡ 猿橋町小柳にて　昭和十八年四月十九日没
㈢ 明治薬学校卒（現明治薬料大学）
　北都留小中校ＰＴＡ連合会長
　山梨県ＰＴＡ連合副会長
　日本考古学協会々員
　猿橋幼稚園長
㈣ 日本文化財保護功労者表彰状を受く
　勲五等瑞宝賞、山梨県文化功労賞、従六位

㈤ 「甲斐の考古」一・二・三編
　「甲斐の先史並原始時代の調査」
　「考古余滴」上・下
　「郷土原始文化遺跡分布図」
　「山梨県の文化財」

○ 考古学は仁科翁というくらいの有名人、その反面、教育面の活躍もめざましく、昭和二十六年全国教職員待遇改善を、県代表としてマッカーサー司令部に陳情したこともあった。

○ 山羊ひげを幼なき子らは慕いけり
　町の巨木の倒れたる日も

㈠ 杉本美治　明治二十四年七月二十日生
㈡ 猿橋町小倉にて　昭和四十五年二月没
㈢ 大月高等染色学校（旧都留中前身）卒
　大原村議、猿橋町長、同消防団長、大月市助役、大月市教委、猿橋農協組合長四期、北都留農協会長、県農協中央会理事、同経済連理事、郡養蚕連会長、猿小建築委員長
㈣ 県知事より地方自治功績表彰を受く
㈤ 口さがない町民が、ささやく。「今の猿橋には大物がいない」のことば、その通り猿橋町最後の大物とも云えるのが、杉本おじいの愛称でとおった美治氏で、父順作氏も村長、その毛並の良さは随一とも云えよう。
　冗談ばかり云っているが、なんのなんのその芯は、全く偉大なもので、寝業立業両刀使いで、惜しい政党人、産業人として仰がれている人です。

○ すこやかに小倉の坂を登りゆく
　君こそ町の宝なりけり。

㈠ 知見　敏　明治二十四年三月十五日生
㈡ 神奈川県泰野市小神町一〇一七
㈢ 陸軍士官学校卒業
　終戦時三方原教導飛行団教導隊長
　社団法人国際観光設備協会副会長
　日本病院設備協会監事
　日装建設株式会社社長（現在）
㈣ 従六位勲四等　航空兵中佐
　運輸大臣表彰受賞
　「観光設備シリーズ第六巻」「木造建物の改造」等著述
㈤ 生家は幡野の下つ原、永太郎三男、高小卒の学歴から、代用教員、現役志願、陸士入学のコースを選び、戦中は、ガス研究の三羽烏の一人とも云われたが、現在は、全く方面違いの、旅館改造専門の業界の雄として活躍中である。

○　銀翼を陽にかゞやかせつふるさとの
　　空飛ぶ人を仰ぐわらべら

㈠　金丸孝義　明治三十五年五月二十五日生
㈡　東京都千代田区平河町一ー二ー九
㈢　猿橋尋常高等小学校卒
　　昭和二十二年　千代田区々会議員
　　財団法人東京都環境衛生協会理事
　　東法協会々長　双葉　金材商事会長
　　千代田区選挙管理委員長（五期連続）
　　山梨県人会千代田区会長
　　東京都経済連合会々長
㈣　昭和四十年五月　都知事表彰
　　昭和四十三年十月　黄綬褒章受賞
㈤　小田の旧家、金丸徹来氏の長男に生れ、高小卒というハンデを背負いながら、勇躍して東京都に出、刻苦勉励して、事業に成功すると共に、前記の如き、自治体役員、業界並に県人会等の要職にあり、現在なお活躍中である。

○　大東京の真只中に輝やける
　　君がいさおぞ尊かりける

㈠　川村　孝　明治三十七年六月二十三日生
㈡　東京都豊島区目白四ー一五ー八
㈢　日本大学法文学部英法科卒
　　国税庁調査々察部査察課長
　　新日本製鉄株式会社監査役室専門部長
㈣　正五位勲五等
　　紺綬褒賞受賞
㈤　殿上川村家の三男、幼少の頃より英才の名高く、大学卒后、国税庁に入り、昭和二十五年課長退官後、本年まで新日鉄の監査役室専門部長として、日本実業界の要となられた方で、同窓の中から、紺綬褒賞を受ける方等はまれであり、猿小の名誉でもあることを思い、後輩の御指導にお力添えを希う次第です。

○　秀才の兄弟（はらから）二人それぞれに
　　道異れど名を残しおり

㈠　水越　仁　明治三十八年三月二十五日生
㈡　猿橋町小沢三六五（田中）
㈢　猿橋実業補習学降卒
　　農業　兵役（海軍）猿橋町役場書記
　　北都留郡甲斐絹同業組合勤務　応召　後員　大月織協書記　同連合会書記長　同参事　県絹人絹繊維同業組合理

事　同所退職後顧問（通算四十一年）
㈣　県中小企業団中央会表彰
　　山梨県知事表彰
　　全国中小企業団体総連合会名誉総裁賞
　　黄綬褒章受賞、県政功績受賞
㈤　郡内織進展のために、四十一年を捧げた功により、右に記した栄誉をうけたのであるが、只録々の勤務ではそうは行かぬもので底に秘めた研究心と、情熱の賜であることは、今時の若い方々への人生訓の鑑とも思われる次第です。

○　四十余年甲斐絹に命捧げ来し
　　君の栄誉ぞ尊かりける

㈠　知見鬼三　明治三十八年四月二十五日生
㈡　京都市中京区聚楽廻南町三十八番地
㈢　中央大学専門部経済科卒
㈣　中京消防団長、中京中ＰＴＡ会長、朱雀第六消防分団長
　　同少年補導委員長　西陣司法保落委、日本糖尿病協会副理事長
　　京都糖尿病協会理事長、みどり会理事長
　　中華製麺卸棣鄂開業、同西陣店開業、同京極店開業
　　同寺町サービス会館経営、三条柳馬場ＹＭＣＡ内棣鄂店開業
　　瑞穂飼糧株式会社運営等　京都実業界に雄飛

㈠　藤本　哲　明治三十九年六月二十二日生
㈡　東京都杉並区荻窪一ー三三ー五
㈢　都留中卒、法政大学専門部法律学科卒
　　卒業後大蔵官僚の道を歩み、大蔵省東北財務局長を最後に官界を去り、現在社団法人全国相互銀行協会専務理事
㈣　特になし
㈤　本町が産んだ明治の逸材、小篠の藤本倬照翁の次男として生れ、父君そっくりの風ぼうのまゝ、大蔵畑に身を投じて、前記のようなエリートコースを歩んだ方で、猿小まで小篠からの四キロにも及ぶ道を毎日通学しつつ、柔和の典型、君子の鑑とも評される存在であったことを常に想記して、敬慕の念を禁じ得ないものがあります。

○　大人の風ぼう常にあこがれの君を迎えしクラス会よき
　　「ヨーロッパ旅行記」「アメリカ紀行」「夢のヨーロッパ紀行」発刊
㈥　幡野松屋の産、苦学力行の範として、異色の逸材、京阪神山梨県人会においてもその名は知られ、知旦家同族会の生みの親として毎年二百名程の総会を主催する精力家。

○　刻苦こそ人間大成の範として
　　郷党の鑑と仰がるゝ君

薄倖の詩人吉川行雄氏

明治四十年生れ、吉川活版所の長男として生まれたが、小学校三年生頃から、全身まひの奇病にかかり、昭和十二年没するまで北原白秋門下に入って、童謡作家となり、赤い鳥に作品を発表し、著書も数冊を数えた。

吉川書店の二階の窓からのみ見ることの出来なかった、天分豊なこの吉川君の自然は、童心そのままの鏡に美くしい映像となって次々に佳作を生んだ。

ここにその代表作をのせて、故人をしのぶこととする。

三　日　月

びわの花　いたちっ子
お瀬戸　ほう　ほ
三日月　うまやに
冷い。消えた。

（昭和三年　赤い鳥）

うすい月夜

(1) うすいおぼろに　いぶされて
　　月は魚に　なりまする
(2) ほそい木にいる　たんちょうも
　　とろりとぼけて　飛びまする
(3) 風にふくれて　ふわり来て
　　とろりお羽が　消えまする
(4) うすい月夜の　れんぎょうは
　　白い羽虫に　なりまする

（昭和四年　赤い鳥）

(一) 山口明男　明治四十二年十二月二十一日生
(二) 大月市大月一丁目一六－三一
(三) 旧制都留中学卒業
　昭和十六年より牛乳業、かたわら、昭和三十四年より大月信金専務理事として現在に至る。
　大月消防団長、県防犯協会副会長
　大月市教育委員長　県教育委員長
　関東防犯協会副会長（現在）　大月短大運営委員長
　同附属高校P会長　大月野球連盟会長
　青少年大月市民会議会長（現在）
(四) 従七位勲六等旭日章　県政功績賞
(五) 性温厚にして、敵をつくることなく、福徳円満の鑑とも思われ政教両面において猿小が産んだ逸材と、自他共に許してはゞからないものがあることを付記します。

○　丸やけき心の描く足跡を
　　拾いつ君の先をことほぐ

(一) 奈良武衛　大正元年十月二十八日生
(二) 東京都小金井市東町三－一二－一八
(三) 日本大学専門部法律科本科卒
　大蔵事務官　大宮税務署長　淀橋税務署長
　関東甲信越国税局直税部所得税課長
　東京国税局総務部人事課長　京橋税務署長
　東京国税局調査第二部長　高松国税局長
　退職後税理士開業中
(四) 特になし
(五) 小倉三皇山　奈良家の出で、幼小より秀才の誉高く、日大卒後は、税務関係の最エリートコースを歩み、その敏腕は、正に大東京に鳴り響いたことゝ思われ、猿小の誇る逸材たるに恥じないものがあります。

○　官界に残せる功数うべき
　　指も足らざり偉なる君はも

(一) 羽田千年
(二) 埼玉県岩槻市諏訪町三－五－三〇　〒〇四八七－三九四一
(三) 昭和五年　東京美術学校入学、彫刻家朝倉文夫、小倉右一郎に師事
　昭和十四年　聖戦美術展「平和への労苦」賀湯宮御買上、その後文展（現日展）に入選すること実に十七回
　昭和二十四年　遂に日展委員となる。
　代表作品、横浜セントジョセフ学院内にある日本一の大理石像「ファチマのマリア像」および、府中カトリック墓地の「悲しみのマリア（ピエタ）像」
　なお、最近、富士吉田市民会館前庭に「女神像」建立
(五) 氏は、富士吉田市の生まれであったが、家業の都合により、猿橋町小柳に在住し、猿橋小卒業後、前記の如き異色の芸術家として御活躍中であり、かって母校（旧校舎）の玄関に飾られ、同窓生諸君の思い出にも残る、武人像、女神像の作者であります。
　なお、その代表作を巻頭グラビアに掲載させていただきました。

○　名工の誉を産みし学び舎の
　　今の変幻を君如何に見む

(一) 梅沢敏夫
(二) 東京都目黒区大橋一－六－一四　〇三－四六三－七二一一
(三) 猿橋尋常高等小学校卒
　幼少の時より不遇の家庭に生まれ、刻苦勉励の気宇を養う。
　高小卒後少しく農業等に従事、後軍隊に入り大東亜戦に従軍す
　終戦後　復員のコースを辿り、家に帰りしも職無く遂に意を決して、単身リュック一つを背負い上京す。

最初に就職したのが八百屋、数年を経ずして独立し、福神漬製造をはじめる。

山梨の山、梅沢の頭文字「う」をとって、「山う商店」と屋号を定め、着々と業績をのばし、東都漬物業界の雄となる。

現在は、年高二十数億を挙げ、東京本社、静岡、大阪支社、群馬工場等に従業員約百名を擁す。

郷党のために公共寄付を重ねること数知れず。特に子飼いの店員四名を独立させ後進に光明を与えることに努力する特異的実業家。田中の産にして、同窓生中の異色として推す次第である。

○　家貧うして出でし孝子の鑑みぞや

君が立志の道の尊き

(一)　富岡幸雄　大正十四年三月二十日生

(二)　東京都杉並区高円寺南五ノ三五ー二〇

電話　東京三一二ー〇二三〇

(三)　横浜高商（横浜国大経済学部）　中央大学法学部　中央大学商学大学院了

国税庁　東京国務局　大蔵事務官　国税実査官

中大教授　カルフォルニア大学客員教授

中大経理研究部長　中大商学部会計学部会委員長

中大評議員　日本商工会議所税制委員

日本税務会計学会顧問　その他多数

(四)　日本会計研究学会賞

「税務損益論」「租税節約の話」「報酬賞与の税務会計」

「税務会計要論」「税務会計入門」「税務会計総論」

その他枚挙に暇なき程多数

(五)　殿上の富岡家の出で、英才の誉高く我が国税務関係の大権威者であり、郷土出身の学界人としては、まことに偉大なる人材であり、猿小の後輩のあこがれの的である。

○　学界の最高峯に立つ人を

子等仰ぎつつ学べと希う

默々と下積みの力

義勇軍の思い出

海山交歓回想

小俣常吉

藤本時次郎

須藤伊作

白川大吉

他

小俣常吉氏を悼ぶ

昭和初頭以前より、猿橋小学校の名物小使いとして、まことに風変りな「ひげのおじいさん」が勤めていた。真黒なあごひげが見事に伸びて日やけした顔の半ばを埋めているが、その瞳は全く童のように柔和そのもので、一年生から高等二年生まで、「校番のおぢいさん」という愛称で慕っていたものです。

やんちゃ児童が、どんなにいたずらをしても、決して怒ったことのない常吉老は、何年たっても同じ年輩を続けていて、勤続数十年昭和二十九年四月春まだ浅い日に、眠るが如き大往生をとげられるまで、「ひげのおぢいさん」で通された不思議な人物だったようです。

その「おぢいさん小使」が　どえらいことをやってのけたのが、昭和五年のことです。

猿橋小には、御真影奉安所がなく、尊い御真影の管理には、歴代校長や教師、使丁が、日夜神経をすりへらしていたのでしたが、何を思ったのか、常吉じいさんが、「おれが奉安所を造ってやろう」と言い出してあれよあれよという間に、花崗岩作り、銅板屋根の、まことに見事な奉安殿が出来てしまったのです。しかもその費用は驚くなかれ、当時の金で実に壱千五百円（その頃の教員の月給が四十五円位）の巨額であったのです。その寄行というか、大篤行というか、驚天の壮挙に対して、その竣工式には、知事代理、県議等が参列して、常吉氏の徳を讃めたゝえたものでした。

それかあらぬか、当時の新聞も之を大きく取り上げたし、常吉老が亡くなられた時、昭和二十九年四月二十七日の葬儀は、異例の猿橋小学校葬によって盛大に行なわれたことも、また宜なるかなであります。尚、常吉老は、他にも己の菩提寺の妙薬寺の鐘楼堂も寄進されたし、全く今の人々の鑑ともなる話です。

○しっ黒のひげの翁が今そこに
　呼びかくる如し校舎跡地は

「時さん」回顧

明治の末頃から、昭和の中頃迄、数十年の久しい間、藤崎分校の名物小使いを勤め通した藤本時次郎さんを、今の四十代から上の人々は、時々思い出すでしょう。

時次郎さんは「時さん」という愛称で通っていた。小田の実家から、お宮の前の校番室まで、風雨も何のその、人一倍小柄でづんぐりした身体を運んで来たり、本校との使い走りに一度も嫌な顔をすることもなく、年中無休で勤めていたものです。「時さん」は眼が悪いので、いつも遠くを見る時に、手を頭にかざすくせがあったので、口さがない童共は、よく、「時さんがやってくる、頭かゝえてやってくる」と天人の羽衣の節で冷やかしていたことが、ありあり

と思い出されるのです。

学校で急に病み出した子供が出ると　時さんは、その巾広い背中をひょいと突出して、「先生、わしがおぼってきやしょう」といって、小篠でも、津成でも、すたすた行ってくる。風邪でも流行する頃になると、大体一日に二・三回はこの仕事がとび出してくる。時さんは決していやな顔をしない。全く藤崎分校の名物者ともなっていたものです。

その勤続年数も四十年近く、身体は丈夫で先ず病気で休んだこと等は数える程しか無かったようでした。

どこの社会にも、下積みで、浮ばれない人があるものですが、時さん等は、愛すべき下積男と評してもよい方と思い、退職金は雀の涙、月給も雀の涙、涙々の中で笑顔を浮べ、どんな仕事もすぐやる男、それが「時さん」の人物評と言えましょうか、特に今も思い出すのは、本校へ式のため、全児童が出た時、二人も病人が出て困った時、この「時さん」は一人で二人の子供をおぶって帰ったというエピソードさえあるのです。「時さん」よ安らかに。

○「時さん」が雪かきつ来し小田の道を
　登校の子等の列つゞきくる

天神山のおじいさん

愛称「天神山のおぢいさん」で通った須藤伊作さんは、昭和の初期から昭和三十七年頃まで、実に四十年近くを、黙々として小沢分校の小使いから小沢小の小使へと勤め上げた、縁の下の力持的存在の方でした。

辞める時の年令が、実に八十有七才という、全く驚くべき高令な使丁であって、一寸例を見ないデーターであることも当時の話題となったものでした。

黙々として四十年、先立たれた妻女の方がなかなかやり手で、首を振り振り伊作さんをやっつける風景も時々見かけましたが、それでも伊作さんは、柳に風と受け止めて、いつもニコニコしながら子供に接し、職員に接していたのが今もほうふつとして眼に浮びます。

ほの暗い小使室は、冬は日蔭で冷房、夏は炎をはらむ暖房となる四畳間で、伊作さんは、そこに坐っていることは、ほんとうにまれでした。――というのはまことに働き者で、学校の用が一寸でも暇になると、天神山の畑仕事へとんで行く程であったし、又、本校と分校の往復が小二時間もかかるのを、一日も二回も三回ものことがあるからです。でも伊作さんは、一言も不平をこぼさず、やりとげて来た異常な健康の持主であったからだと思います。

その伊作さんも、長い使丁生活にピリオドを打ってから幾何もなく、不帰の客となってしまわれました。頭のてっぺんから、足の爪

先まで、真面目の見本みたいな伊作さんの終末もさぞかし、真面目な大往生であったことと思っています。

伊作さんの眠っている天神山の墓所に、夕映えの輝やく時、今廃校となっている小沢の校舎をもう一度活用して　何らかの教育の場としたら、伊作さんの四十年間住んでいた霊にも報いられるよう思えてならないのです。

○老木の倒れんとして尚強く
　勤め続けし使丁思ほゆ

義勇軍をおもう

白川大吉
（小沢在住）

校庭の東端の奉安殿の前の朝礼台上で、県民服に黄金色と紫紺色の儀礼章をつけた町長正木亮三。ヒットラーひげの山中信俊校長、以下、町内各種団体長、青年学校、小学校生、その他もろもろの大群衆の中に、満蒙開拓青少年義勇軍参加の二少年が立っていた。

時これ、昭和十六年二月三日、くもり空の校庭の老桜の下の地蔵さんの赤い前だれを、如月の寒風がゆすっていた。同時志願四名中私達先発二名の壮行会である。高小二年、三学期半ば卒業式もせず五族協和という美名の下に、涯なき満蒙の広野への旅立ちであった。涙にかすむ眼に今も残るのは、エブロン姿に白だすきの国防婦人会長、奈良きえ（重威氏夫人）さんの「うき事の尚この上に積れかし限りある身の力誠さん」の短歌に心をうたれた。猿小のブラスバンド、塩屋の久雄ちゃんの大太鼓のバチ一せん、私と花孝君は、山田政雄先生と並んで猿橋駅にむかい、汽笛一声、西え西え、酒折駅を過ぎ、その夜宿った甲府の宿でのラジオから流れる「めんこい小馬」のメロデイーが、山梨中隊二百名の心にノルタルヂヤーをかもしたこと、内原訓練所生活の厳しさ、そして果てなき北満の開拓へと、紅顔の否、童顔の子供等を駆り立てた国策とやらを、学制百年の発足当時の誰が予想したであろうか、白黒刷りの、ハナハト、が、サイタサイタに変わり、軍国華やかな時代に生まれ合わせた私達は、その全体主義・国家主義に、一つの疑念を持たず、「ほしがりません勝つまでは」どこではなく、一身を投げ出して、死生の境をさまよったことを不思議さえ思っている。幸いにして九死に一生を得て今ここに平和と民主の花さく時代に生きていて、今の子供等のしあわせを希うと共に、教育の正常化、教育の重要さ、等々をしみじみ感じつつ、ペンをおくものである。

海と山の学校交歓会記

山の子は海を、海の子は山を　　と互いに相あこがれていた子供心を、いみじくも十年の間、太いきずなによって結びつけて来たこの快挙は、当時地方新聞にも再三報導されて、大方の人々に一種の感銘を与えたものでした。

昭和三十五年の初夏、千葉県鷺沼小と、山国猿橋小とが、相互に二泊三日、六年生全員を交流させ、或時は合宿に、又或時は分宿にと、海と山との独特のムードを満喫した十年間、その後は、遂に杜絶えたものゝ、父兄の交歓により尚、ほのかな縁の糸を結びつゝあることは、本校百年の歩みの中に特筆すべきものであることを思いここに第一回の思い出を誌すと共に、当時交歓された方々の記をも併載することといたします。

○汚れなき千葉の浜砂堀る子等は
　一夜の友情兄弟に似つ

○校庭のキャンプファイヤー赤く染む
　鷺沼の夜空に武田節流る

○富士に向うバスの窓より鷺沼の子ら
　高らかにうたう「我は海の子」

○「猿橋」下の桂流冷たしと
　声上ぐる海の童らは天使の如し

☆　☆　☆　☆

○県木の楓と楓を交し合い
　海山の親ら共に歌える

○十有年過ぎ越す今も忘られず
　文通し合う海と山の子

○かにかくに忘れがたなき海山の
　心のきずな示す「海苔舟」

特別寄稿

山彦海彦の交歓会

千葉県鷺沼小卒業生　広瀬　孚

鷺沼という小さな町以外は、何も知らない私達にとって、山梨の猿橋という土地は何か他国のようにも思え、その交歓第一回の出発の一週間、いや一ヶ月も前から、全く「心うきうき」の連続であった。

やがて、待ちに待ったその日が来て、笑顔、笑顔の集団は出発したのであるが、汽車での長旅は、始めての者が多く、都会を抜け、川を渡り、トンネルに入り・・・・と次々に現われる光景に目を見

張り、心を躍らせる旅であった。

猿橋駅に着き、先づ目についたのは、「家の造りの違い」と、駅前広場の右側にあった「実をつけた梨の木」であった事が、まことに印象的で、今にまぶたに浮んでくる。

最初は「嫌だなあ」と思っていた分散宿泊も、今にして思えば社会という現実を味った最初であったかに思えて忘れられない。

又、山の雄大さ、川の美しさと恐ろしさを知ったのも之が初めてである。

山彦（猿橋小の友）達が、何の抵抗もなく遊び回る川の流れ、岩の苔・・・　なのに、海彦はその流れ、すべる苔がこわくてとまどったことや、これとは逆に山彦達が、海へ来られた時の・・・・海彦には何でもない海なのに、山彦達は、貝がらが気になり恐る恐る歩く姿、そしてバカ貝を夢中で掘り喜ぶ姿等々・・・・・それらは十数年経てもくっきりと心に刻まれている。

今はあの海岸も遠く埋め立てられ、立派な住宅街に変ぼうし、更に先まで埋められて工場街になろうとしている。

社会人となった今、回想すれば机の前の教育も大切であろうが、このような実際に眼で見、膚にふれる社会的教育が、伸びゆく童心にとって如何に大切であるかを痛感すると共に、このような好機会を与えて下さった当時の先生方や、父兄の方々の御労苦に思いをいたしつゝ生涯忘れることの出来ぬ「すばらしい」思い出を下さったことへの大きな感謝を捧げずにはいられないのです。

終りに、開校百年の記念誌に拙ない一文を御載せいただくことに望外の喜びを感じつゝ、猿橋小の御繁栄を心から祈念いたす次第です。

特別寄稿

交歓会の思い出

千葉県鷺沼小卒業生　伊東伴尾

時が経つにつれ、小学時代の記憶は薄れて来たが、猿橋小との交歓会の思い出は忘れられないものの一つです。

思い返せば十六年前の昭和三十四年八月「山の子と海の子の親善を深め、社会を学ぶ一端として始められたのであるが」、当時の校長田中文正先生の故郷が山梨ということで、最初に三十二年、染川小との交歓会が持たれたが、一回で立ち消えとなり、次いで新たに猿橋小との交歓会が発足し十年も続いたのです。最初は猿橋小が、鷺沼小へ来ることから始められることになり、私達は、未知の友人が待つ期待に胸をふくらませておったのです。当日は、習志野市のスクールバスが津田沼駅に出迎え、私達は校門前に全員ならんで待つ、そして到着すると一斉に拍手で迎え、先づ講堂（当時は二教室打抜きの室）で交歓を行なった。両校代表の挨拶、校歌斉唱、アトラクションと続き、最初は固くなっていたお互いの気持もほぐれて

忽ち和気あいあいのムードとなったのです。それから分宿、私の家には、田村君と和田君が泊ることゝなった。

明けて翌日は学校に集合、全員で海へ、山の友人は、潮水をなめて「しょっぱい、しょっぱい」と言うし、次は海水浴と潮干狩で楽しみ、又もやそれぞれの分宿先に宿った後、翌日も一旦小学校に集ってから、津田沼駅まで両校全員が行進し、再会を約して別れたのでした。

やがて一週間後、今度は私達が山に行くこととなり、まだ見ぬ猿橋の姿を想像し、尚、楽しい分宿の友との再会の期待に胸をふくらませて列車の人となった。

猿橋駅頭のブラスバンドの出迎え、鷺沼の校歌演奏は感激的、やがてバンドを先頭に公民館へ着く、冷えた牛乳のサービスの後、先のような交歓行事が行なわれたが、その時教えられた「武田節」はいまだに忘れられず、今もそのメロディーを聞く度に猿橋を思い出すのです。

そして、日本三奇橋の「猿橋」と、絹織物工場の見学、特に、「猿のかけ橋」のヒントには子供心を打たれました。

その夜の分宿は段中君と二人で、小宮山君の家にお世話になった。翌日バスで、富士五湖や風穴を見学し、次の日に楽しい思い出を残して帰路についたのでした。

当時、私達から始まった「山の子と海の子」の交歓会は、毎年のように新聞に載る評判でした。

私達はその主人公としての思い出を永久に忘れないのです。

猿橋小の皆さま、永久に幸あれと祈りつゝ。

歴代ＰＴＡ会長寄書

加藤洋三郎太兵山本合正三旭三落野忠幡本藤遠良奈

正木徳　小林宗　奈良義　小林勇　杉本芳　長幡一　知見茂　渡辺　藤本雄　幡野剛　落合値　藤本三　遠山正　奈良兵　加藤三

歴代ＰＴＡ会長寄書

昭和二十五年～二十八年会長　　加　藤　　洋
明治三十九年十月八日生
東京都小金井にて、昭和四十七年一月没
山梨県立都留教員養成所卒

雄志うつぼつ、一教師にあきたらず、上京して相互広告社を創設、財を成し、事あれば直ちに私財を投じて、顧みざる上、人徳円満にして、猿小ＰＴＡ会長を続けること四年、初代公選教育委当選、更に再度教委の要職につき、猿小八十周年記念図書館建設統合校舎建設等には、常に最高の私財を寄附されて子弟の育成に心血を注がれた方です。

次に、愛妻加藤まき殿の故人をしのぶ一文を付記します。

夫、洋をしのびて

妻　ま　き

主人は、人には寛大で、自分には非常に厳しい人でしたので、愚痴等をこぼしたことはありませんでしたが、只一度八十周年記念図書館の寄附募金のことで、「寄附を頂きに東京方面を廻ったが全く大変だったよ。サンマの焼けるまで玄関で待たされて、こっちは腹ぺこだったがやっとの思いでたったの二千円を何度も頭を下げて頂いて来た時は、全く情なくなった」と申しました。でも、立派な図書館が出来上がった時の主人のうれしそうな顔を、今その落成式の写真を見ながらしみじみと思い出しています。

人生は短かく芸術は長し

○にこやかに人に会うこと多かりき
　善き人よ何故か早く逝きける
○涙押えふるさとの町を出で行きし
　君今は亡したゞに淋しも
○徳積みて逝きける君のいさをしよ
　猿橋の町に多く残れる

昭和二十九年～三十年会長　　奈　良　三　郎
大月市猿橋町殿上

昭和二十九年、難産の末誕生した大月市の中での猿小は、大物会長、故加藤洋氏を中心に、一糸乱れぬチームワークで進み、その後加藤氏が、教委公選に当選したその後を継いで、会長となった私は宮田忠雄、遠山兵太両氏の御協力と会員諸氏のお力で、その大任を果すことが出来たのですが、特に思い出に残るのは、八十周年記念事業の募金で、加藤氏、藤本旭氏、小林校長と四名が、横浜まで二

千円の旅費を使って、頂いた御寄附が、三千円という奇妙なこと。式典に、児童との対話、式辞等の間に、子供一人一人の顔がよく見える様になったこと、これは人生経験の中での一つの収穫でした。その後、旧校舎実習地の買収問題中に遠山兵太氏にバトンタッチ。気がついたら、それも、二十年前の思い出となっていたようです。

昭和三十一年会長　　遠山兵太　猿橋町猿橋六一九番地

創立百周年御目出度う御座居ます。

私が、会長を御引受けしましたのは、昭和三十一年四月からの一年間でした。此の間、色々な事が御座居ましたが、一番の思い出は永年の懸案でありました狭い校庭の拡張工事のことです。

当時の小林校長先生を始め、PTAの役員の皆さま方の夜遅く迄の度々の会合、又父兄の皆さま方の勤労奉仕等による多大なる御尽力により秋の運動会が広くなった校庭で晴天に恵まれて学童父兄共々青空のもとに一日楽しく盛大に開催された事でした。

現在は、小学校も統合されて伊良原に立派な校舎が出来て各種の教育設備も整い、良き環境の下で勉学出来るようになった事は大変に喜ばしい事と思います。旧小学校跡には、幼稚園等が建っておりますが、当時の事を思い出すと感無量でございます。

最後に、関係各位の御健康と御発展を御祈り申し上げます。

昭和三十二年会長　　藤本旭　猿橋町小柳

私がPTA会長在任以前より、猿橋小最大の懸案は、校庭西側のオンボロ平屋校舎の移転補強という大事業だった。思えば、この平屋校舎は、長い間、講堂兼用に使用された思い出深い建物であったが、これあるが為に、運動場の狭さが泣き所であって、それを解消するため、旧実習地買収、校舎裏の熔岩地帯地ならし、水路補修、音楽室移転等々の大事業と取組んだことが、一ケ年を通しての最大の思い出なのです。

当時の小坂校長、その他の先生方、PTA諸役員に加えて、市教育委員会の非常なる御支援により、無事に工事も竣工して運動場も広がり、校舎全体が完全に一直線型になって、当時としては、全く画期的な、大改造であったが、これみな微力な私をお助けいただいた皆々様方の御協力の賜と、衷心より感謝申し上げるものです。

昭和三十四年会長　　落合正三　猿橋町小柳

会長選がもめて、総会流会二度、こんな事件は、二度と起らないでしょうが、故内田義仲派と、藤本旭派が四つに組んで総会流会、その渦に巻き込まれて、不精不精引受けた会長一年は、苦しくもあり、又楽しくもあった思い出があります。

その楽しい思い出は、何といっても鷺沼小との交歓会でしょう。まだよごれない美しい海上に舟を浮べて、山国の親と教師が、海の親や教師達と、夜空に映える星と、ともしびの光りの交錯する下で歓をつくしたそれは、今も脳裏を離れません。

クリスマスパーテイーに招待されて、海軍士官時代の軍歌を披露し、先生方にやんやの拍手をいただいたことも、最早、十五年の過去となったのです。楽しいムードの学校から、よい子の育つことを心から願います。

昭和四十一年会長　　幡野忠三　富浜町鳥沢二六九八（下鳥沢）

前任者大野四郎会長の後を受けて会長になったものの、PTAの役員の統一を計ることはむずかしかった。特に婦人の多いこの会は、常に対立というような底に流れるものが感じられた。更に、PTAの場を社交場と勘ちがいした者もおり、先生にオベッカを申し上げて我が子の成績によかれと願う親心か、PTA本来の、「自分も学ぼう」とする姿など小指の先ほども見られなかった、女だてらに酒を呑みたがった人もいた。あゝ、

だが一、楽しかったこともあった。千葉県習志野市の鷺沼小との交歓会、これは先方の都合か、二・三年前に中止になってしまったか私は残念に思っている。もっと心を大きくもって、海があろうが無かろうが続けることが、子供達に何かを学ばせるのではないかと考えるものである。もう一度現PTAの役員さん考えてみてはどうですか。

昭和四十二年～四十三年会長　　藤本値　猿橋町藤崎四七〇

百年祭おめでとう。

学校は地域の人々と共に呼吸し、苦楽を共にして来た。それは国の歴史の一面の縮図と共に。土地っ子の私も、その長い年輪の一部に、さゝやかな刻印を押し得た喜びをうれしく思っている。

さて、私の心に残る問題とは、複線工事に伴う通学路の設定、海山交歓十周年の池の改修工事と、意義深い両県県木の交換行事と、海苔舟と熔岩との交換等であるが、その頃「楓」のよいものが無くて

困っていると、長い間手塩にかけたよい木を快よく下さった近所の老人の人情の美しさ等であった。早いもので、あの時の子どもも今は高校三年、鷺沼小校庭の熔岩の山「猿橋の森」に学童握手の像が立ち、楓が秋毎に色づく。　それこそ、真の心の交歓のシンボルであることを、私は在任二年の強い印象として、永遠に忘れないものです。

昭和四十四年～四十五年会長　　渡　辺　　剛
猿橋町猿橋一八四

二年間、未熟な私が会長の要職に就いて、特に感じた点を挙げると、教育の力の偉大さが第一であります。

私自身、大学研究室の最後の年を迎えまして、とに角、小学校より中・高・大と楽しんで参りまして、常に感ずることは「学問のきびしさ」という事であります。しかも、その「きびしさ」は、小学校の基礎にポイントの存在することです。

在任中「あゆ」（ＰＴＡ機関誌）にも書きましたが、私はこの「学問のきびしさ」ということを、教師が導き、ＰＴＡが、そのよりよき助言者となることの必要性を痛感いたしました。要するに、教育全体系の基盤となる、小学教育の最重要性を、会長在任の生活の中から痛感し、そのことを、百一年目にはいる、猿橋小の教師やＰＴＡ会員の皆様に訴えるものであります。

昭和四十六年～四十七年会長　　知　見　茂　雄
猿橋町幡野

私が役員になった年に、十一年間の長い交歓会が、遂に中止となったことは、誠に残念と云わねばならず、一抹の淋しさが残る点です。

尚この年、校旗が新調された。旧きものえの郷愁はあっても、新らしい校旗に、瞳を輝かせた子ども達のことが忘れられない。

四十六年、会長の職についた年、時代に添った教育推進のため、乏しい予算の中からテレビ放送施設を完成したことも忘れがたい。

尚この年、六年部会長小俣　薫君の御尽力で、校歌の碑が、正門わきに建てられたこともうれしい一つである。

四十七年には、ＰＴＡ本来の活動にかえるために、予算の適正配分と、確固たる組織づくりが必要として規約修正が実現した。この頃、石井校長は、寸暇を割いて、百年の歩みを、一巻の巻物として残されたことに、深い敬意を払う次第です。

昭和三十二年～三十四年会長（小沢）　長　幡　一　夫
猿橋町小沢

すべて何事によらず、新事業というものは余程の自信と決意が必要であることは云う迄もありませんが、私も三年間、小沢小会長として、心に残る思い出を記しますと、先ず、学校の要（かなめ）であります佐藤栄次校長の教育熱が印象に残ります。

教育資材の乏しい中、しかも児童百二十人余の小規模で、地域の特性を活かし、教育の成果を挙げる道は――ということが、常にＰＴＡの議題となり、先づ音感教育向上のためのピアノ購入、続いて情報教育のための放送施設等が、家庭の理解と、有志の寄附等々の結集によって実現した喜びは、今だに忘れられません。

しかし、時流に抗しがたく、遂に統合という一歩前進の形となりましたが、私は、この会長時代の苦しみや、喜びを想起しつゝ、更に躍進しようとする猿小の子供達に、体・徳・知の三味一体の良き教育を祈念するものです。

昭和三十五年～三十六年会長（小沢）　杉　本　芳　正
猿橋町朝日小沢

教育の要諦は、不偏不覚、赤旗もファシズムも排し、無色透明こそ望ましいものと思う。私が小沢小会長の頃、ある活動家教師が赴任するらしい――という情報をつかみましたが、こんな小さい学校へ、そういう教師は好ましくない、家族的ムードが乱されると判断して、強硬に拒み、遂にその赴任を変更してもらったことが、強い印象ですが、それも、一昔前の話・・・・。そこらに転がっているガラクタでも、百年たてば値打が出ると云われる。

まして、磨き上げられた「猿小の歴史」、その尊さを考えると、その伝統に輝く歴史に、立派に肉付けされる先生方の、熱心な教育態度と、不偏不覚の純粋さとが、ミックスされている、今の猿小に対して、私は大きく万才を叫びます。

昭和三十九年～四十年会長（小沢）　小　林　　滋
猿橋町朝日小沢

ついに先頃の様な気もしますが、私が小沢小ＰＴＡ会長を勤めさせていただいたのは、かれこれ十年位前のことになります。早いもので、あの頃の五・六年生は立派に成人して社会人となられているし、当時幼かった一・二年生でも、高校卒業の年となっています。

当時の小沢小は、校舎は古く、運動場も狭く、教育施設もまた貧しいものでしたが、少しでもよい環境づくりにと、先生方と相談し校舎・運動場の整備に汗を流したものです。

尚、思い出に残る行事といえば、家族的ふん囲気の濃い運動会で、

全く小規模校の良さが、にじみ出ておりました。その後間もなく統合されましたが、通学には遠いけれど、校舎、グラウンド、屋体、プール等々の整備された現校舎に学べる今の子供達は、矢張り倖であると思うものです。

昭和四十一年～四十二年会長（小沢）　奈　良　　勇

猿橋町小沢

時代の波が、こんな山村に住む親達を動かす強さの何と大きいものであろうか、私共の子供時代は、予想だにしなかった問題として昭和三十三年以来続いた、小沢小の本栖潮畔林間学校がありましたが、山国の子供に海の生活を――という親子の念願が叶って、昭和三十八年には、六年生を逗子の海岸へ、親子共々に、海の魅力を満喫したものです。更に四十一年、私の会長となってから、もっと低学年から、多くの子供達に、この喜びを与えようと、四年生以上を沼津の浜の林の中の臨海学校へと発展し、子供達には、全く忘れがたい思い出を残したものですが、更に翌年からは、父兄も共々に寝起きして、先生と子供と親が、五徳の足のような形となって、まことに予想外の教育的効果があったことは忘れられない思い出の一つです。

昭和四十三年会長（小沢）　小　林　宗　義

猿橋町朝日小沢

昭和三年、猿橋尋常高等小学校小沢分教場という良い戒名の学校に入学、祝日等には、一里の道を本校通い、常に複式で歴史を逆にやる、地理も世界を先といった教育にたえられず、戦后独立が成立して、校長のある学校となりながら、新時代の波に押されて、児童数の激減となり、遂に伝統ある校舎と別離、猿小と統合、鉄筋校舎に学ぶ今の子供達を見ると、感無量のものがあります。

しかも、バス通学となる等、自分の頃との格差の、あまりに大きいのに、只々驚くばかりです。

戦后の民主々義教育の教育も、ようやく板について、人間形成の教育優先施策の中で、ＰＴＡの果す役割の非常に大きいことを、痛感いたし、百年祭を境にして、その御精進を切望するものです。

昭和三十五年会長（藤崎）　正　木　徳　雄

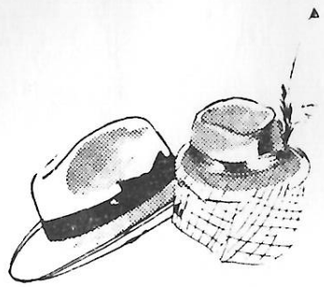
猿橋町藤崎久保

真夏の太陽の照りつける日曜日、藤崎小学校林の下刈作業の時のこと、全父兄大動員、勇ましい母親も数人交えて、ものすごい草藪を、一生懸命草を刈り、枝を払う。始めて鎌というものを持った母親たちの汗、汗の顔。そして十時の休みと、昼の休みには、世間話

に花を咲かせつゝも、「早くこの木が太って、学校の為に役立ってくれればなあ」と、口々に云ったものです。

年に一度の行事で、相当の重労働であったのに、誰一人文句を云う者も居ず、たゞひたすらに子供等のために、汗みどろになった事仕作業でしたが、時の流れに勝つことも出来ず、遂に統合となり、切角丹精の杉が、見事に成育しましたが、学校林としての存在もなくなったわけです。

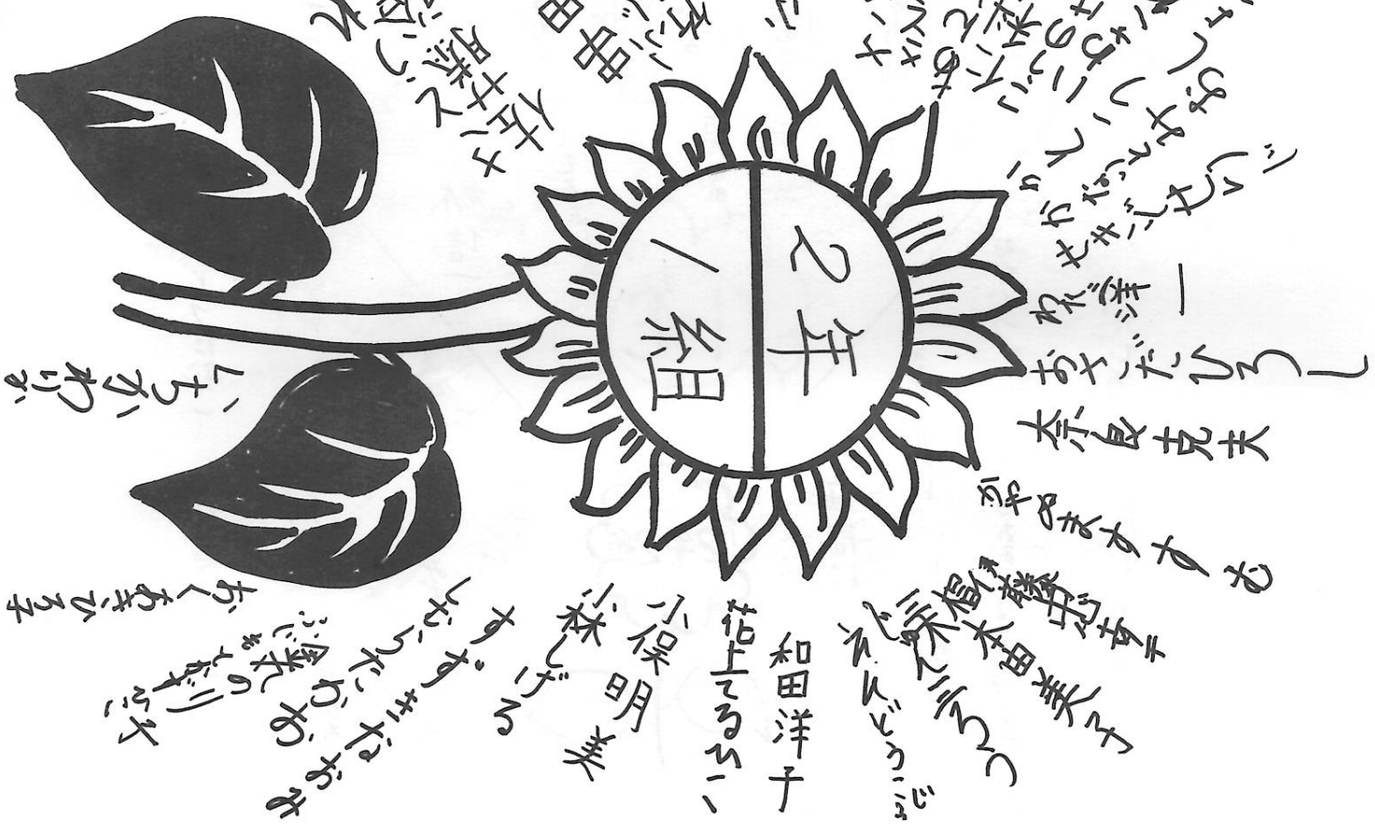
しかし、あの頃の父兄の熱意だけは忘れることが出来ません。

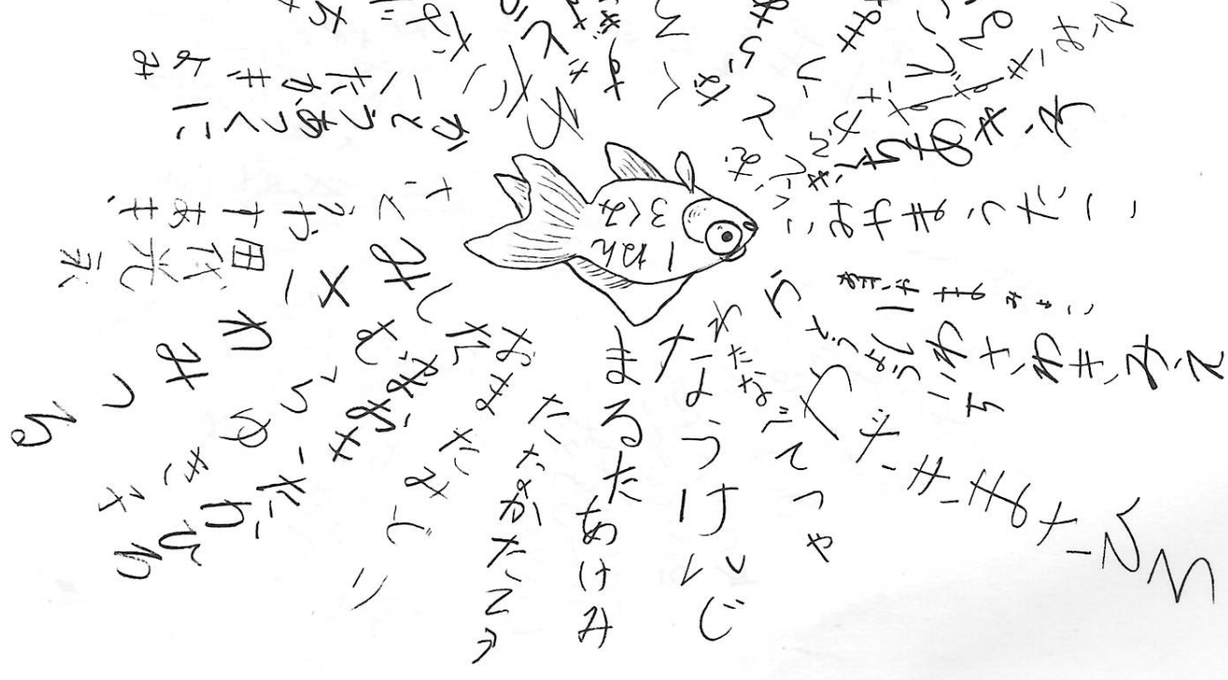


信濃と俳句
藤小

1ねん2くみ

1ねん1くみ


二年一組


いちばん
おもしろい

2年2組

風間裕

さくらさき　高山裕子

ねがいごと　こいけさき　ほそがわ

がんばりすぎないこと　ほそがわ

すずきしんご

学まこと　さくらさき

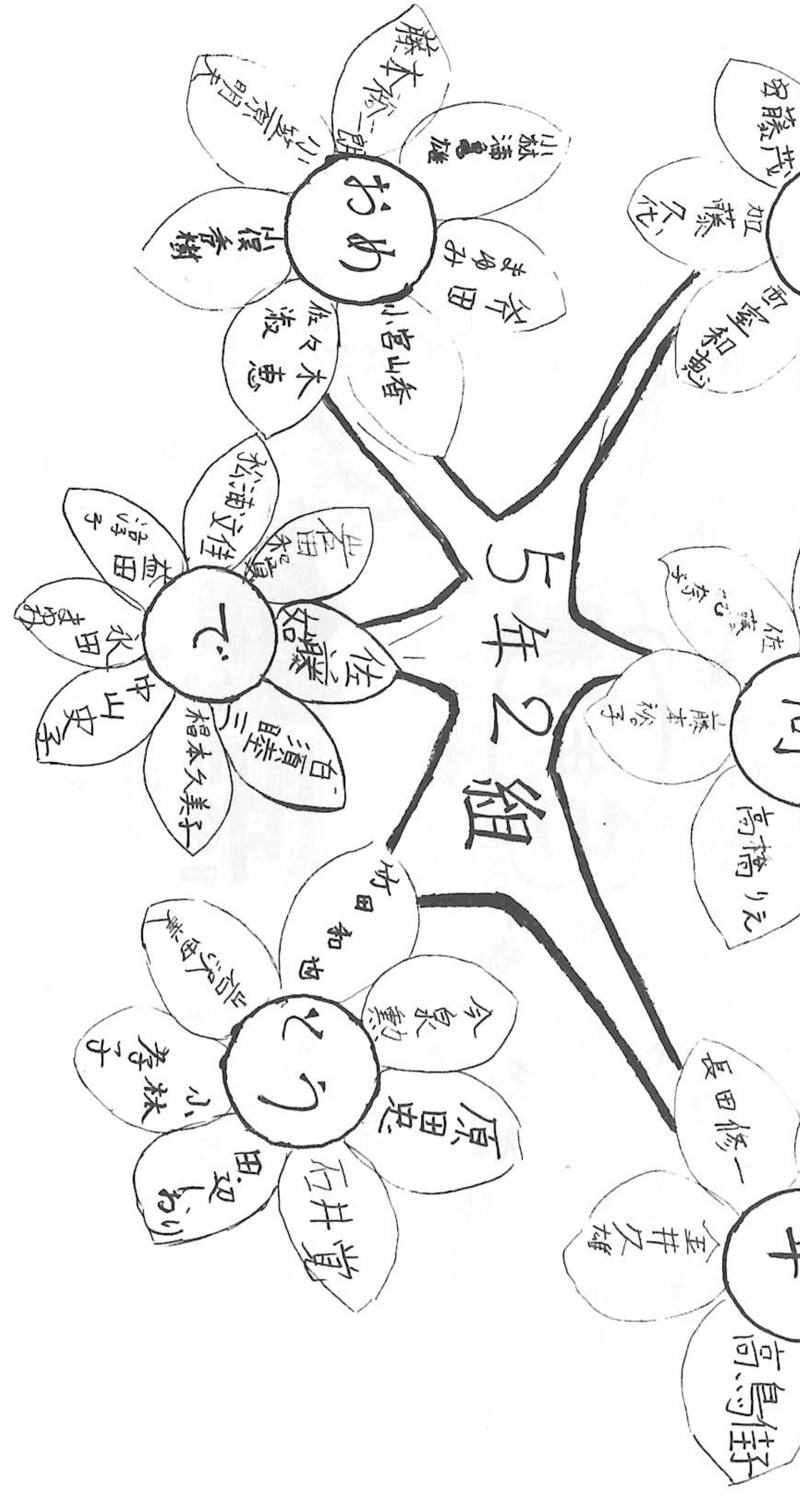
ちゃんとこと

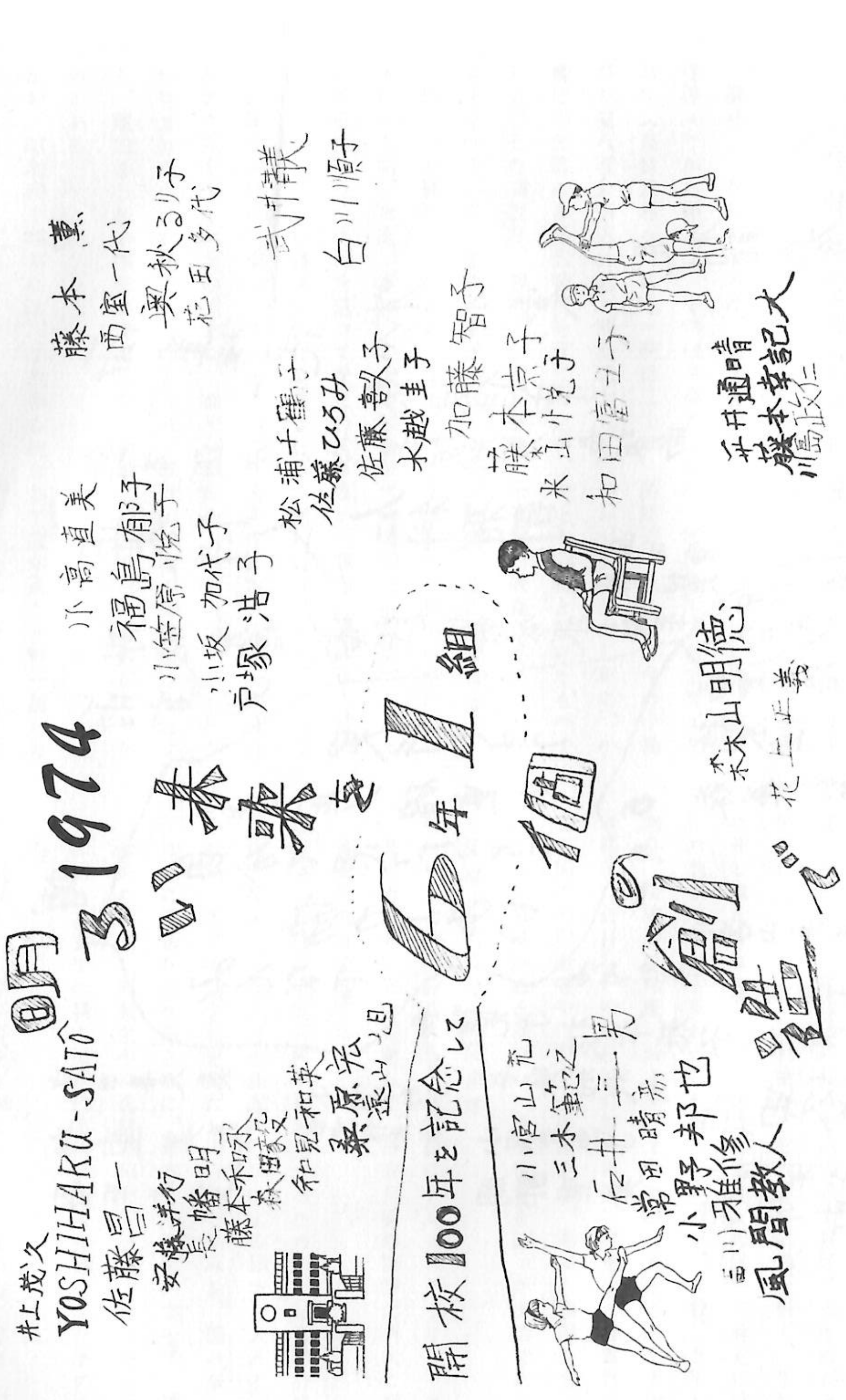
ちゃんとこと

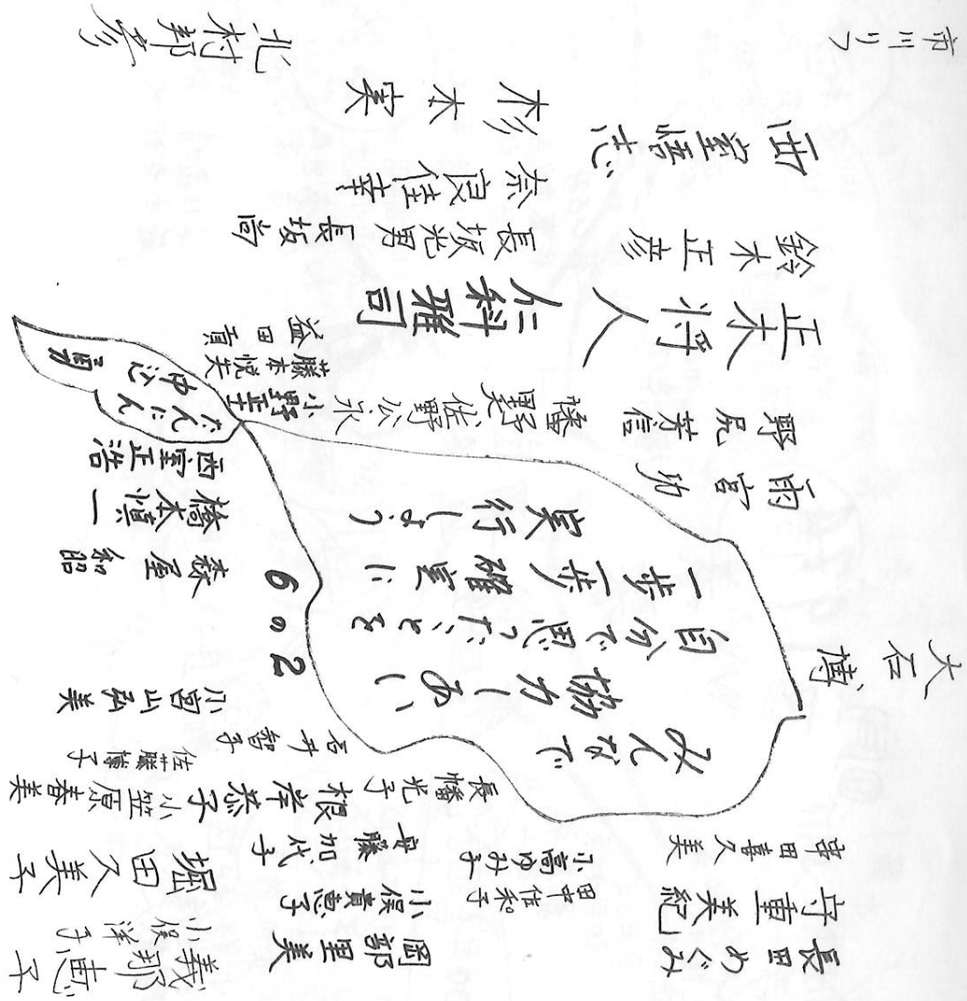
ちゃんとこと

3の2

三ねん
まつだ
なるえ
まみ
ながしま
のぐちはつみ
ながしま
ゆうこ
ながしま
ゆうこ
ながしま
ゆうこ


5年2組
百
周
年
おめ
で
とう


明るい1974
未来を
6年1組
個の創造で
開校100年を記念して
YOSHIHARU-SATO



百周年記念事業あらまし

猿橋小一世紀の歩みは、先ず寺小屋時代（心月寺、長応寺、妙楽寺等々）から始まり、小学校令発布と共に、学校敷地、校舎等が変わり（奈良五右ェ門氏宅・明治二十年　関屋辺、次には、今の小柳寿の境八百公商店付近・明治二十九年）つゝ、明治四十二年に、小柳町中央部に本格的校舎を建て、之が、大正・昭和と続いたものである。その間数度、猿橋、小沢、藤崎、小篠等の統廃合があったが太平洋戦争が終る迄は、国民学校として、藤崎、小沢を分校とし、一億玉砕の風潮の中に過して来たが、世を挙げて、自由民主の波に洗われる頃、再度、藤崎、小沢の独立時代（昭和二十四年）を迎え町内三校分立の年代を送って来たのであるが、戦后の過疎化の波には抗し難く、先づ藤崎小統合が成った。（昭和三十五年）、これは永久建築を目指す機運に乗じたもので、大月市における第一号永久校舎の誕生となったのであり、桂川南岸段丘上に堂々たる鉄筋校舎が生まれたのであって　当時の市長、教育関係者の御苦労はもとより、建設委員長の故杉本美治氏他の功績は特筆すべきものがあったのである。

なお、昭和四十四年には、小沢小も統合して文字通り一町一校となったのであるが、爾来星霜を重ねる間に、建築技術の進歩、経済成長の高度化等により、次々と建設される市内各校の近代建築の前には、見る影もない老朽化を現出して参ったのでありますが、但し、その長い年月変転極まりない猿橋、藤崎、小沢、小篠等の学窓を巣立った児童は、総合的に見ると八千名を前後するものがあるのでありまして、これらの卒業生が、それぞれに処を得て、生活し、或は病死し故人となるもあり、或は今も尚、母校の名誉をかけてそれぞれの地歩に精進するものもあるのであるが、今般、百年を迎えるに当り、現校舎の増築、および、十数年前に施設された放送施設等の老朽化に着目し、地域住民の特殊寄附、同窓生の特殊寄附、および市当局の補助金等や、ＰＴＡの積立金、等々の浄財をもって、左記のような事業計画を樹立し、之が実現を図った次第であります。

猿橋小百周年記念事業

その㈠　今後増設される予定校舎にテレビスタジオを、並びに全校舎に新型テレビを完備して、日進月歩の情報化時代に対応する教育機器の目玉とする。

その㈡　本校の生誕百周年を記念するための、記念時計塔を正門右側に建設し、現大月市長志村寛氏による題字を入れる。

その㈢　百周年記念誌を発行し、百年の歩みを、国の歩みとの連関の中に浮彫りさせると共に、現存せる旧師の寄せ書、歴代ＰＴＡ会長の回顧、同窓生中の逸材の紹介、下積生活の使丁の思い出、伝統ある猿小の誇る歴史的事実、等々を軸にしたものを刊行をする。

その㈣　学園周辺の環境整備事業をＰＴＡ中心に実施し、十一月十三日を中心に、記念式典、文化祭、芸能祭、体育祭、等々盛沢山の記念行事を実施する。

かくして、他校より稍後れた観のある本校の百周年祭は、経済変動の中での種々の障害を乗り超えて、全町民三千人の見守り、参加し、協力する中で、いともおごそかに、いとも盛大に、そして有意義に行なわれることを付記し、大方の御協力皆々様に、深甚なる感謝と敬意を捧げる次第であり、更に次の世紀に一歩踏み込んだ意識を在学児童に透徹させ、師弟一体となって、真の教育道を邁進することを、お誓いする次第であります。

学制の公布が、明治六年だというのに、どうしたわけか、猿橋のみが、明治七年生誕という、やゝ稀な（この辺、記録不備のため不詳）一年後れの百年祭とはなってしまったわけですが、そのために時あたかも石油ショック後の大インフレ時代とダブッてしまい、紙から印刷費から、高騰に次ぐ高騰、その他施設設備等も、当初の予算から倍増のうき目に会って、四苦八苦の百年祭となってしまった次第です。その中での「記念誌」編集に携わったのが因果で、この様な不本意な出来栄えになり果てたことを、冒頭にお詫び申し上げます。

さて、私共は、編集の目標を、次の三点に重点をおいて進めて参りました。

(一) 本誌の核は、矢張り百年の歩みを、最も忠実に記録することにあるものと考えました。

そこで、他校の例に見るような、細字で、しかも、一枚紙の折りたゝみ方式を取らず、国の歩みを上段に、以下管理者、校長、後援者（学務委員、教育委員、ＰＴＡ）児童数（学級数）及び学校に関連する主要記録、最下段に、各年の教職員の動きを全部集録したところが、みそであって、これは、石井　深校長の、丹精を基本にしたもので、同校長に深謝する次第です。

ただし、沿革誌の記載が、時の長の方針によって、非常な波があったために、その余震による、全編の中の違和感は、平に御許しを願います。

特に、明治年間の、藤崎、小沢、小篠等々の、離合集散の細部が不詳のため、遂にその独立時代のうち、明治年間分は、登載出来なかったことを深くお詫びを申し上げる次第です。

(二) 次に重きをおいた点は、本校（猿橋・藤崎・小沢）に籍を置き直接児童育成の職をつとめられ、今尚、御生存中の先生方、約二百名中、住所明らかな方百七十名程に、一律に、往時の回顧記録を、種々の形で表現載き、この誌を手にされる同窓諸氏が、師弟のきづなを　再現されるであろうことを希求した、旧師寄せ書であるが、百七十名の中で、御返信願えたのは、約八十名のみであったことは、誠に淋しい次第でしたが、今にして思えば、読む者等しく、五十年程以降の教育像を回想し、転た感無量のものがあろうと信じ、はるばると遠方から御返信賜った先生方に、深甚な謝意を表します。

(三) 最後には、長い下積生活の使丁や、ＰＴＡ会長職等の、いわゆる教育の裏方役をおつとめの方々の集録と御寄稿、及び大正以降の物故校長先生の寸描、尚、同窓生中の逸材や、その御略歴等を載せることによって、埋れ木を生かす術や、今後の後続部隊の奮起等に資したく、数十名の方々に、アンケート的な形で、御返信を願ったのですが、それもまた、拾い方選び方の不手際、不公平等の点からか、思う程の御返信、御通報を得られず、却って、読む者として、不快をお感じの方もあるやと危惧されますが、何卒その点は、御寛容の程お願い申し上げる次第であります。

何は兎もあれ、私共は、能う限り多数の方の御寄稿を載いて「これが私達自身の百年記念誌だ」というお考に立たれる様、努力をいたした所存でしたが、その要望は、遂に万全でなかったことを、重ねてお詫びしつつペンをおきます。

昭和四十九年十月吉日

編集委員長　川村　章
同副委員長　知見好文
外　委員　一同

(註) 表紙題字・猿橋小のみ在職二十四年、現在八十有六才の高令奈良薫先生の御執筆　カットの文字は同窓生花田　智氏にその絵は、旧小沢小在職の知見照雄氏を煩わしました。
挿入写真等は、北野光善氏を筆頭に多数の方の御支援をいただきましたので心から御礼を申し上げます。